

たり。

内閣告示第四號

今般養老ノ儀ニ付御下賜アラセラレタル  
木杯並酒肴料頒賜左ノ如シ

三組木杯 壹組

酒肴料金壹圓五拾錢

右百歳以上ノ者

木杯 壹個

酒肴料金壹圓

右九十歳以上ノ者

木杯 壹個

酒肴料金五拾錢

右八十歳以上ノ者

昭和三年十一月十日

内閣總理大臣男爵 田中義一

三 木杯到着と授與

右通牒受領後、御下賜の木杯現品は、  
總計三十一個の大箱入として九月四日府  
廳に到着したるを以て、同十一日付京都  
府名を以て宮内省に向け領收書を發送する所ありたり。

一方府大禮事務局にては、十月二十七日各區町村長を召集して、府



區町村長へ天盃授與式 (府會議事堂)

會議事堂に於て嚴かなる傳達式を舉行し、豫めその區町村の人數に  
應じて分配し置きたる木杯を知事代理石田委員長より授與する所あり  
たり。

四 再調査照會

高齢者の調査に際し、重復又は脱漏等  
を生じ、加ふるに調査開始以來數ヶ月の  
日時を經過し、其實驗に於ても餘程の異  
動を生じたる等より、再び十月一日現在  
を期し正確に調査せしむべく、九月二十  
一日付を以て内務部長より管下各區町村  
長に對し左の如く再調査の照會を發する  
所ありたり。

八十歳以上高齢者ニ關スル件

標記ノ件ニ付テハ曩ニ充分慎重御調査  
ノ上最正確ナル御報告相成居候義ト存  
候處尙往々ニシテ本籍地ト現住所ト調  
査重複シ或ハ調査洩ノ爲後日ニ至リ追  
加報告セラル、尙有之斯ノ如キハ甚遺  
憾ノ次第ニシテ尙當初御調査後ノ異動  
モ不尠義ト存候條來ル十月一日現在ヲ期シ更ニ實地ニ就キ最正確ナ  
ル調査ヲ遂ゲ其ノ現在數ヲ左記様式ニ依リ(高齢者異動アルトキハ

其ノ異動報告ト共ニ)十月十日迄ニ御報告相成度

尙本件實地調査ニ付テハ所轄警察當局ト御協力ノ上遺憾ナキヲ期  
セラレ度

區町村名	百歳以上	九十歳以上 百歳未満	八十歳以上 九十歳未満	計

右と同時に内務、警察兩部長の連名を以て、各警察署長に對し、「高  
齡者調査に關し區町村長より申出ありたるときは、調査上遺憾なき様  
御協力相成度」との通牒を發したり。

五 奉授式次第と注意

木杯並酒肴料下賜の内容、奉授式の次第と注意事項につき、十月十  
九日付内務部長名を以て、市町村長に對し左の通達する所ありたり。

高齢者ニ對シ木杯並酒肴料下賜ノ件

本年大禮御舉行ニ際シ歷朝ノ嘉例ニ依リ即位禮當日ヲ以テ養老ノ典  
可被爲行高齢者ニ對シ左記ノ通木杯並酒肴料ヲ下賜可相成趣ニ就テ  
ハ本年三月十三日禮總第四五號照會ノ資格者ニ對シ當日一齊ニ本人  
ニ下附相成様致度尙之ガ賜與ノ方法ハ別記ノ通御取計相成度  
追テ木杯並酒肴料ハ不日參集ヲ求メ交付ノ見込ニ付御承知相成度  
一、八十歳以上ノ者

朱塗木杯小壹個

酒肴料金五拾錢宛

一、九十歳以上ノ者

朱塗木杯大壹個  
酒肴料金壹圓宛

一、百歳以上ノ者

朱塗木杯三ツ組壹組  
酒肴料金壹圓五拾錢宛

(別記)

- 一、奉授式ノ舉行ハ即位禮當日タルコト(十一月十日)
- 但シ時刻ハ適宜ニ取定メ差支ナキモ當日午前九時以後トスルコト
- 一、式場ハ市役所(又ハ區役所)町村役場若ハ小學校其ノ他適當ノ場  
所トスルコト
- 一、奉授式ヲ掌ルベキ者ハ市長(又ハ區長)若ハ町村長タルコト
- 一、奉授ヲ受クベキ高齢者ハ即位禮當日ニ於ケル生存者(午前零時)  
タルコト
- 一、奉授ヲ受クベキ者ハ不得已事情アル者ノ外ハ本人ヲ出頭セシム  
ルコト若シ本人病氣等ノ爲當日出頭スルコト能ハザル場合ハ近親  
ノ者ヲシテ代テ出頭セシムルコト
- 一、服装ハ不敬ニ涉ラザル程度タルコト
- 一、式場ニハ成ルベク官公職ヲ有スル者、名望家等ヲ參列セシムル  
コト
- 一、木杯並酒肴料拜授ノ御禮ハ本人ヨリ市(區)町村長へ申出ヅルコ  
ト
- 一、市町村長ハ右御禮ヲ取纏メ下賜名簿ヲ添へ御禮執奏方書面ヲ以  
テ十一月十五日迄ニ知事ニ申出ヅルコト







大宮通七條上ル

第三、(二七二人) 平安中學校

間ノ町通七條上ル

第四、(二九四人) 皆山尋常小學校

時刻各所共一齊ニ午前十時

郡部ノ式場ハ町村役場又ハ小學校

### 二 聖旨傳達の要項

奉授式當日、聖旨傳達に際し、奉授者より敷衍すべき要項につき、十一月四日付、府地方課より市町村長宛に左の如く通牒したり。

高齢者ニ木杯並酒肴料奉授式ニ關スル件

來ル十一月十日高齢者ニ對シ木杯並酒肴料奉授式ニ於テ奉授者ヨリ聖旨傳達ノ際敷衍スベキ要項別紙ノ通御參考迄及送付候也

(別紙)

木杯並酒肴料奉授式ニ於テ奉授者ヨリ

聖旨傳達ニ際シ敷衍スベキ要項

御即位ノ大禮ニ際シ養老ノ爲木杯並酒肴料ヲ下シ賜フコトハ歷朝ノ御範例トシテ行ハセラル、所ニシテ續日本紀其ノ他古典ヲ繙ケバ

文武天皇元年御即位ノ時

高年老人加シ恤

元明天皇ノ御時ニハ

百歳以上若若干 九十歳以上若若干 八十歳以上若若干

元正天皇

高年者量ニ加賑恤

聖武天皇

### 御沙汰

老ヲ養フハ歷朝ノ至孝ヲ天下ニ勸ムル所以ニシテ窮ヲ賑ハスハ列聖ノ博愛ヲ兆民ニ獎ムル所以ナリ。

朕即位ノ禮ヲ行フニ臨ミ祖宗ノ遺訓ニ遵由シ養老賑恤ノ典ヲ舉ケシム其レ有司ニ命シテ敬ミテ朕力意ヲ宣ヘシメヨ

### 二 訓令、訓達、奉答

右に付内務大臣は同日左の如く訓令を發し、社會局長官よりも本府知事に對し、恩賜金の管理方に關し依命通牒(左記)あり、知事は即日宮内大臣に宛左の御禮執奏方を上申する所ありたり。

内務省訓第一四七二號

京都府知事

今般

大禮ニ際シ特ニ賑恤ノ資ニ充テシムルノ思召ヲ以テ内帑ノ資ヲ下賜セラル

聖恩優渥洵ニ感激ノ至ニ禁ヘス地方當局者ハ宜シク深ク

御趣旨ノ存スル所ヲ奉體シ益々其ノ責任ヲ重ンシ一層淬勵ノ誠ヲ效

スヘキハ勿論恩賜金ノ管理運用ニ關シテハ最慎重ニ之ヲ取扱ヒ長ヘ

ニ

聖恩ニ奉答スルノ途ヲ講セラルヘシ

右訓令ス

第一章 養老と賑恤

百歳以上若若干 九十歳以上若若干 八十歳以上若若干等ト累載セルニ依リテ其ノ御聖旨ヲ伺フヲ得ベシ。

抑モ大嘗祭ハ 皇祖及神祇ニ對シ其ノ禮ヲ盡シ給フ大祀ニシテ御即位禮ニ於カセラレテハ先ヅ賢所大前ノ儀ヲ行ハセ 皇祖ニ御親告アラセラレ皇靈殿、神殿ヲ祭祀セシメ給ヒ紫宸殿ノ儀ヲ行ハセテ之内外ニ宣布シ給フノミナラズ又大禮後皇祖及山陵ニ御親謁アラセラ

ル、モ皆祖先ヲ崇敬シ孝道ヲ重ンジ給フ所以ニ非ザルハナシ。

此ノ大御心ノ及ブ所遂ニ國民ノ老ヲ養ヒ養ヒ慈ミ給フ恩典ヲ下シ給フニ至レルコトナレバ此ノ御恩澤ヲ拜スル者ハ謹ンデ宏大ナル聖旨ニ副ヒ奉ラムコトヲ期スベキハ勿論一般國民モ亦此ノ有難キ聖旨ノ存スル所ニ深ク思フ致シ今後一層忠孝ノ道ニ勵ミ實實剛健ノ氣風ヲ發揚シ大イニ吾ガ建國以來ノ堅實ナル國民精神ヲ作興スルニ努メラレムコト切望ニ堪ヘザルナリ。

### 第五節 恩賜金ノ管理

#### 一 御沙汰

至仁至慈なる 聖上陛下には十一月十日御即位式御舉行の當日、老を養ひ、貧を恤み給ふの聖旨により、内閣總理大臣に對し優渥なる御沙汰あらせられ、養老の爲別項の如く木杯並酒肴料を、賑恤の爲金百五十拾萬圓を下賜あらせられたるが、我京都府は右賑恤金の内貳萬五千圓を頒賜あり、同日内閣告示第五號を以て公示せられたり、御沙汰左の如し。

昭和三年十一月十日

内務大臣 望 月 圭 介

發社第九六號

昭和三年十一月十日

社會局長官

京都府知事殿

恩賜金ノ管理ニ關スル件依命通牒

今般

大禮ニ際シ恩賜金御下附相成候ニ付大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候處右恩賜金ハ特別會計ト爲シ曩ニ恩賜相成候賑恤資金ト合セラル、ト否トハ適宜ニ之有候ヘ共元資金ハ永遠ニ之ヲ保存シ其ノ利殖金ヲ以テ地方ノ實際ニ應ジ最有効適切ニ之ヲ活用シ御趣旨ノ普及貫徹ヲ期スル様致サレ度

今般

大禮ニ際シ特ニ賑恤ノ資ニ充テシムルノ思召ヲ以テ内帑ノ資ヲ下賜セラル

聖恩優渥洵ニ感激ノ至ニ禁ヘス謹テ御趣旨ノ存スル所ヲ奉體シ

聖恩ニ奉答セムコトヲ期ス

右宜敷御執奏被成下度候也

昭和三年十一月十日

京都府知事

宮内大臣殿



三 賑恤基金管理

右賑恤恩賜金は、左の管理方法の下に賑恤基金に繰入れ、其豫算と共に三年十二月通常府會の決議を経、以て長へに聖旨を奉體し、救恤の途を講ずる所ありたり。

府第三十一號議案

大禮ヲ行ハセラ、ニ方リ特ニ賑恤ノ資ニ充テシムル思召ヲ以テ下賜セラレタル金貳萬五千圓ハ聖旨ノ存スル所ヲ奉體シ大正大禮ノ際設置シタル賑恤基金ニ之ヲ編入シ其ノ基金積立及管理方法ヲ左ノ通改正スルモノトス

昭和三年十二月二十一日提出

京都府知事 大海 原 重 義

賑恤基金設置及管理方法

第一條 左ノ恩賜金ヲ以テ賑恤基金ヲ設置シ之ヲ特別會計トス

一、大正四年恩賜金壹萬六千八百圓

二、昭和三年恩賜金貳萬五千圓

第二條 賑恤ノ目的ヲ以テ金員ノ寄附アリタルトキハ之ヲ基金ニ編入スルモノトス

但シ費途ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 本基金ヨリ生スル收入ハ賑恤ノ資ニ充ツル外管理費ヲ支辨シ剩餘ヲ生スルトキハ之ヲ基金ニ編入スルモノトス

第四條 本基金ハ郵便貯金若ハ確實ナル銀行預金トシ又ハ公債證書、勸業債券、農工債券ヲ購入シ之ヲ管理スルモノトス

府第三十號議案

昭和三年度賑恤基金歳入歳出追加豫算書

歳入 部

第一款 賑恤基金 二五、二〇二圓

第二項 基金利息 二五、〇〇〇

歳入 總計 金 二五、二〇二

歳出 部

第一款 賑恤基金 二五、二〇二

第一項 救 恤 費 二〇二

第二項 基金積立 二五、〇〇〇

歳出 總計 金 二五、二〇二

昭和三年十二月二十一日提出

京都府知事 大海 原 重 義

昭和三年度賑恤基金歳入歳出追加豫算説明

歳入 部

第一款 賑恤基金 既決豫算高 追加豫算高 備考

第一項 基金利息 一、二八八圓 二五、二〇二圓

第二項 基金利息 一、二八八 二〇二

歳入 總計 金 一、二八八 二五、〇〇〇

第二款 恩賜 金 〇 二五、〇〇〇

歳入 總計 金 一、二八八 二五、二〇二

第一款 賑恤基金 一、二八八 二五、二〇二

第一項 救 恤 費 一、〇〇〇 二〇二

第二項 基金積立 一、〇〇〇 二〇二

第一目 基金積立 二八八 二五、〇〇〇

第二目 基金積立 二八八 二五、〇〇〇

歳出 總計 金 一、二八八 二五、二〇二

第六節 奉 授 式

十一月十日の御即位禮當日、高齢者に對し御下賜相成りたる木杯並酒肴料の奉授式に關し、内務大臣及知事より左の如く訓示したり。

一 大臣と知事の訓令

内務省訓第一號

京 都 府 知 事

即位禮ノ當日養老ノ典ヲ舉ケサセラレ優渥ナル御沙汰ノ次第有之ヤニ拜察候處地方廳ニ於ケル奉授式ハ曩ニ當省次官ヲシテ通牒セシメ置候旨趣ニ依リ最モ莊重ニ之ヲ執行ヒ至仁至慈深ク老ヲ念ヒ孝ヲ重ンセサセ給フノ大御心ヲ體シ御旨趣ノ貫徹ヲ期セララルヘシ

右 訓 令 ス

昭和三年十一月七日 内務大臣 望 月 圭 介

訓第三一一號

市 町 村 長

今上陛下御即位ノ大禮ヲ舉ゲサセラレ、當日畏クモ養老ノ典ヲ舉ゲサセ給ヒ優渥ナル御沙汰ノ次第有之ヤニ拜察スルハ洵に恐懼感激ニ堪ヘザル所ナリ當日貴市町村ニ於ケル右御下賜物ノ奉授式ニ關シテハ最莊重ニ之ヲ執行ヒ 陛下が至仁至慈御治世ノ劈頭ニ於テ列聖ノ遺範ヲ紹ガセラレ老耄ヲ勞リ孝養ヲ教ヘ給フノ大御心ヲ奉體シ

第一章 養老と賑恤

地方風俗ノ敦厚ヲ促進スルニ勗メ以テ御趣旨ノ貫徹ヲ期セララルベシ

右 訓 令 ス

京 都 府 知 事

一 京都市の状況

イ 式場と區域

名稱	式場	奉授者	高齢者數	區	域 (學區)
第一	待賢尋常小學校	太田區長	三〇〇	一〇、一六、一七學區	一〇、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇
第二	龍池尋常小學校	小倉主事	二一三	一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	
第三	嘉樂尋常高等小學校	伊藤主事	二五八	三、五、六、七、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	
第四	室町尋常高等小學校	淺田主事	二一四	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	
第五	第一錦林尋常小學校	伊藤收入役	二三六	二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	
計			一一、二二一		
第一	堀川高等女學校	太田區長	四四五	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	

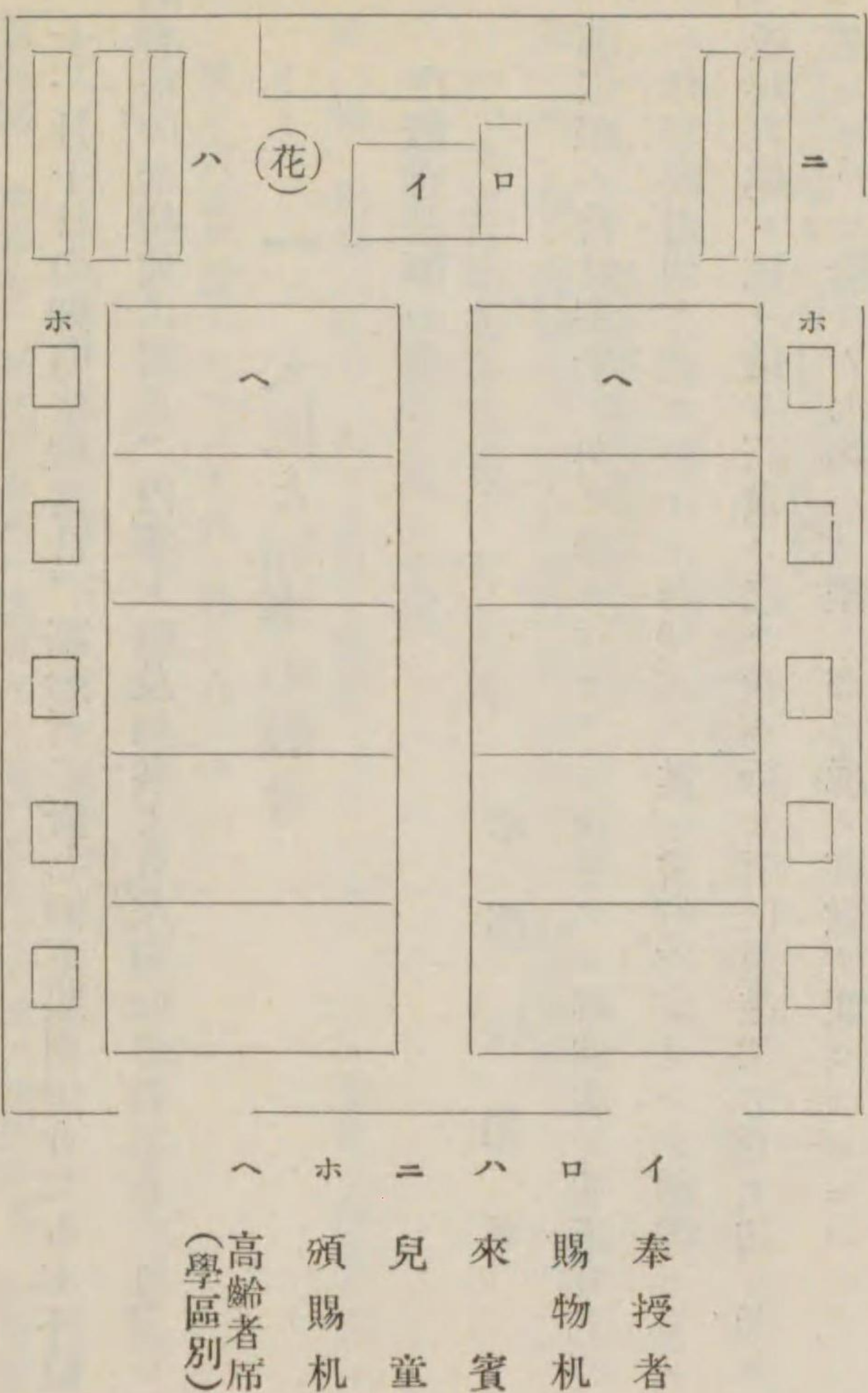


- 第二 平安中學校 松田書記 二七二 一六、二三、二九、三二、三三、三五、三六ノ七學區
- 第三 彌榮尋常 貫主事 二八五 六、七、八、一四、一五、二〇、二一、二二ノ八學區
- 第四 皆山尋常 野村主事 二九二 二五、二六、二七、二八、三〇、三一、三七、三八ノ八學區

備考 舉式時間ハ各式場共午前十時乃至十時二十分 閉式ハ午前十一時乃至十一時三十分

口 式場設備と裝飾

各式場は上下兩區とも其學校の講堂又は雨天體操場を以て之に充て場内參列員の配置は上京區に於ては左圖の如くに定めたり。



式場正面には忠孝又は式典用幅を掲げ兩側に金屏風を建て賜物机並に奉授所を設く。

ハ 參集及式前狀況

當日來賓は午前十時、高齡者は午前九時三十分迄に參列、參集の案内並に通知を爲したるを以て、事務従事員は午前七時に早くも出所各擔任部署に就きたり、尙豫め派遣を求め置きたる日本赤十字社京都支部より救護班出張に付各式場共救護所を設け萬一の事故に備へたり。高齡者は午前八時前後より逐次來場し九時より九時四十分頃迄の間に最も多數參集に付混雑せざる様受付補助者をして各受付所の案内に努めたり、受付所は來賓と高齡者とに分ち、高齡者受付は學區別に分擔す、而して參集者には通知書の提示を求め下賜名簿に對照して拜受者を確認することゝなせり。

代理人出頭のもの、本人不參の理由を聞き取り其旨を名簿相當欄に記載の上拜受印欄に何れも捺印せしめ、拜受者の證(九十歳以上青色券、八十歳以上桃色券)並に舉式順序書を交付したり。受付を了したる高齡者は數名の誘導員をして直に式場各學區別に設けたる座席に附添人と共に着席休憩せしむ、高齡者は概ね禮裝にて附添人に護られ舉式時には殆んど參集せり。

舉式に先ち司會者より高齡者に對し最敬禮の場合と雖も、座禮とすること及賜物の總代授與閉式後に於ける賜物の頒賜等に關する注意事項を告ぐる所ありたり。

ニ 舉式の狀況

1 舉式順序

- 高齡者並ニ附添人着席 小學校兒童入場
- 來賓着席 舉式ノ旨ヲ告グ

高齡者席は莫座の上に緞通を敷き詰め座布圍を配し付添人と並列座席とし兩側に賜物臺(特に白木を以て數十個新調す)を奉置すべき頒賜



(校學女等高川堀は場會・區京下) 式授奉盃天

机を學區毎に配置す、周圍は紅白の幔幕を繞らし暖房設備として四隅兩側等に木炭ストーブを配置せり。

- 一、唱歌 君カ代
- 一、奉授者ヨリ聖旨ノ傳達
- 一、來賓祝辭
- 一、小學校兒童ノ奉祝歌
- 一、閉式
- 一、一同最敬禮
- 一、御下賜物奉授
- 一、高齡者總代御禮言上
- 一、一同最敬禮

小學校兒童入場、來賓相次で着席するや、司會者舉式の旨を告げたり、一同君が代を合唱す而して奉授者式場正面に進み共に最敬禮を爲し茲に登壇靜肅莊重裡に恭しく聖旨を傳達し、引續き御下賜物奉授のことを告げ、奉授者再び登壇司會者下賜名簿に依り、學區毎に最高齡者より順次氏名を朗讀し各其總代に之れを奉授す、其際従事員一名宛之れに付添ひ、拜受の賜物は一時其の學區の頒賜机に移し、嚴肅裡に御下賜品全部の奉授を了りたり。

2 區長の式辭

本日ハ御即位ノ大禮ヲ行ハセラレマス洵ニ御芽出度キ日デアリマス、此御芽出度キ日ニ際シマシテ特ニ高齡ノ方々ヲ御勞ハリ遊ハス思召ヲ以テ木杯並ニ酒肴料ヲ下シ賜フコトハ御歴代ノ御範例トシテ行ハセラル、所デアリマシテ續日本紀其外古典ニ累載セル所ニ依リマシテ其ノ聖旨ヲ何ヒ奉ルコト力出來ルノデアリマス、抑モ大嘗祭ハ皇祖及神祇ニ對シ其禮ヲ盡シ給フ所ノ大祀デアリマシテ御即位ノ禮ニ於カレマシテハ先ツ賢所大前ノ儀ヲ行ハセ給ヒ皇祖ニ御報告アラセラレ皇靈殿神殿ヲ御祭り遊ハサレ紫宸殿ノ儀ヲ行ハセテ之内外ニ知ラシメ給フハカリテナク大禮後皇祖及山陵ニ御親謁アラセラル、モ皆祖先ヲ崇敬シ孝道ヲ重シ給フ寂慮ニ外ナラナイコト、拜察致スノデアリマス此有難大御心ノ及フ所途ニ今日ノ御芽出度キ日ニ高齡ノ方々慈シミ給フ恩典ヲ下シ賜ハツタノデアリマシテ高齡ノ皆様方ノ面目ハ此上モナイコトテ此御恩澤ヲ頂カレマス皆様ハ謹ンテ宏大ナル聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期セラルヘキハ勿論一般國民モ亦此有難聖旨ノ存スル所ニ深く思フ致シ今後一層



忠孝ノ道ニ勵ミ實實剛健ノ氣風ヲ發揚シ大イニ吾カ建國以來ノ堅實ナル國民精神ヲ作興スルコトニ努メラレンコトヲ切望ニ堪ヘヌ次第テ御座イマス  
附テ申シマス本日此ノ式ヲ舉グルニ就キマシテハ其筋ヨリ特ニ官公職ノ御方並地方名望家ノ方々ノ御列席ヲ求メテ之ヲ行ヘトノ事テ御座イマシテ各位ト其慶ヲ共ニ致シマシタ次第テ御座イマス御會同各位ノ勞ヲ謝スルト同時ニ高齢者ノ方々ノ御了知ヲ願ヒマス

3 祝辭を述べたる來賓

上京區	第一式場	待賢尋常小學校長	內藤 丈夫
	第二式場	龍池尋常小學校長	上島 信三郎
	第三式場	嘉樂尋常高等小學校長	三村 信
	第四式場	室町尋常高等小學校長	馬場 定一
	第五式場	第三錦林尋常小學校長	山田 廣太郎
下京區	第一式場	市ノ有功者	東枝 吉兵衛
	第二式場	元大内村長	宇野 佐兵衛
	第三式場	市ノ有功者	古川 吉兵衛
	第四式場	市ノ有功者	中村 榮助

4 賜物頒賜、菓子等贈呈

閉式後直に奉授者指揮の下に全従事員をして各學區頒賜机に備へたる賜物を、高齢者座席に到り拜授す(下賜名簿捺印の際と引替へに速に頒賜を了り、後本市より贈與したる記念菓子を漏れなく頒ちたり)尙上京區にては奉授に際し記念寫眞を撮影し、參列の小學兒童には紅白の祝饅頭を頒ちたり。

5 來賓其他の參列者

貴衆兩院議員、府會、市會各議員、市有功者、市篤志者、聯合公同組合幹事、同副幹事、區衛生組合聯合幹事、同幹事、學務委員、學



式達傳影眞御

れ群の車動自用安奉るけ於に前門正廳府日當(下) 場式の内廳正(上)



區會議長、小學校長、在郷軍人會上京區聯合分會長、同副長、警察署長、  
外に小學兒童、右附添訓導、救護班、醫員、看護婦等。

高齢者ノ出缺割合

區別	出席高齢者	代理者出席	不參者	高齢資格者總數
上京	七〇六	四九六	一九	一、二二一
下京	八〇六	四六九	一七	一、二九二
合計	一、五一二	九六五	三六	二、五二三

御眞影拜戴式

御大典を機として京都府に御下賜相成りし 聖上皇后兩陛下の御眞影は豫て拜戴の爲東上中なりし秘書課の藤田、堀兩屬が十月十二日午前八時四十七分京都驛着にて歸廳したるを以て、同日午前十時より正廳にて嚴肅なる拜戴式を舉げたり、先づ中西屬は前面に進みて正廳の壁間高く南面して奉掲せられたる御眞影の幌を除き奉り、秋山秘書課長より

謹んで 天皇皇后兩陛下の御眞影拜戴式を舉行致しますと擧式の旨を宣すれば、大海原知事先づ御眞影に進みて最敬禮をなし、參列の高等官、判任官其他廳員一同之に続き敬虔なる態度を以て一齊に最敬禮を行ひたる上直に閉式したり  
尙此日同時に拜戴し歸りたる京都市へ御下賜の御眞影は右式に先ち知事より市長に對し傳達式を舉行したり



三 郡部町村別狀況

愛宕郡

町村名	會場	出席高齢者數
修學院村	小學校	三一(外代理七)
松ヶ崎村	役場會議室	
上賀茂村	小學校	二三
大宮村	小學校	一一
鷹峰村	小學校	
雲ヶ畑村	小學校	
岩倉村	小學校	四
八瀬村	小學校	六(外代理五)
大原村	小學校	
靜市野村	小學校	
鞍馬村	小學校	五(外代理五)
花背村	別所小學校 八瀬小學校	一〇三
久多村	小學校	三
太秦村	小學校	
西院村	尋常高等 小學校	一八
京極村	小學校	
桂村	小學校	
川岡村	小學校	二三
松尾村	尋常高等 小學校	一九

第一章 養老と賑恤

高齢者接待其他

式後尙齒會開催餘興折詰ノ饗  
式後敬老會開催酒飯ヲ饗ス  
紅白祝饅頭ヲ贈ル  
神酒、スルメ祝杯ヲ舉ケ、餅  
菓子一包、祝餅一包  
慰安會  
式後敬老會ヲ開キ祝宴  
祝饅頭ヲ贈ル  
扇子、祝饅頭ヲ贈ル  
式後敬老會、紅白饅頭ト養老  
杖ヲ贈ル  
式後敬老會ヲ催シ祝餅折詰ヲ  
饗ス  
式後祝杯並ニ赤飯ノ折詰ヲ饗  
ス  
式後祝杯並祝饅頭ヲ饗シ記念  
扇子ヲ贈ル  
記念品ヲ贈ル  
式後扇子、祝饅頭ヲ贈ル  
扇子及饅頭一包ヲ贈ル

梅津村 小學校 三八

嵯峨町 (嵯峨) 尋常高等小  
學校外二校  
(水尾、岩  
陰小學校)

花園村 御室尋常  
高等小學校 四六

小野郷村 尋常高等  
小學校

中川村 尋常高等  
小學校 六

梅ヶ畑村 小學校

乙訓郡

向日町 向陽小學校

久世村、羽 組合立神川  
東師村聯合 小學校 九(内代理一)

淀村 小學校 五(内一名代理)

大山崎村 小學校 一〇(外代理二)

新神足村 小學校 六(代理五)

海印寺村、長 法寺  
乙訓村聯合 小學校 一七

大原野村 石作小學校 一七

大枝村 小學校 七(代理三)

向島村 小學校

伏見町 伏見町  
第一小學校

式後紅白饅頭並記念扇子壹箱  
眞綿一包ヲ贈ル

記念扇ヲ贈ル

扇子壹箱及饅頭壹包ヲ贈ル

扇子並紅白祝餅ヲ贈ル

式後紅白饅頭ヲ饗シ、別ニ敬  
老會ヲ開キ扇子ヲ贈リ茶菓ヲ  
饗ス  
記念品ヲ贈ル

式後折詰並記念品ヲ贈ル

式後箱入ノ菓子ヲ贈ル

祝品並紅白饅頭ヲ贈ル  
記念品贈呈式後記念撮影、又  
敬老會ヲ饗ス

紅白祝饅頭ヲ饗シ尙記念撮影  
ヲナス  
高齢者ニ饅頭ヲ贈ル

式後折詰並ニ猪口、菓子箱ヲ  
贈ル

敬老錫杯並記念菊ヲ贈ル



堀内村 小學校 二〇  
 深草町 深草第一高等尋常小學校  
 祝酒折詰ヲ贈ル  
 菓子折一個ツ、紅白饅頭ヲ頒チ記念撮影ヲナス  
 竹田村 小學校  
 吉祥院村 小學校 二四(外代理三)  
 上鳥羽村 小學校 二〇(外代理四)  
 下鳥羽村 小學校 一二(並附添人)  
 横大路村 小學校  
 納所村 小學校 二  
 式後茶菓ヲ饗ス  
 式後祝宴アリ  
 神酒祝餅ヲ贈ル  
 紅白ノ祝餅ヲ頒ツ

宇治郡

山科町 小學校 七一(代理共ニ出席セサル五) 外代理六  
 醍醐村 小學校  
 笠取村 小學校  
 宇治村 小學校 二一(外代理四)  
 式後茶菓ヲ饗ス  
 奉祝小宴開催  
 記念杯並ニ祝饅頭ヲ贈ル

久世郡

宇治町 小學校  
 横島村 小學校 四(外代理三)  
 小倉村 小學校 六(外ニ代理五)  
 大久保村 小學校 七(外ニ代理六)  
 久津川村 小學校  
 寺田村 小學校 一七(附添一一)  
 富野莊村 小學校 一二(外ニ代理三) 附添一二  
 佐山村 佐古尋常高等小學校 二〇(外ニ代理一)  
 御牧村 小學校  
 御祝品ヲ贈ル  
 式後記念撮影ス  
 紅白ノ敬老饅頭ヲ頒ツ  
 箱入ノ美菓ヲ頒ツ尙記念撮影ヲナセリ  
 箱入ノ饅頭ヲ頒チ尙記念撮影ヲナセリ  
 式後敬老會ヲ催シ尙記念撮影ヲナセリ  
 菓子箱一個、敬老慰安ノ催シアリ

淀町 明規尋常高等小學校  
 式後記念撮影アリ

綴喜郡

美豆村 尋常高等小學校  
 式後記念寫眞ヲ撮ル  
 都々城村 尋常高等小學校 二二(外ニ代理八)  
 有智郷村 尋常高等小學校  
 大住村 小學校 二一  
 八幡町 小學校 四三(外ニ代理五)  
 田邊町 小學校 二四  
 草内村 尋常高等小學校 五(外ニ代理四)  
 普賢寺村 小學校  
 井手町 小學校  
 多賀村 小學校 一〇(外ニ代理三)  
 青谷村 尋常高等小學校  
 田原村 尋常高等小學校 一七  
 宇治田原村 尋常高等小學校 一〇(外ニ代理三)  
 式後茶會ヲ催ス  
 式後敬老會ヲ催シ折詰瓶酒ヲ配付

相樂郡

大井村 小學校  
 千代川村 小學校  
 馬路村 小學校  
 旭村 小學校  
 千歳村 小學校  
 河原林村 小學校  
 保津村 小學校  
 神吉村 及時校 二(外代理三)  
 細野村 尋常高等小學校 六  
 宇津村 造基校 六(外代理四)  
 周山村 小學校 七(外代理六)  
 山國村 協一尋常高等小學校 一〇(外代理三)  
 黒田村 尋常高等小學校 一〇(外代理三)  
 弓削村 小學校 一〇(外代理六)  
 平屋村 小學校 四(外代理七)  
 知井村 小學校 七  
 宮島村 小學校 七  
 鶴ヶ岡村 小學校 六  
 大野村 小學校 六  
 船井郡  
 園部町 小學校 八(外代理三)  
 園部村 公會堂 一三(外代理八)  
 吉富村 小學校  
 八木町 役場  
 菓子箱ヲ贈ル  
 祝饅頭ヲ頒ツ  
 紅白ノ饅頭ヲ頒ツ  
 式後茶菓ヲ饗ヲ爲ス  
 菓子折、杖ヲ贈ル

北桑田郡

式後敬老會ヲ催ス  
 敬老會ヲ催ス  
 敬老ノ宴ヲ張ル  
 辨當及赤白奉祝饅頭ヲ頒ツ  
 中飯ニ折詰及記念菓子ヲ贈ル  
 式後敬老會ノ催アリ  
 式後敬老ノ宴ヲ張ル  
 茶話會ヲ催シ、記念撮影ヲナス  
 式後記念撮影ヲナシ茶ヲ献シ祝饅頭ヲ頒ツ  
 式後茶話會ヲ催ス  
 敬老會ヲ催シ、小學校兒童ノ學藝會ヲ觀覽セシム

南桑田郡

相樂村 小學校  
 木津町 小學校 三二  
 加茂町 小學校 二二(外代理一四)  
 當尾村 小學校 五(外代理九)  
 瓶原村 恭仁小學校  
 西和東村 小學校 八(外代理六)  
 中和東村 小學校 一〇(外代理五)  
 東和東村 小學校  
 湯船村 小學校 一一(外代理五)  
 笠置村 小學校  
 大河原 尋常高等小學校  
 高山村 役場  
 龜岡町 小學校 三九(外代人二)  
 篠村 小學校  
 檜田村 小學校 七(外代理一)  
 東別院村 小學校 六(外代理七)  
 西別院村 小學校  
 曾我部村 小學校 三〇  
 吉川村 小學校  
 薄田野村 小學校 一二(外代理六)  
 本梅村 小學校  
 畑野村 小學校 三  
 宮前村 尋常高等小學校 一九  
 式後茶菓ヲ呈ス  
 式後記念撮影ヲ爲シ後茶話會ヲ催ス  
 茶菓ヲ呈ス又座蒲團ヲ贈ル  
 菓子折ヲ贈ル  
 菓子折ヲ贈ル  
 紅白饅頭ヲ頒ツ  
 眞綿ヲ贈ル  
 茶菓ヲ頒チ記念撮影ヲ爲セリ  
 式後茶話會ヲ催シ祝餅ヲ贈リ記念撮影ヲナス  
 茶菓ヲ饗シ菓子一箱ヲ頒ツ  
 菓子箱ヲ贈ル



富本村 小學校 二〇(外代理七)  
 新庄村 小學校 二〇(外代理六)  
 川邊村 尋高小學校 一七  
 世木村 小學校 一七  
 胡麻郷村 小學校  
 五ヶ莊村 役場  
 桐ノ庄村 小學校  
 摩氣村 役場  
 東本梅村 小學校 一〇  
 西本梅村 小學校  
 竹野村 小學校 一四  
 須知町 小學校  
 高原村 小學校  
 高美村 小學校 二(外代理三)  
 檜山村 尋高小學校 八  
 梅田村 小學校 一八(外代理七)  
 三ノ宮村 小學校  
 上和知村 小學校 五(外代理九)  
 下和知村 尋高小學校  
 綾部町 尋高小學校 三七(外代理一一)  
 中筋村 尋高小學校 二〇(代理一〇)  
 以久田村 小學校  
 佐賀村 小學校 一五(外代理五)  
 小畑村 小學校  
 物部村 小學校 二七(外代理一〇)

敬老會ヲ催シ、餘興ヤ晝飯ノ饗ヲ爲ス  
 式後敬老會ヲ催ス  
 式後茶菓ノ饗應アリ  
 敬老會ヲ開催ス  
 晝餐ヲ饗シ餘興ヲ催セリ  
 記念撮影ヲナシタリ  
 祝饌頭ヲ頒ツ  
 祝酒折詰ヲ呈ス  
 午餐ヲ供ス  
 祝饌頭ヲ頒ツ  
 菓子箱ヲ贈ル  
 祝杯ヲ舉ケ折詰其他祝物ヲ贈ル  
 酒肴ヲ饗シ記念品ヲ贈ル  
 祝饌頭ヲ頒ツ

何鹿郡

志賀郷村 尋高小學校 三〇(外代理一一)  
 西八田村 小學校  
 東八田村 小學校 三六(外代理二八)  
 山家村 小學校 三七  
 口上林村 尋高小學校  
 中上林村 小學校  
 奥上林村 尋高小學校 三六

祝餅ヲ頒ツ  
 祝餅並「祝壽」ヲ饗頭ヲ頒ツ  
 茶話會ヲ催ス  
 茶菓ノ饗應ヲナシ祝饌頭ヲ頒ツ  
 祝餅ヲ頒ツ  
 茶菓ヲ饗ス  
 晝飯ヲ饗シ祝餅祝饌頭ヲ贈ル  
 式後茶菓ヲ饗ス  
 記念撮影ヲ爲セリ  
 式後茶菓ヲ饗シ「奉祝饌頭」ヲ分ツ尚「敬老饗料」養老杖ヲ添ヘソノ他敬老ノ意ヲ表ス  
 式後敬老會ヲ催ス  
 式後茶菓ノ饗應アリ  
 學藝會人形芝居ヲ觀覽セシメ折並瓶詰ヲ供ス  
 式後茶菓ノ饗應アリ

天田郡

加佐郡

河守上村 尋高小學校 一六(外代理一六)  
 河守町 小學校  
 河西村 小田原小學校 八  
 公庄尋高小學校 四(外代理五)  
 河東村 小學校 二三  
 有路上村 小學校  
 有路下村 小學校  
 岡田上村 小學校 一五(外代理二一)  
 岡田中村 役場  
 岡田下村 尋高小學校 一九  
 八雲村 八田小學校  
 由良村 小學校 三八(外代理一)  
 神崎村 尋高小學校  
 四所村 役場 一二  
 舞鶴町 明倫尋高小學校 八四(一部代理人)  
 高野村 小學校  
 中筋村 小學校 二七(外代理五)  
 池内村 村講堂 二九  
 餘内村 小學校 二五(外代理一〇)  
 中舞鶴町 公會堂 二六(外代理五)  
 新舞鶴町 小學校 五〇(二名欠席)

「養老」ノ二字ノ額地揮毫物ヲ贈ル  
 式後晝食ヲ供ス  
 記念軸物ヲ贈ル  
 紅白饅頭ヲ頒ツ  
 茶菓ヲ饗シ記念撮影ヲナス  
 折詰及瓶詰ヲ呈シ祝賀ノ宴ヲ張ル  
 紅白ノ饅頭ヲ頒ツ  
 紅白鏡餅ヲ頒ツ  
 紅白鏡餅ヲ贈リ記念撮影ヲナス  
 祝品贈呈餘興等敬老ノ催アリ  
 記念木杯ニ酒、肴、餘興等ノ饗應アリ  
 紅白ノ鏡餅ヲ贈ル  
 式後折詰及奉祝餅ヲ呈ス  
 菓子折ヲ贈ル  
 祝餅紅白ヲ頒ツ

與謝郡

倉梯村 小學校  
 與保呂村 小學校  
 志樂村 尋高小學校 二九  
 朝來村 小學校 一二(外代理一一)  
 東大浦村 原、田井、野原小學校  
 西大浦村 丸山、大丹、生、平小學校  
 宮津町 尋高小學校 一〇六(外代理二五)  
 栗田村 小學校  
 上宮津村 小學校 七(外代理二)  
 吉津村 小學校  
 石川村 小學校 二二(外代理五)  
 桑飼村 小學校 一一(外代理九)  
 與謝村 小學校 二三  
 加悅町 小學校  
 三河内村 尋高小學校  
 岩屋村 尋高小學校 一六(外代理二)  
 市場村 小學校 八  
 山田村 小學校  
 岩瀧町 小學校 一七(外代理七)  
 府中村 小學校 二四(外代理一三)  
 日置村 尋高小學校 一三(外代理二)  
 世屋村 世屋下尋高小學校 二五  
 養老村 尋高小學校

紅白餅及酢折詰ヲ饗シ餘興ヲ催セリ  
 紅白饅頭ヲ頒ツ  
 茶菓ヲ饗シ記念撮影ヲナス  
 式後記念撮影ヲナシ奉祝饌頭ヲ頒ツ  
 紅白饅頭ヲ呈シ記念撮影ヲナス  
 晝食ヲ饗應ス  
 記念撮影ヲナス  
 饅頭ヲ頒テ記念撮影ヲナス  
 紅白饅頭ヲ頒ツ  
 記念撮影ヲナセリ



伊根村 小學校 紅白ノ奉祝饅頭ヲ頒ツ  
 朝妻村 小學校 壽餅ヲ頒ツ  
 本庄村 郷社宇良神社 午餐ヲ饗ス  
 筒川村 小學校 御馳走ヲ饗應ス  
 野間村 小學校  
 日ヶ谷村 小學校

中郡

峰山町 小學校 一六(外代理三) 紅白祝餅ヲ呈ス  
 吉原村 小學校  
 五箇村 小學校  
 長善村 小學校 祝餅授與  
 口大野村 小學校 八(外代理一) 紅白鏡餅ヲ授與  
 奥大野村 小學校 四 紅白ノ鏡餅ヲ頒ツ  
 常吉村 小學校 二(外代理四) 菓子一袋及茶ヲ饗ス  
 三重村 小學校 二(外代理二) 祝饅頭ヲ呈シ御茶ノ饗應ヲナス  
 五十河村 小學校 赤白ノ祝饅頭ヲ授與  
 周枳村 小學校  
 河邊村 小學校  
 新山村 小學校 一九(外代理一) 紅白ノ祝饅頭ヲ頒ツ  
 丹波村 小學校 紅白ノ祝饅頭ヲ頒チ食事ノ饗應ヲナス

竹野郡

網野町 尋高小學校  
 濱詰村 小學校  
 木津村 小學校  
 郷村 小學校  
 島津村 小學校

鳥取村 小學校 一二(外代理一) 小宴ヲ張り小學兒童ノ學藝會ヲ觀覽セシム  
 吉野村 小學校 二四(外代理三)  
 溝谷村 尋高小學校 一六(外代理二) 紅白ノ饅頭並ニ酒肴ヲ供ス  
 深田村 小學校 二二(外代理一) 奉祝饅頭ヲ頒ツ  
 豐榮村 小學校 折詰及紅白ノ饅頭ヲ頒ツ  
 間人町 尋高小學校 敬老會ヲ催ス  
 竹野村 小學校 一九(外代理一〇) 紅白ノ饅頭ヲ頒ツ  
 上宇川村 小學校 式後餘興ノ催シアリ  
 下宇川村 尋高小學校 紅白饅頭ヲ授與ス  
 久美濱町 小學校 敬老會ノ催アリ  
 久美谷村 役場 酒肴料金一封並記念品座蒲團ヲ贈ル  
 川上村 役場 祝饅頭ヲ贈ル  
 海部村 小學校 一(外代理六) 懇談會ヲ催ス  
 上佐濃村 小學校 九(外代理一五) 敬老會ヲ催ス  
 下佐濃村 小學校 紅白饅頭ヲ頒ツ  
 田村 小學校  
 神野村 小學校  
 湊村 尋高小學校 (外代理九)

熊野郡

第七節 結末

一 御禮上申

斯くの如くにして、それ〴〵本人への傳達を了へたるを以て、本府知事は十一月三十日付を以て左の如く宮内大臣宛に上申書を提出した

所感

褒賞賑恤係長 安井章 一

- 一、最モ苦心ヲ要セシ事項  
 八十歳以上高齢者ハ其ノ數八千餘名ノ多キニ上リ公簿ト實際ト符合セザルモノ多ク且時々異動頻繁ニシテ或ハ本籍地ト現住所ト調査重複シ又ハ脱漏スル等之ガ調査ニハ最苦心ヲ要シタリ
- 二、事務處理上斯ク改正セバ可ナラムト認ムル事項  
 高齢者調ニ付テハ地方賜饗資格者届ニ準ジ有資格者ヨリ市町村長ニ申告セシムルニ於テハ(異動ノ場合共)調査ノ脱漏ヲ防ギ事務處理上好都合ナリト認ム

り。

高齢者木杯並酒肴料拜受御禮執奏方ノ義上申  
 今般大禮御舉行ニ際シ高齢者ニ對シ下賜相成候木杯並酒肴料本月十日即位禮當日ヲ以テ夫々傳達致候處何レモ至仁至慈 聖恩ノ難有ニ感激シ謹デ拜受御禮言上方申出候條宜敷御執奏相成度別冊下賜名簿相添へ此段上申候也(別冊略)

二 員數報告

最後に十二月一日付を以て木杯並酒肴料を下賜せられたる高齢者員數に關し知事より内務次官宛報告する所ありしが、其員數左の如し。

記  
 第一、八十歳以上九十歳未満ノモノ 八、〇七三人  
 第二、九十歳以上百歳未満ノモノ 三六一人  
 第三、百歳以上ノモノ 四人  
 合 計 八、四三八人

第二章 地方饗饌

第一節 有資格者調査

即位禮及大嘗祭後、大饗第一日の儀當日(十一月十六日)、地方に於て饗饌を賜はるべき有資格者の範圍は果して奈何、大體は大正大禮の際に於る例を參酌の上、決定さるべきは勿論なるも、廣く國民と共に

慶を預ち、驩を共にし給ふの聖旨に基き、當局にては事情の許す限り一人にても多く御召の恩典に浴せしむべく、前回よりも一層其の範圍を擴大するの議あり。本府大禮事務局地方饗饌係に於ても、豫じめ府下在住の有資格者名簿作製の準備をなし置くの必要を認め、七月九日内務部長名を以て、左の如き三通りの照會を發し、之が調査資料を蒐



集する所ありき。

市町村長宛

調査に必要有之候條貴部内ニ於ケル別記該當者左記様式ニ依リ御調査ノ上ニ通調製七月二十五日限御回報相成度(市八月十日)

右照會候也

追テ在官者並官公私立大學、専門學校、中等學校ニ奉職スル者及現役中ノ陸海軍々人ニ付テハ本調査表ニ記入ヲ要セザル義ニ付申添候

左記

(何々町村)

一	二	三	四
番號	資格(一人ニシテ資格重複スル者ハ各資格記入ノコト)	現住所	氏名備考

注意 一、用紙ハ美濃型紙紙使用ノコト

二、資格欄中褒章受領者ニアリテハ藍綬、綠綬等ノ種別記入ノコト

(別記)

一、有爵者

二、從六位勳六等又ハ功六級以上ノ有位帶勳者

三、褒章受領者

四、市會議員(京都市)

五、京都市ノ助役、局長、備考 未成年者ハ之ヲ除ク

府内官立學校校長  
府下諸官廳宛

調査に必要有之候條貴官並所屬吏員ニシテ(府下各驛職員(京都驛ヲ除ク)神戸鐵道管理局長へ)別記該當者ニ付左記様式ニ依リ御調査ノ上ニ通調製七月二十五日限御回報相煩度

右照會候也

左記

(何々役所)

一	二	三
番號	資格(一人ニシテ資格重複スル者ハ各資格記入ノコト)	現住所
		氏名備考

注意 一、用紙ハ美濃型紙紙使用ノコト

二、資格欄中褒章受領者ニアリテハ藍綬、綠綬等ノ種別記入ノコト

(別記)

一、高等官

二、同 待遇

三、有爵者

四、從六位勳六等又ハ功六級以上ノ有位帶勳者

五、褒章受領者

六、在職判任官ニ等以上並同待遇

備考 未成年者ハ之ヲ除ク

宛所

京都帝國大學總長、第三高等學校長、京都高等工藝學校長、京都高等實業學校長、内匠寮出張所長、京都地方裁判所長、同檢事局、京都郵便局長、備考 未成年者ハ之ヲ除ク

備考 未成年者ハ之ヲ除ク

### 第二節 日時場所範圍服裝

#### 一 大禮使長官の通牒

地方に於テ饗儀を賜はる者の日時、場所、範圍、服裝、經費及外國に在る者の酒饗料下賜に關シ、大禮使長官より内務大臣に通牒ありたる趣を以テ、八月九日付内務次官より、左の如く本府知事に通牒ありたり。

地方ニ於テ賜フ饗儀ノ日時、場所、範圍、服裝、經費及外國ニ在ル者ニ酒饗料下賜ニ付別紙ノ通大禮使長官ヨリ通牒有之候ニ付及通達候也

追而員數御取調ノ上來ル十月十五日迄ニ回報相成度

(別紙)

大禮使長官房發第一一四號

昭和三年七月二十八日

大禮使長官公爵 近衛 文 麿

内務大臣 望月圭介殿

通牒

地方ニ於テ賜フ饗儀ノ日時、場所、範圍、服裝、經費及外國ニ在ル者ニ酒饗料下賜ニ付左記ノ通決定相成候尙其ノ事務ニ關シテハ(一)地方長官(朝鮮臺灣ニ在リテハ各總督ニ委託シ主要關係官衙ノ長ト協議ノ上處理セシムルコト、シ(二)陸海軍軍隊學校艦船ニ在ル

京都中央電話局長、京都電信電話技術官駐在所、京都營林署長、帝室林野局京都出張所長、京都健康保險署長、京都驛長、大阪專賣局京都工場長、稅務署長(上京、下京、伏見、團部、福知山、宮津、峰山)、區裁判所監督判事(京都、團部、福知山、舞鶴、宮津、峰山)、同檢事局、京都刑務所、桃山勤番所、月輪勤番所、神戸鐵道管理局長

公立大學專門學校、中等學校 學校長宛

調査に必要有之候條貴職並所屬吏員ニシテ別記該當者左記様式ニ依リ調査ノ上ニ通調製七月二十五日限リ回報相成度

右照會候也

左記

(何々學校)

一	二	三	四
番號	資格(一人ニシテ資格重複スル者ハ各資格記入ノコト)	現住所	氏名備考

注意 一、用紙ハ美濃型紙紙使用ノコト

二、資格欄中褒章受領者ニアリテハ藍綬、綠綬等ノ種別記入ノコト

(別記)

一、高等官

二、同 待遇

三、有爵者

四、從六位勳六等又ハ功六級以上ノ有位帶勳者

五、褒章受領者

六、在職判任官ニ等以上並同待遇

以 上



者ニ付テハ陸海軍大臣ニ委託シ(三)外國ニ在ル者ニ對スル酒饌料下賜ノコトニ付テハ外務大臣ニ委託スルコト、相成候

追テ右關係事項各地方長官ニ可然通達相煩度尙饌料ヲ賜フ範圍ニ依リ陸海軍軍隊學校艦船ニ在ル者ヲ除キ所屬ノ如何ヲ問ハズ各道府縣ニ在ル者ニシテ各項ニ該當スルモノ(即位禮及大嘗祭後大饗第一召サルベキ者ヲ除ク)ノ總員數各道府縣別ニ取纏メ(七月二十六日官報大禮使彙報參照)來ル十月二十五日迄ニ回報相成度候

記

地方ニ於テ賜フ饌料ノ日時、場所、範圍、服裝、經費及外國ニ在ル者ニ酒饌料下賜ノ件

一日 時

十一月十六日大饗第一日當日正午

二場 所

地方廳所在地(朝鮮ニ於テハ各道廳臺榭ニ於テハ各州廳及各廳關東廳樺太廳南洋廳所在地)ニ於テ可成一個所ヲ選定スルコト但シ陸海軍軍隊學校、艦船ニ在ル者ニ付陸海軍官憲ノ選定ニ一任シ其ノ他ハ事情已ムヲ得ザル場合ニ於テ地方長官主要關係官衙ノ長ト協議ノ上二個以上ノ場所ヲ選定スルコトヲ得

三 範圍

- 一、高等官、同待遇
- 二、有 爵 者
- 三、從六位以上ノ有位者
- 四、勳六等功六級以上ノ帶勳者
- 五、褒章受領者

賜饌費用ハ一人當金壹圓五拾錢トシ賜饌者ノ數ニ應ズル金額ヲ關係各省經由地方長官又ハ陸海軍官憲ニ配付シ饌料ノ準備並賜饌場ノ準備ヲ爲サシムルコト

- 一、各地方陸海軍官憲ニ於テ賜饌ノ設備費用ヲ負擔セシムルトキハ之ヲ認容スルコト
- 二、召狀ハ各地方長官、陸海軍大臣へ取纏メ送付シ各人ニ對スル配付方ヲ委託スルコト
- 六 外國ニ在ル者ニ酒饌料下賜

- 左ニ記載スルモノニシテ即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ノ當日外國ニ在ル者ニハ酒饌料ヲ賜フコト
- 一、高等官、同待遇
- 二、有 爵 者
- 三、從四位以上ノ有位者
- 四、勳三等功三級以上ノ帶勳者

一一 府の告示と通牒

地方饌料に召さるべき者の資格届出手續及、參列者服裝の件は、七月二十六日の官報大禮使彙報を以て發表されたるにより、本府にては之に基き饌料を賜はるべき有資格者等届出其他の心得方につき、八月二十四日付府公報號外を以て左の如く告示し、同時に内務部長より管下各官署長、神職、學校長、市町村長其他に對し左の通牒を發したり。

京都府告示第五百五十六號

六、神佛各宗派管長

七、門跡寺院住職

八、道府縣會副議長、議員

九、朝鮮道評議會會員、臺灣總督府評議會會員、臺灣州協議會會員

十、市長、大連市長、旅順市長

十一、市會議長、大連市會議長、旅順市會議長

十二、東京市會議員、京都市會議員、名古屋市會議員

十三、市制第六條ノ市ノ區長、區會議長

十四、六大都市ノ市ノ參與、助役、局長

十五、町村長(名主、小笠原島世話掛、朝鮮ニ在リテハ面長、臺灣ニ在リテハ町村長、南洋ニ在リテハ總村長、區長、村長、助役ヲ含ム)

十六、在職判任官二等以上同待遇

十七、判任官三等以下ノ警察署長、稅務署長

十八、官公私立小學校公學校、普通學校及普通學堂ノ長

十九、各種事業功勞者優遇者及名望家

備考 未成年者ハ之ヲ除ク

四 服裝

一、男子ハ大禮服、正裝、通常禮服(燕尾服)禮裝通常服(フロック ロート)通常禮裝

一、女子ハ中禮服(ローブデコルテー)通常服(ローブモンタント)桂袴白襟紋付

一、神佛各宗派管長門跡寺院住職ハ前二號ノ服裝ニ相當スル服裝

五 經費

即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ノ當日(十一月十六日正午)地方ニ於テ饌料ヲ賜ハセラル、者ノ範圍、届出及服裝ノ件決定ノ上發表(七月二十六日官報大禮使彙報)セラレタルニ依リ該當者ハ左ノ通牒得本年十月十日迄ニ府廳ニ到着スベキ様届出ラルベシ

昭和三年八月二十四日

京都府知事 大海原重義

一 地方饌料ニ召サルベキ者ノ範圍

(一) 高等官、同待遇

(二) 有 爵 者

(三) 從六位以上ノ有位者

(四) 勳六等、功六級以上ノ帶勳者

(五) 褒章受領者

(六) 神佛各宗派管長

(七) 門跡寺院住職

(八) 京都市會副議長、議員

(九) 京都市會議員

(十) 京都市ノ區長

(十一) 町 村 長

(十二) 在職判任官二等以上、同待遇

(十三) 判任官三等以下ノ警察署長、稅務署長

(十四) 官公私立小學校ノ長

備考 未成年者ハ之ヲ除ク

二届 出



- (一) 前項各號ノ一ニ該當シ十一月十六日府下ニ現在スベキ者(即位禮及大嘗祭後大饗第一日、第二日、夜宴ノ儀ニ召サルベキ者ヲ除ク)ハ其ノ當時ノ宿所、召サルベキ資格、氏名及現住所ヲ記シ知事宛書留郵便ヲ以テ届出ヅルコト但シ其ノ當時ノ宿所未定ナルモノハ届書ニ其ノ旨記載シ宿所決定次第届出ヅルコト
- (二) 届出後届出事項ニ異動ヲ生ジタル者又ハ届出期日後新ニ召サルベキ資格ノ生ジタル者ハ直ニ書留郵便ヲ以テ届出ヅルコト
- (三) 二個以上ノ資格ヲ併有スル者ハ其ノ全部ヲ記載スルコト
- (四) 官職ヲ有スル者ハ其ノ官職名ヲモ記載スルコト
- (五) 判任官待遇ノ者ニシテ官等ノ配當ナキモノハ本俸八十五圓以上ノ者ハ前項第十二號ニ該當スルモノナルコト
- (六) 前項第五號ニ該當スル者ハ褒章ノ種別ヲ記載スルコト
- (七) 陸海軍軍隊學校艦船ニ在ル者ハ本文ノ届出ニ及バザルコト
- (八) 前項地方饗饌ニ召サルベキ資格ニ該當スル本府在住者ニシテ十一月十六日ニ本府外ニ現在スル者ハ其ノ地ノ地方長官(内地ニ在リテハ道廳長官、府縣知事、朝鮮、臺灣ニ在リテハ總督、關東州、樺太、南洋ニ在リテハ長官)宛宿所、召サルベキ資格、氏名ヲ書留郵便ニテ届出ヅルコトニ定メラレアルヲ以テ注意ノコト(七月二十六日官報大禮使彙報參照)

三 服 裝

- (一) 男子ハ大禮服、正裝、通常禮服(燕尾服、<sup>シルクハット</sup>黒高帽)、禮裝、通常服(フロックコート)、通常禮裝ノコト
- (二) 女子ハ中禮服(ローブデコレター)、通常服(ローブモンタ

三 關係方面に協議

本府知事は前掲大禮使長官の通牒に基き、豫じめ饗饌場の場所、員數、注意事項、資格届出、服裝等に關する全般の方法を定め、之を關係官衙學校長等に諮りて承認を求むべく、九月五日付を以て左の如き協議書に別紙を添へ、京都帝國大學總長外十八官衙學校長に宛發送する所ありたり。

地方饗饌事務ニ付協議ノ件

今回内務次官ヨリ左記寫ノ通大禮使長官ヨリ内務大臣宛通牒アリタル旨通達有之候ニ付テハ本府ハ別紙ノ方法ニ依リ地方饗饌事務ヲ處理致度候條御諒承相願度  
右御協議旁得貴意候  
追テ別ニ御意見御座無ク候ハバ右ニ依リ處理可致候條御含ミ相願度此義申添候

(別 紙)

- 一、京都府地方饗饌場ノ場所、員數等
- イ、場 所  
京都市官幣大社平安神宮境内廣庭トス  
但シ陸海軍官衙ニ在職スル者及在郷陸海軍軍人ノ有資格者ノ饗饌場ニ付テハ目下陸海軍官衙ト協議中ナレバ協議纏マリ次第告示ス
- ロ、賜饌資格者概數
- 一、京都市内資格者(市會議員) 四六三  
(有位帶勤者)

ント) 袴袴、白襟紋付ノコト

(三) 神佛各宗派管長門跡寺院住職ハ前二號ノ服裝ニ相當スル服裝ノコト

(四) 已ムテ得ザル事情ノ爲成規ノ服裝ヲ整へ難キモノアルトキハ男子ハ「モーニングコート」、紋服並紋付羽織(縫紋ヲ除ク)及袴ヲ着用シ得ルコト

(五) 教誨師、基督教々師等、禮服ニ相當スル服裝アルモノハ其ノ服裝ヲ以テ代用シ得ルコト

四 場 所

京都市 官幣大社 平安神宮境内廣庭  
但シ陸海軍官衙勤務ノ者及在郷軍人ノ饗饌場ハ追テ告示ス  
禮總第二四八號  
昭和三年八月二十四日

京都府内務部長

官國幣社、府社、郷社、村社ノ宮司、社司、社掌殿

各官署長殿

官公私立學校長、小學校長殿

市町村長殿

御大禮ノ地方饗饌ヲ賜ハル者ノ届出ノ件

今秋行ハセラルベキ 御大禮ノ地方饗饌ニ關シ資格者届出ノ件本日

京都府告示第五百五十六號ヲ以テ告示セラレタルニ因リ該當者ハ期

日迄ニ無洩届出候様關係ノ向ヘ特ニ御注意相成度

右 通 牒 候 也

二、郡部有資格者(有位帶勤者) 町 村 長

三九一  
二六七

三、官廳及官立學校

一、二八五

四、學校關係

一、八七二

五、有爵者(但シ郡部)

一〇

六、褒章受領者

一〇三

七、佛教宗派管長(管長二五名ノ内)

二一

八、門跡寺院住職

一〇

九、宮司以下神職(宮司ノ内勅)

六五

一〇、府會議員(議員四十一名ノ内)

三二六

二、地方名望家

三二八

三、他府縣在住者ニシテ當日

六五〇

府下ニ現在スベキ者

五、五〇一

計

外ニ在郷將校

ハ、參入上ノ注意

一、必ズ午前十一時迄ニ饗饌場ニ參入セシムルコト

二、參入證及御召狀ハ當日必ズ持參セシムルコト

三、饗饌場ヘ洋杖等ノ携帶品ヲ持參セザル外可成外套等モ着用

セズ身輕ノ服裝ニテ參入セシムルコト

二、賜饌資格ニ關スル注意事項

イ、地方饗饌ニ召サルベキ資格ハ七月二十六日官報大禮使彙報ニ

掲載サレ又前記内務次官通達ノ通りナルモ右ノ内

1 勳 一 等



- 2 功一級
  - 3 公 爵
  - 4 從一位
  - 5 京都地方裁判所長
  - 6 京都地方裁判所檢事正
  - 7 帝國大學總長
  - 8 勅任官タル京都高等蠶業學校長
  - 9 勅任官タル第三高等學校長
  - 10 勅任官タル京都高等工藝學校長
  - 11 貴族院議員衆議院議員
  - 12 府會議長
  - 13 京都市長
  - 14 京都市會議長
  - 15 京都市在勤勅任官同待遇
  - 16 京都市在住有爵者
  - 17 京都市所在各官衙、學校ノ長タル奏任官、同待遇
  - 18 京都市助役及局長
- 等ノ大饗又ハ大饗夜宴ニ召サセラルベキ者ヲ除ク義ニ付一般ニ注意ノコト
- ロ、七月二十六日官報大禮使彙報ニ掲ゲラレタル各項ノ資格ヲ具備スルモ未成年者ハ除カル、義ニ付一般ニ注意ノコト
- 三、資格 届 出
- 賜饗資格者ニシテ十一月十六日府下ニ現在スベキ者ハ十月十日迄

- ニ、(1)十一月十六日現在スベキ宿所、(2)資格、(3)氏名及、(4)現住所ヲ當府知事宛書留郵便ヲ以テ届出(八月二十四日本府公報登載京都府告示第五百五十六號御参照)ツベキコトトナセルニ付左記御了知ノ上貴(廳、學校)職員該當者ノ届書ヲ取纏メ御發送相成様致度
  - イ、届出後届出事項ニ異動ヲ生ジタル者又ハ届出期日後新ニ召サルベキ資格ノ生ジタル者ハ直ニ書留郵便ヲ以テ届出ノコト
  - ロ、二個以上ノ資格ヲ併有スル者ハ其ノ全部ヲ記載スルコト(例之高等官五等、京都帝國大學教授)從六位陸軍歩兵少尉藍綬褒章受領ノ如シ)
  - ハ、官職ヲ有スル者ハ其ノ官職名ヲモ記載スルコト(例之判任官二等、京都帝國大學書記四級)ノ如シ)
  - ニ、判任官待遇ノ者ニシテ官等ノ配當ナキモノハ本俸八十五圓以上ノ者ハ資格アルモノト定メラレタルニ付俸給額記入ノコト(例之判任官待遇何々(職名)月俸百圓ノ如シ)
  - ホ、褒章受領者ニ付テハ褒章ノ種別記入ノコト(例之藍綬褒章又ハ綠綬褒章受領ノ如シ)
  - ヘ、陸海軍軍學校艦船ニ在ル者ハ陸海軍大臣へ資格届出ヲナスベク當廳へ届出ツベキ義ニ無之ニ付注意ノコト
- 四、服 装
- イ、男子 大禮服、正裝、通常禮服(燕尾服、黒高帽)禮裝、通常服(フロックコート)、通常禮裝
- ロ、女子 中禮服(ローブデコレター)、通常服(ローブモンタン)

### 四 武德會構内の使用

地方饗饗場が平安神宮境内に決定せるを以て、當日使用すべき器具置場、その他の用途に充つべく、西に隣接せる武德會本部の構内並に建物の借受方に關し、左の内容により十月三日付内務部長名を以て、武德會長宛依頼したる處、同五日付承諾の旨同會本部より回答に接したり。

種 別	借用期間	用 途	備 考
倉 庫	自十一月末日 至十一月十六日	土器膳等ノ用器 保管	平坪凡五坪錠前ノ設 備アル箇所
武 德 殿	十一月十六日	賜饗拜受者臨時 避難所	當日非常天災等ノ場 合一時避難所
正門内廣庭	十一月十六日	平安神宮(ヘノ通 路及車馬置場)	

### 第三節 資格其他事務取扱方

#### 一 判任官二等待遇の取扱方

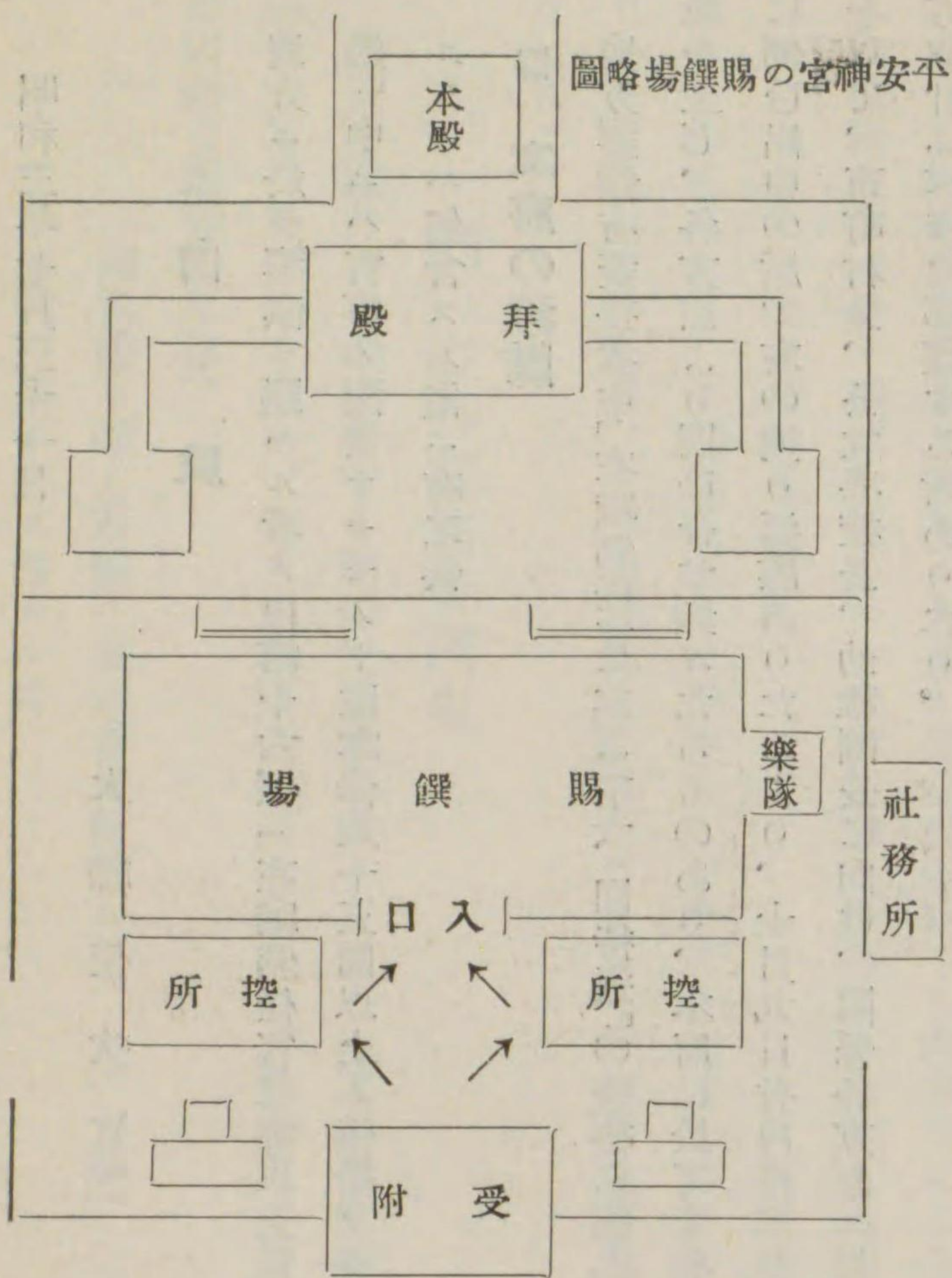
##### イ 大禮使の通牒

賜饗資格者の中判任官二等待遇以上の者の取扱方に關し、八月九日付内務大臣秘書官より本府に左の如き通牒ありたり。

地方饗饗ヲ賜ル者ノ内官等ノ配當ナキ在職判任官二等待遇以上ノ者ノ取扱ニ關シ別紙ノ通り大禮使次官ヨリ内牒有之候

(別 紙)

大禮使發第一一五號  
長官官房



- ト、桂袴、白襟紋付
- ハ、神佛各宗派管長、門跡寺院住職ハ前二號ニ相當スル服裝
- ニ、已ムヲ得ザル事情ノ爲成規ノ服裝ヲ整ヘ難キモノアルトキハ男子ハ「モーニングコート」紋服並紋付羽織(縫紋ヲ除ク)及袴ヲ着用シ得ルコト
- ホ、教誨師、基督教教師等禮服ニ相當スル服裝アルモノハ其ノ服裝ヲ以テ代用シ得ルコト
- 五、御召狀及參入證ノ送付
- 十一月一日頃貴(廳、學校)在職ノ賜饗資格届出者ニ對スル御召狀及參入證ヲ一括シテ貴官宛送付致スベキニ付直ニ本人ニ御交付ナサレタシ



昭和三年七月三十一日

大禮使次官團

内 牒

地方ニ於テ饗饌ヲ賜ハル者ノ内第十六項「在職判任官二等以上同待遇」中ニハ官等ノ配當ナキモノト雖本俸八十五圓以上ノ俸給ヲ受クルモノハ包含スル儀ニ有之候

本府の移牒

地方饗饌有資格者中「在職判任官二等以上、同待遇」の資格に關し疑義を生じ、各方面より問ひ合せ頻々たるものあり、本府に於ても其筋に伺ひ出中の所、右の通り通牒ありたるより、十月九日付内務部長名を以て、市町村長、公立學校長、幼稚園長に向け、關係各方面へ周知方取計ふべき旨移牒する所ありたり。

記

地方饗饌賜饌資格ニ關スル件

地方ニ於テ饗饌ヲ賜ハセラル、諸員中第十六項「在職判任官二等以上、同待遇」ノ資格ニ關シ今回其ノ筋ヨリ左ノ通牒有之候條關係者へ周知方取計相成度右通牒候也

一、地方饗饌賜饌資格第十六項「在職判任官二等以上、同待遇」中判任官待遇ノ者ニ付キテハ總テ本俸八十五圓以上ノ俸給ヲ受クル者ヲ以テ有資格者トシテ取扱フコトニ決定ス

一 陸海軍關係者取扱

ヲモ包含スル儀ニ有之且右費用ヲ負擔スルトキハ豫メ承認ノ申請ハ必要無之候

二、通常服(フロックコート)著用ノ場合帽子ハ黒山高、黒中山帽ニテモ差支無之

三、「紋服、紋附羽織、袴」トアルハ紋服ノ上ニ紋附羽織ト袴ヲ著用スル場合ノミニ限り縞又ハ緋等ノ衣服ノ上ニ紋附羽織ト袴ト著用スルハ許サレズ

四、和服又ハ「モーニング」著用ノ場合帽子ニ關シテハ制限無之

三 外人を含まず

地方饗饌を賜はるべき諸員中に、外國人中の有資格者を含むや否やにつきて疑義を生じ居たる所、九月十四日付を以て大禮使次官より

大禮後地方ニ於テ饗饌ヲ賜ハルベキ諸員中ニ外國人ハ先例ノ通包含セザルモノト決定相成候(下略)

云々との意味にて、内閣書記官長に照會あり、更に内務次官に移牒ありし赴きを以て、九月二十一日内務大臣秘書官より本府知事に移牒ありたり。

四 在外資格者調査

更に外國に在る者に對する酒饌料下賜に關し、豫じめ之が員數等を調査し置くの必要を認め、九月十四日付内務部長より、各市町村長に左の如く照會したり。

御大禮ニ際シ外國ニ在ル者ニ對スル

酒饌料御下賜ニ關スル件

地方饗饌を賜ふ有資格者中、陸海軍關係者は、地方のものとは別の場所に參列せしめて差支へなきや及び、女子の服装に關する疑義につき八月十七日付本府知事より内務次官に對し、左の如く伺ひ出でたり。

地方饗饌ニ關スル件

本月九日内第七八六號御通達標記ノ件ニ關シ左記ノ廉承知致度候條至急御回示相煩度  
右相伺候也

記

一、本府ノ饗饌場ハ前回ノ例モ有之陸海軍官憲ト協議ノ上二個以上ノ場所ヲ選定致シ陸海軍官衛ニ勤務スル有資格者並ニ在郷將校等ハ陸海軍官憲ノ設ケラル、場所ニ參列セシムルモ差支無之哉

二、女子ノ服装ニ關シテハ前回ノ例モ有之白襟紋付ノ生地ハ無地ニシテ地質、色合、裾模様ノ有無ハ各自ノ意ニ任セ便宜袴ヲ著セシムルモ差支無之哉

右に對し、九月七日付内務大臣秘書官より伺ひ出での見込通りにて差支へ無之旨本府知事に回報ありたり。

更に八月二十二日付を以て饗饌の設備費用並に服装の内容に關する疑義につき本府知事より内務次官に伺ひ出でをなしたる所九月十日付内務大臣秘書官より左の如く知事宛回答に接したり。

地方ニ於テ賜フ饗饌ニ關シ客月二十二日付御照會ノ件左記ノ通大禮使次官ヨリ回答有之候ニ付御承知相成度候

記

一、「設備費用」ハ賜饌會場ノ設備費ノミナラズ賜饌用ノ器具類費

標記ニ關シ其ノ筋ニ於テ調査上必要ノ趣ニ付貴町内ノ左記該當者ニシテ大饗第一日ノ儀ノ當日(十一月十六日)外國ニ在ル者ノ氏名、資格(官職アル者ハ官職名ヲモ記入ノコト)及在留國名御取調ノ上九月二十日限御回報相成度右照會候也

追テ本件ハ該當事項ノ有無共回報相成度申添候

- 一 高等官同待遇
  - 二 從四位以上ノ有位者
  - 三 勳三等功三級以上ノ帶勳者
- 右各號共官廳官公立學校ニ在職スル者及陸海軍官衛軍隊學校艦船ニ在ル者ニ付テハ調査ニ及バザルモノトス

尙公立大學長、公立專門學校長に對しても、職員中外國に在る高等官同待遇者の氏名資格回報方、照會する所ありたり。

五 助役、臨時代理は認めぬ

地方賜饌の有資格者中、町村長に代るべき助役又は事務管掌の場合に於ける臨時代理者は、賜饌資格を有するや否や、この點に關する疑義につき嘗て宮内官との打合せ會に於て話題に上りしも、未解決の儘となり居りしより、九月二十五日付知事名を以て改めて内務次官に左の如く問合せの照會を發する所ありたり。

地方饗饌賜饌資格ニ關スル件

地方賜饌ニハ町村長モ御召ノ榮ヲ擔フコト、相成居候處實質的ニ町村長ト其ノ性質ヲ同ジクスル町村制第四百四十四條ニ定ムル町村長臨時代理者ニ付テモ同様ノ賜饌資格アルモノトシテ處理致スベキ義ト被存候得共至急何分ノ御回示相煩度



右爲念照會候也

追テ町村長缺員中ノ町村長代理助役ハ如何ニ取扱フベキ哉此ノ義併セテ御伺致度申添候

右に對し翌六日付内務次官より電報を以て「町村長代理、臨時代理者は地方饗饌の資格者と認められず」との回答あり、結局資格者は町村長に限らるゝことに決したり。

### 六 功勞者名望家

#### イ 員數に關する内牒

更に地方饗饌に召さるべき者の中、其の地方に於ける各種事業功勞者優遇者及名望家の員數に關し、八月十六日付大禮使長官より本府知事宛左の如く内牒に接したり。

内 牒

即位禮及大嘗祭大饗第一日ノ儀ノ當日地方ニ於テ賜フ饗饌ニ召サルベキ者ノ内第十九項「各種事業功勞者優遇者及名望家」ニ付テハ貴官ニ於テ資格項目ヲ定メ左記指定人員以内ニ於テ可然選定相成度尤モ右資格ニ關シテハ各省ニ於テモ相當希望アルコトト被存候ニ付此ノ點ニ付テハ特ニ留意セラレ彼是權衡ヲ失スルガ如キコト無之様爲念申添候

追テ資格項目決定ノ上ハ九月三十日迄ニ報告相成度尙別紙大正四年大禮使長官ヨリ關係官廳ニ通牒シタル「地方名望家其ノ他ノ優遇者」資格項目御參考迄ニ添付致候

記

ルベキ者ノ内第十九項「各種事業功勞者優遇者及名望家」ノ指定人員ヲ左記ノ通増加致候條左記條件ニ依リ撰定相成度

- 一、指定人員 三百七十八名
- 一、左記ノ者ヲ優先撰定シ殘餘アレバ貴官ニ於テ適宜撰定ノコト
  - 一、在郷軍人聯合分會長 全部
  - 一、私立中等學校長 全部
  - 一、功七級帶勳者 總代(若干名)
  - 一、市會議員 總代(若干名)
  - 一、市制第六條ノ市ノ區會議員 總代(若干名)
  - 一、赤十字社有功章受領者 總代(若干名)
  - 一、正七位以下有位者 總代(若干名)
  - 一、勳七等以下帶勳者 總代(若干名)
  - 一、青年團長 總代(若干名)

#### 次官ノ通牒

地方饗饌ニ召サルベキ第十九項ノ事業功勞者等配付人員今回特ニ増加相成候處右ニ列記以外ノ者ニシテ之等ト同様御召ヲ要スル者モ可有之ト存候ニ就テハ夫等撰定上ノ權衡ハ貴官ニ於テ御考慮ノ上配付人員内ニテ適宜鹽梅可然御撰定相成候様致度候

#### ニ 人選標準項目

地方饗饌有資格者中に地方の名望家、功勞者を加ふべき旨を以て、内務省より本府に通牒あり、其名望家功勞者とは果して如何なる人を

(大正四年大禮使長官ヨリ關係官廳へ通牒シタルモノハ省ク)

#### 口 員數緩和法の依頼

之に對し本府知事は、員數に於ては各省よりの希望もあり、これ等を參酌する時は到底御指示に副ひ難き事情ありとの理由を具し、九月十二日付大禮使長官に對し、左の如く緩和方に關し依頼狀を發する所ありたり。

地方ニ於テ賜フ饗饌ニ召サルベキ者ノ内各種事業功勞者優遇者及名望家ニ關スル件

八月十六日大禮使長官官房發第一二一號ヲ以テ地方ニ於テ賜フ饗饌ニ召サルベキ者ノ内第十九項「各種事業功勞者優遇者及名望家」ノ員數ニ關シ本府ハ特ニ三百二十八人ノ御指定相受ケ候處各省ヨリノ右希望總人員ハ約七百余人ニモ達シ居リ御指定ノ員數ニテハ到底右夫々ノ希望通計ラヒ兼候實狀ニ有之旁本府ハ御大禮トノ關係モ特ニ深キ次第ニ有之候ニ付テハ曩ニ御指定相成候員數相當增加方御配慮相願ハレ間敷候哉此段及御依頼候也

#### ハ 指定人員増加

地方饗饌に召さるべき有資格者中「各種事業功勞者及名望家」の指定人員増加方に關し、十月十三日付大禮使長官より左の如く内牒あり、同時に同次官よりも左の通知に接したり。

内 牒

即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ノ當日地方ニ於テ賜フ饗饌ニ召サ

指すか、之が選擇の標準につき、本省よりは左の如く項目を指示し來り、本府知事は之に基きて人選をなす所あり、然るに一方大禮使長官よりは、最高程度の人員を限定し來り居り、此範圍にて選定せざるべからざるを以て、之が人選には容易ならざる苦心を要するものありしが、結局之が該當者として七百二十二名を選定する所ありたり。

#### 地方饗饌ニ關スル優遇者名望家、功勞者項目

- 一、内務大臣ノ選奨若ハ表彰シタル自治功勞者、社會事業功勞者
- 一、宮内大臣其他各大臣ノ選奨者表彰者
- 一、警察官消防官吏功勞記章佩用者
- 一、愛國婦人會佩特別徽章者
- 一、府醫師會長、副會長、郡市醫師會長
- 一、府齒科醫師會長、副會長、郡市齒科醫師會長
- 一、府藥劑師會長及副會長
- 一、各省關係各種委員會審查會委員
- 一、森林會議員
- 一、茶業組合聯合會長及副會長
- 一、商工會議所會頭副會頭及議員
- 一、京都銀行集會所委員長及役員
- 一、在郷軍人聯合分會長
- 一、六人以上陸海軍現役兵ヲ出シタル家ノ戶主
- 一、中等程度以上ノ私立學校長
- 一、府郡市教育會長
- 一、帝國美術院審查委員
- 一、所得稅調查委員總代
- 一、日本海員救濟會佩一等有功章
- 一、義勇財團海防義會寄附者總代
- 一、鐵道運輸貢獻者、同從業者教化功勞者
- 一、日本赤十字社佩有功章受領者
- 一、濟生會寄附者總代
- 一、府消防組頭總代
- 一、府郡市農會水產會、山林會長
- 一、蠶糸同業組合聯合會長、副會長
- 一、産業組合聯合會長副會長
- 一、取引所理事長及組合委員長
- 一、在郷軍人會員有功章授與者
- 一、在郷軍人分會長總代
- 一、私立盲學校聾啞學校長
- 一、府郡市男女青年團長
- 一、所得稅審查委員
- 一、相續稅審查委員總代
- 一、帝國水難救濟會佩一等有功章
- 一、帝國飛行協會有功章所持者



- 一、裁判所各種調停委員總代
- 一、辯護士會長副會長
- 一、執達吏會長公證人會長
- 一、保護事業功勞者
- 一、社會事業社會教化功勞者
- 一、方面委員總代
- 一、健康保險部長、健康保險審査委員會
- 一、帝國軍人後援會寄附者總代
- 一、同仁會有功會員
- 一、元代議士
- 一、愛國婦人會支部長、副支部長
- 一、自治功勞者
- 一、郡黨系同業組合長
- 一、大嘗祭獻殺者
- 一、功七級帶勤者總代
- 一、大嘗宮造營用材供納者總代
- 一、勤七等以下帶勤者總代
- 一、正七位以下有位者總代

文部省關係ノ分

- 法令ニヨリ設置セラレタル文部省關係各種調査會ナドノ委員
- 帝國美術院美術展覽會審査委員
- 中等以上ノ私立學校長(實業補習學校長ヲ含ム)
- 私立盲學校長聾啞學校長
- 公私立青年訓練所主事
- 顯著ナル私立圖書館長
- 顯著ナル私立博物館長
- 文部省直轄學校ノ奏任以上取扱ノ雇外國人教師
- 道府縣郡市教育會長
- 道府縣郡市男女青年團長
- 文部大臣ヨリ選奨セラレタル左ノモノ
- イ、教育功績狀受領者
- ロ、實業補習學校長其他實業補習學校關係者ニシテ文部大臣ヨリ表彰ヲ受ケタルモノ(但シ選奨當時ヨリノ在職者ニ限ル)
- 教育、教化、體育、學術、技藝、宗教、文藝、美術、音樂ナド文化風教ニ功勞アルモノ
- 神佛道及基督教々師中ノ功勞アルモノ
- 雜誌、新聞、通信ノ功者シ經營者、記ニテ勞アルモノ

第四節 軍人軍屬の賜饌場

一 師團と要港部に協議

地方饗饌を賜はる者の場所は、府に於て行ふもの、外、陸軍々人軍屬の有資格者は、別に第十六師團長の定むる適當の場所、海軍々人軍屬の有資格者は、舞鶴要港部司令官の定むる適當の場所に於て、賜饌の光榮に浴せしむるようには如何との事にて、内務次官より通牒の次第もありたるにより、本府知事は八月二十九日付を以て第十六師團長舞鶴要港部司令官に宛て、左の如き同文の通牒を發し協議を求むる所ありたり。

地方饗饌場所ニ關シ協議ノ件

即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ當日地方ニ於テ饗饌ヲ賜ハル者ノ内陸軍軍隊學校ニ在ル者(第十六師團長ハ)海軍軍隊學校艦船ニ在ル者(舞鶴要港部司令官ハ)ニ付テハ貴官ニ於テ御取扱相成コト、存ゼラレ候ニ付テハ大正大禮ノ際ノ例ニ倣ヒ貴官ノ定ムル最寄饗饌場ヘ「陸軍官衛ニ在職スル者及在郷陸軍軍人ノ有資格者」(舞鶴要港部司令官ハ)海軍官衛ニ在職スル者及在郷海軍軍人ノ有資格者ヲ參列セシムルコトニ御同意相願度内務次官ノ通牒ニ基キ右及協議候也

追テ左記事項御合ノ上本文御同意相願度申添候

- 一、「陸軍官衛ニ在職スル者及在郷陸軍軍人ノ有資格者」(舞鶴要港部司令官ハ)海軍官衛ニ在職スル者及在郷海軍軍人ノ有資格者

- 中貴官ノ定ムル饗饌場ニ參列スル者ニ付テハ、一、宿所二、召サレベキ資格三、氏名ヲ小官迄通知相願フコト
- 二、前項資格者ニシテ已ムテ得ザル事情ノ爲メ貴官ノ定ムル饗饌場ニ參列シ得ザル者ニ限リ本府饗饌場ニ參列セシムルモノトス
- 三、貴官ノ定ムル饗饌場ノ場所及當該饗饌場ニ參列スベキ者ノ所屬區域御決定ノ上ハ通知相願フコト

二 賜饌場所決定

地方饗饌の有資格者中、在郷陸海軍軍人等の饗饌物に關しては、豫て本府知事より府下の陸海軍官衛長官に交渉し、協議を遂けたる結果、九月二十二日に至り決定したるを以て、同日付府公報號外を以て左の如く告示したり。

京都府告示第六百二十三號

大饗第一日ノ儀ノ當日(十一月十六日)地方ニ於ケル饗饌賜饌資格者中在郷陸海軍軍人等ノ饗饌場ニ關シ左ノ通關係陸海軍官衛ト協定セリ。

昭和三年九月二十二日

京都府知事 大海原重義

- 一、在郷陸軍軍人(退役者ヲ含ム)ノ地方饗饌有資格者ニシテ第十六師團長ノ統轄スル饗饌場ニ參列希望ノ者ハ左記陸軍饗饌場ニ參列スルコト

京都衛戍司令官ノ定ムルモノ 京都偕行社及歩兵第九聯隊  
福知山衛戍司令官ノ定ムルモノ 福知山偕行社

三 參列心得方照會

同時に内務部長より各官署長、官公私立學校長、市町村長等に對し其參列心得方に關し左の如く照會を發する所ありたり。

在郷陸海軍軍人ノ地方饗饌ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本日本京都府告示第六百二十三號ヲ發セラレ在郷陸軍軍人ノ有資格者ハ京都偕行社、歩兵第九聯隊、福知山偕行社及舞鶴偕行社ニ於ケル陸軍饗饌場ニ參列差支ナキコトナリタルヲ以テ可

- 舞鶴衛戍司令官ノ定ムルモノ 舞鶴偕行社
- 二、在郷海軍軍人(退役者ヲ含ム)ノ地方饗饌資格者中加佐郡内ニ在ル者ハ舞鶴要港部司令官ノ定ムル饗饌場(舞鶴水交社及舞鶴海友社ノ豫定)ニ參列スルコト
- 但シ已ムテ得ザル事情ノ爲メ右海軍饗饌場ニ參列シ難キ者ハ此ノ限ニ在ラザルコト
- 三、前二項ニ定ムルモノノ外在郷陸海軍軍人ノ地方饗饌有資格者ノ饗饌場ハ京都市平安神宮境内京都府地方饗饌場ナルコト
- 四、第一項陸軍饗饌場ニ參列ノ希望者及第二項海軍饗饌場ニ參列スル者ハ賜饌資格屆書ニ特ニ其ノ陸海軍饗饌場名ヲ附記シ提出セラ
- ルルコト
- 但シ既ニ賜饌資格屆書提出済ノ者ハ右陸海軍饗饌場名ヲ直ニ申出ララルコト
- 五、陸海軍官衛勤務ノ者ノ饗饌ニ關シテハ關係陸海軍官衛ニ於テ取扱フコトトナリタルコト



成最寄陸軍饗饌場ニ參列相成候様致度又在郷海軍軍人ニシテ加佐郡内ニ在ル者ハ已ムテ得ザル事情アル者ヲ除キ總テ舞鶴水交社及舞鶴海友社ニ於ケル海軍饗饌場ニ參列スルコトニ定メラレ候處右陸海軍饗饌場ニ參列スル者ハ府知事宛提出スベキ地方饗饌資格届書ニハ其ノ當時ノ宿所、召サルベキ資格、現住所、氏名ノ外特ニ參列ノ陸海軍饗饌場名ノ記載ヲ要スルコト相成リ若シ既ニ資格届出濟ノ者ハ其ノ參列セムトスル陸海軍饗饌場名ニ關シ直ニ追届書提出ヲ要シ候ニ付此ノ旨關係ノ向ヘ周知方至急御取計相成度

右 照 會 候 也

更ニ同日知事名を以テ第十六師團長、舞鶴要港部司令官宛公報一部宛を添へ告示の旨通報する所ありたり。

### 第五節 參列者の服装

#### 一 大禮使の内牒

即位禮及大嘗祭後大饗第一日の儀の當日、地方に於て賜ふ饗饌に召させられたる者の服装に關し、別紙の通り大禮使次官より内牒ありたる趣を以て、八月九日付内務大臣秘書官より知事宛通知に接したり。

(別紙)

大禮使  
長官官房發第一一六號  
昭和三年七月三十一日

内 牒

大禮使次官宛

- 校等ニ在ル者ニハ其ノ長ヲ經、其ノ他ノ者ニハ直接書留郵便ヲ以テ、京都市以外ノ者ニハ町村長ヲ經テ不日饗饌場參入證ヲ交付ス
- 四、饗饌ヲ賜ハル者ハ餘人ヲ以テ代理スルコトヲ得ズ又同一人ニシテ數種ノ賜饌資格ヲ有スル者モ主タル資格ノ外他ノ資格ヲ餘人ヲ以テ代理スルコトヲ得ズ
- 五、小學校教員ノ府縣ニ於テ定メタル服装ノ制服ヲ以テ饗饌ヲ賜フ者ノ服装ニ代用スルコトハ差許サレズ

### 第六節 御召狀到着と發送

地方饗饌御召狀の本府關係の分七千三百通は、十一月一日大禮使より府廳に到着したるが、其の御召狀の様式は左の如し。

六寸二分

分 五 寸 四

來十六日大饗第一日ノ儀行ハセラル、  
ニ付當日正午京都市平安神宮ニ於テ饗  
饌ヲ賜リ候條此段申入候也

昭和三年十一月一日

宮内大臣 一木喜徳郎

(位勳 氏 名 殿)

御紋章

紙質 堅紙

側金色

第二章 地方饗饌

拜啓陳者即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ノ當日地方ニ於テ賜フ饗饌ニ召サセラルルモノニシテ已ムテ得ザル事情ノ爲成規ノ服装ヲ整へ難キモノ有之候節ハ男子ハモーニングコート、紋服、紋附羽織(縫紋ヲ)袴ヲ着用スルモ不苦且教誨師、基督教教師等禮服ニ相當スル服装アルモノ及朝鮮、臺灣等ノ固有ノ禮服アルモノハ其ノ服装ヲ以テ代用スルモ差支無之候間此ノ趣旨ニ依リ便宜御處置相成候様致度

以 上

#### 二 本府の通牒

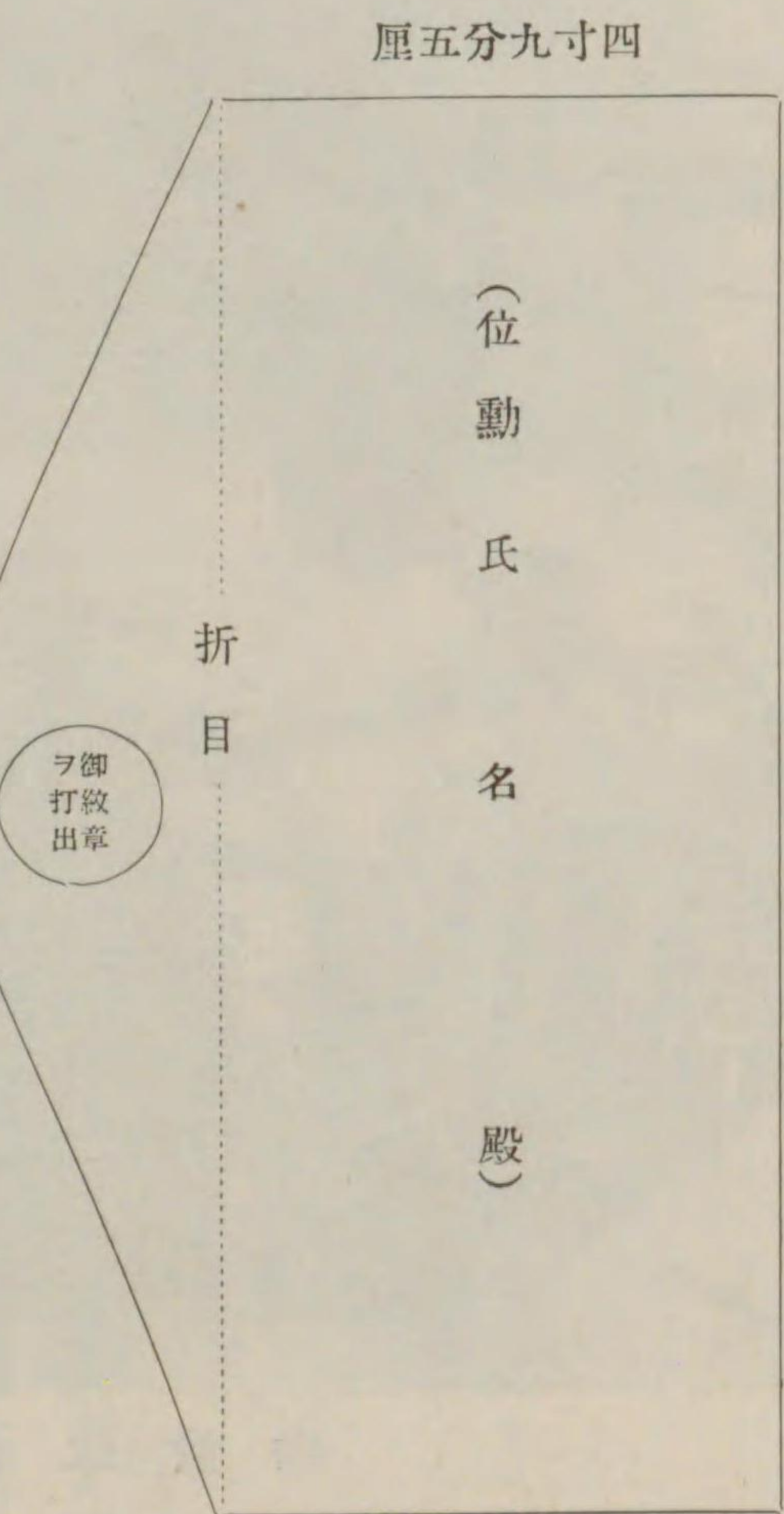
地方饗饌資格者の服装其他の心得に關し、十月二十六日付内務部長名を以て各官衙公署長、市町村長、各學校長、幼稚園長に向け、左の如く通牒したり。

地方饗饌賜饌ニ關スル件

- 標記ノ件左記ノ通其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付關係者ヘ周知方御取計ヒ相成度
- 右 通 牒 候 也
- 一、饗饌場參入者ノ帽子ハ通常服(フロックコート)着用ノ場合ハ山高、黒中山ニテモ差支ナク和服又ハ「モーニング」着用ノ場合ハ制限ナシ
- 二、女子ノ白襟紋付ノ生地ハ無地ニシテ地質、色合、裾模様ノ有無ハ任意ナリ尙便宜袴ヲ着用スルモ差支ナシ
- 三、賜饌資格届出ノ者ニ對シテハ京都市ノ官公署官公立學校、小學

封筒様式 紙質鳥ノ子紙  
六寸七分

厘五分九寸四



#### 一 御召狀發送

右御召狀は地方饗饌係にて、臨時雇數十名を督勵して宛名記載に忙殺され居たる處、全部準備整ひしを以て、十一月六、七、八の三日間に亘り、夫々發送の手續を終る所ありたり。

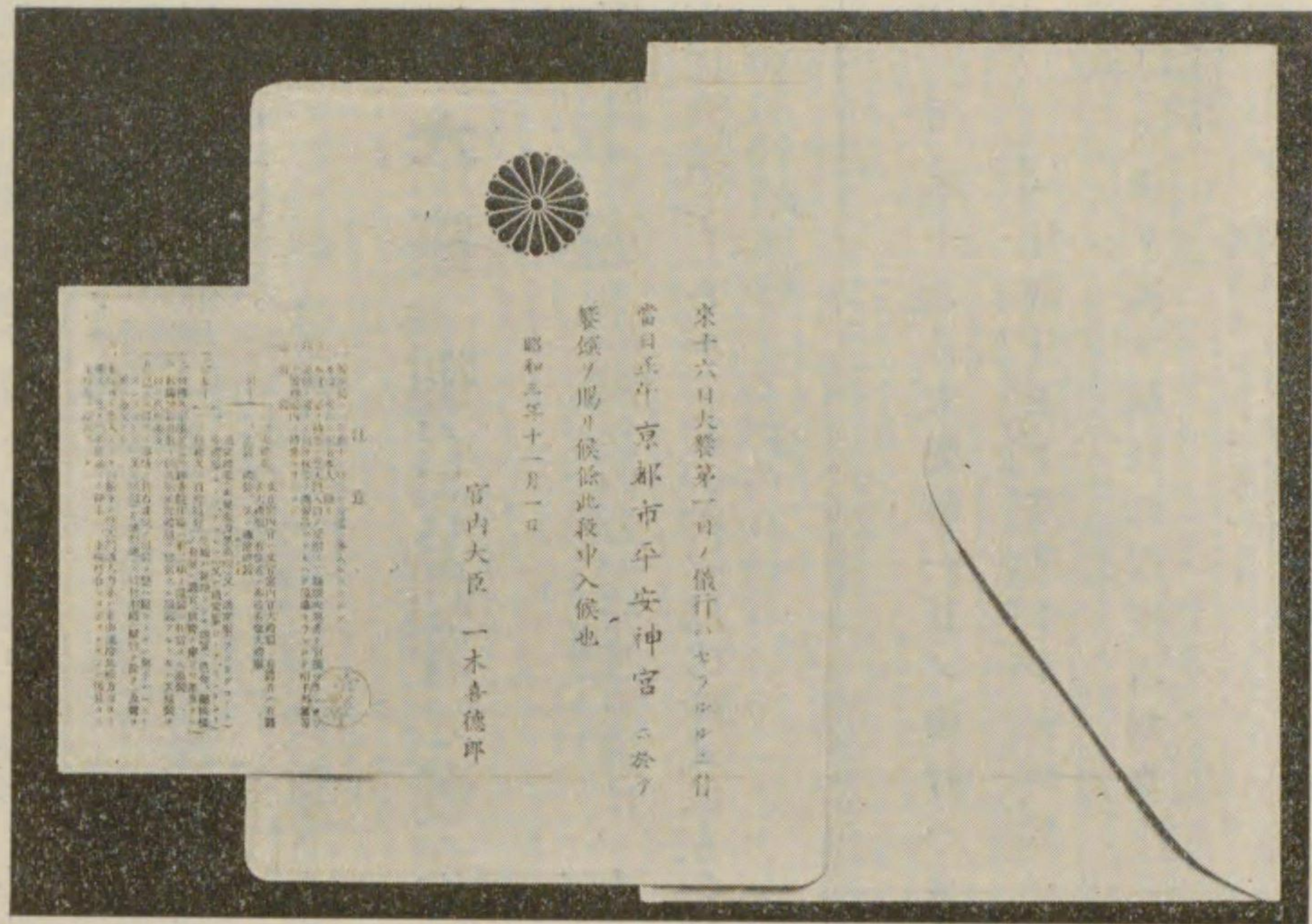
發送の方法に就ては、廳内の有資格者に對しては地方饗饌係長より各課ヘ照會して、其の課の有資格者總代一名地方課ヘ出頭御召狀を受取らしめ、府下町村在住の有資格者の分は、一纏めとして町村長宛書留にて發送し、官衙、學校奉職有資格者の分は其の長ヘ發送、其の他の分は個人ヘ直接發送する所ありたり。

在郷陸海軍人にして、陸海軍饗饌場希望の者に對しては、陸軍は第十六師團長、歩兵第二十聯隊長、舞鶴要塞司令官ヘ、海軍は舞鶴要港部司令官ヘ何れも一纏めとして發送したり。



### 第七節 賜饌場の設備と係員

府の饗饌場は平安神宮に決定せしを以て、饗饌係にては賜饌



地方饗饌御召状

當日の設備に萬遺憾なきを期するやう、係員を派して之に當らしむる所ありたり。其設備概要及當日の事務分擔左の如し。

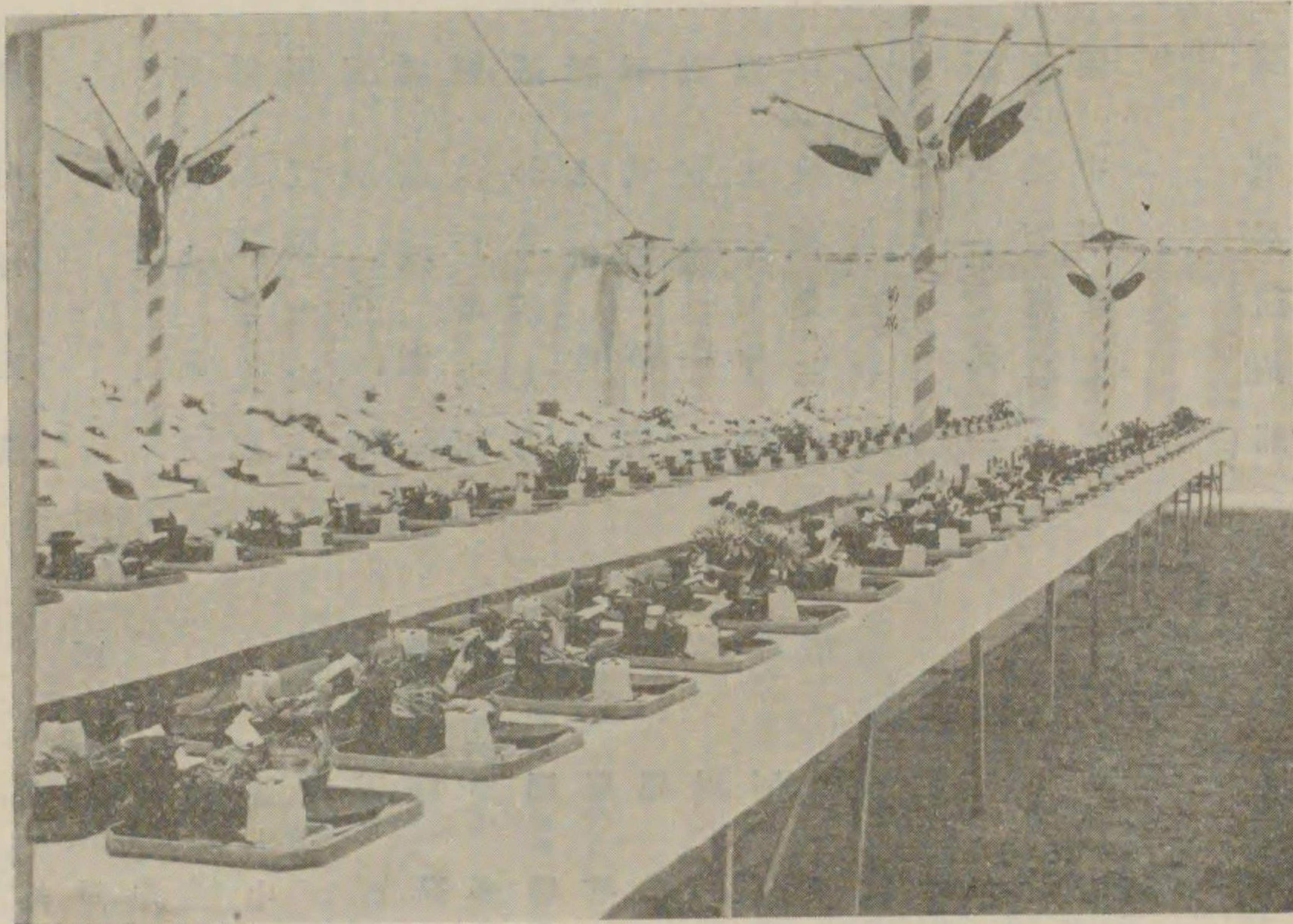
#### 一 設備

い、賜饌場 天幕張貳棟九百六十坪、

各支柱は紅白の布を以て巻付け、且恰好の所に小國旗八本を柱周に取付け、竿下には絹布を以て裝飾し、周圍には紫白の幕を繞らせり、入口は恰好の綠門を造り、萬歳旗一本、國旗を飾付け、羽二重製壁代を垂し紐を以て釣上ぐ。

中央正面には、地上高さ三尺、幅一間半長さ二間の床板張の上に白布を以て掩ひ、後部には金屏風を廻らし壇側左右には松と菊との立花を生け場内は高さ三尺、幅二尺、長さ一間の卓子を置き、下部に携帶品置棚一段を取り設け、卓子には金巾を掩ひ卓上には菊花の盛花を配置す。側面に地上高さ三尺の板張參拾坪の音楽席を設く。

天幕内四ヶ所に高聲機を設く。  
ろ、控所 天幕張三棟三百四十八坪五合大さ三尺六尺角の床几に毛布及白布を敷き茶及煙草盆の設備を爲す。  
は、事務所 天幕張一棟三十坪、



平安神宮賜饌場の設備

料理盛付を督勵せり。十一月十六日は午前六時係員全員七十四名會場に參集して、夫々擔任事務の完璧を期せり。



地方饗饌御召状發送

卓子及椅子を用意す。

に、受付所 應天門を應用し門前に大國旗を交叉し根元は杉葉を以て裝飾す。

ほ、便所 天幕張二棟二十六坪、

男子用 大便所二ヶ所、小便所二十ヶ所

女子用 二ヶ所

手洗場 六ヶ所

#### 二 料理

當日の料理は午前零時より各料理人の手に依り盛付し清酒と共に午前七時に至り之が配膳を終了せり。

#### 三 係員事務分擔

當日係員の事務分擔は左の通にして、十一月十五日は場内設備及料理用器物の拂拭配置、並保管所より運搬等の爲係員大半出張して、午後七時準備終了せり。即午後六時に到り當日出張係員を二分し、半数は午後十二時迄勤務し、他の半数は十六日午前零時出頭して前半數の者と交代し、會場の守衛並

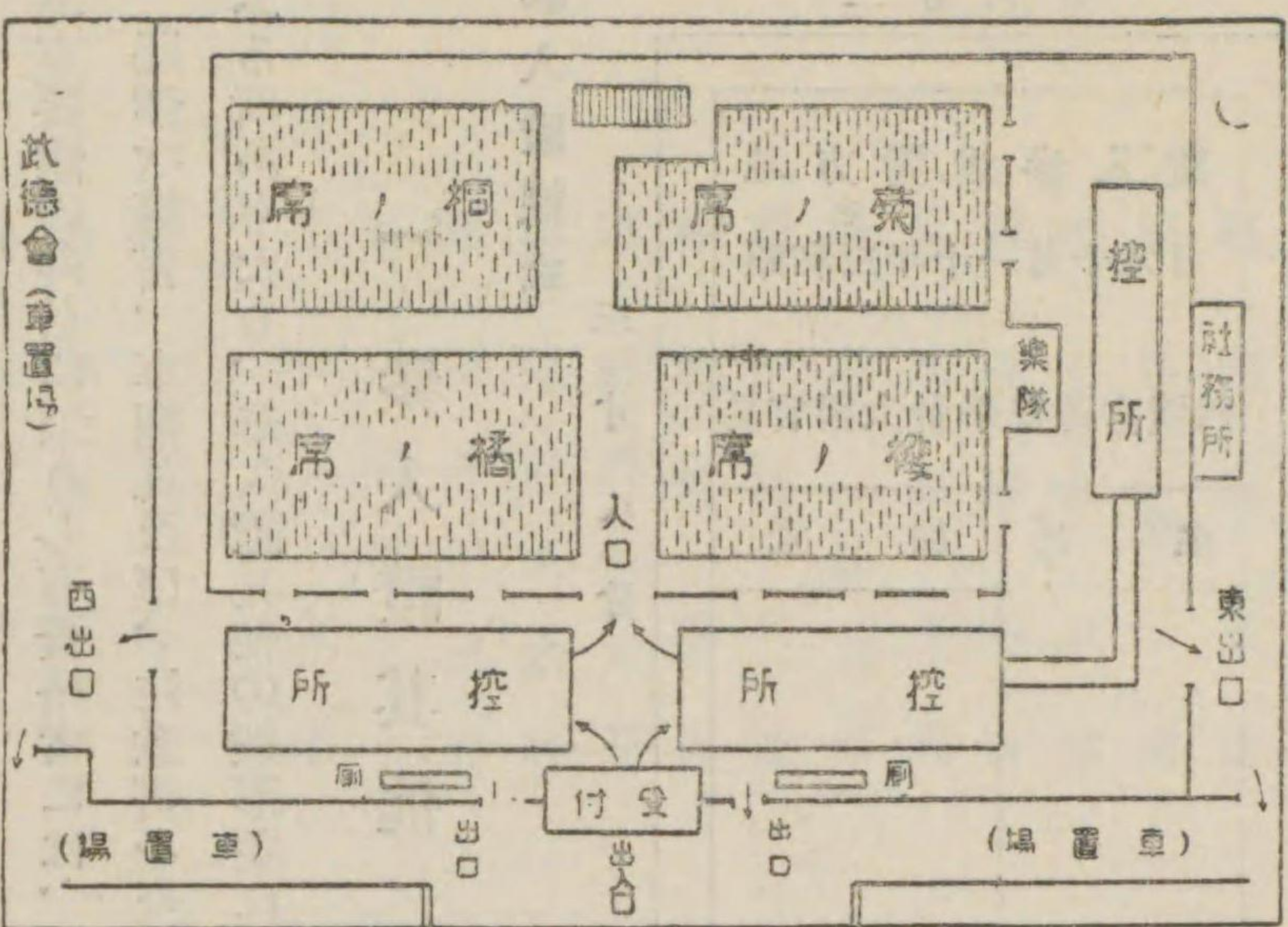






右の外賜饌次第を印刷したる「カード」を添へ、裏面に左の如き會場見取圖及注意を附記したり。

一、着席位置 (菊)ノ席  
一、饗饌場圖



一注意

- (イ) 着席ハ必ず本書記載ノ(菊)ノ席ニ就カルコト
- (ロ) 空席ヲ生ゼザル様ニ注意スルコト
- (ハ) 帽子等携帶品ハ車子ノ下段ニ置クコト
- (ニ) 出口 徒歩ノ人ハ應天門及同門前臨出口ヨリ退場ノコト
- 自動車人力車符合セノ人ハ別途御渡シタル圖面ノ車輪置場最寄ノ出口ヨリ退場ノコト

二 注意事項

御召狀ニハ地方饗饌參入證、受領書、御召狀受領後ノ手續ニ關スル注意書ガ同封シアルヲ以テ、受領者ハ同封洩レナキヤ否ヤヲ調べルコト、受領ノ上ハ受領書ヲ直チニ知事ニ差出スコト、賜饌當日自動

(第二鈴)

- 一、開宴ノ辭
- 一、君ガ代(合唱)
- 一、賜饌拜戴及御禮執奏ノ詞
- 一、賜饌
- (第三鈴)
- 一、萬歳三唱(上席者唱ヘ一同之ニ和ス)
- 一、退散

第九節 賜饌當日の狀況

一 平安神宮

十一月十六日、賜饌の當日ともなれば、會場たる平安神宮神樂前の廣場入口には、午前九時より早くも受付を開始し、來會者には參入證と引換に賜饌次第書を交付し、それら所定の控所へ入場せしめたり、之と共に車輛にて參會し、車輛の待合せを要する者には車輛札を交付し、所定の位置に車輛を整置せり。

豫め御召の光榮に浴したる總資格人員六千八百七十三人の中、午前十一時迄に約四千五百人の來會者あり、引續き定刻までに六千三百九十四人來會す、斯て午前十一時二十分となれば、第一鈴を合圖に參入者一同は控所より賜饌場に入場し、各所定の席に着くや、正午第二鈴と共に開宴をなし、左の次第により嚴肅なる賜饌の宴は開

車又ハ人力車ニテ參入ノ者ハ車輛待合セノ有無ト御召狀受領書ニ記載スルコト、又失格、賜饌當日病氣、旅行等ノ事情ヲ參列出來ザル者ハ不參届ト共ニ參入證ヲ返送スルヲ要ス

尙當日參入ノ者ハ、參入證裏面ノ注意ヲ熟讀ノ上間違ナキヤウ注意セラル、コト、即チ當日ノ參入證ハ忘レザルヤウ持參セラル、コト(御召狀ハ持參ニ及バズ)、饗饌場ニハ午前十一時三十分迄ニ參入スルコト、當日ハ混雜ヲ避ケル爲携帶品ハナルベク持參セザルコト、服装ハ注意書ヲ熟讀ノ上異式ニ渡ラザルヤウ注意スルコト、車輛ニテ參入スルトキハ、自動車ハ應天門通ヨリ、人力車ハ東山通冷泉橋方面ヨリ乘入レテ應天門前廣場ニ降車シ、賜饌終了迄車輛ヲ待タセルモノハ、係員ヨリ車輛札ヲ受取ラル、事

三 席次

一、宮中席次(皇室儀制令)ノ定メアル者ハ大體其ノ順席ニ依ルコト  
 宮中席次ノ各階ヲ一團トシ又ハ數階ヲ以テ一團若クハ數團トシ又ハ各階ノ中ニ就キ團ヲ設クルノハ差支ナク尙各團ノ内ニアリテハ必ズシモ列席者個人ニ就キ席次ヲ定ムルニ及バザルコト  
 一、宮中席次ノ定メナキ者ハ其ノ者ノ地位身分等ヲ參酌シ適宜之ヲ定ムルコト  
 次ニ各退散  
 右ノ標準ニヨリ京都府ニテハ賜饌次第ヲ左ノ通り定メラレタリ

かれたるなり。

賜饌次第

- (第一鈴)
- 一、着席
- (第二鈴)
- 一、開宴ノ辭
- 一、君ガ代(合唱)
- 一、賜饌拜戴及御禮執奏ノ詞
- 一、賜饌
- (第三鈴)
- 一、萬歳三唱(上席者唱ヘ一同之ニ和ス)
- 一、退散

斯くて劈頭石田京都市内務部長は「是より拜戴式を舉行します」との開宴の辭を述べ、一同は京都帝國大學音樂部員二十八名の奏樂の音につれて「君ガ代」を合唱し、次で來會者中の上席者陸軍中將正四位勳二等功五級天野邦太郎氏は謹嚴なる態度を以て

御大禮御舉行ニ際シ特ニ本日ヲ以テ辱クモ饗饌ヲ賜フ聖旨優渥感激ノ至リニ堪ヘズ一同益々奉公ノ誠ヲ効シ皇恩ノ萬一ニ報イ奉ラムコトヲ期ス茲ニ敬テ聖壽ノ無窮ヲ祝シ寶祚ノ長久ヲ祈リ奉ルトの賜饌拜戴の詞を述べ、更に左の御禮執奏方の詞を述べたり。

右今日ノ御禮ニ付テハ宮内大臣ヘ執奏方一同ニ代リ手續取計ラハントス各位ノ之ヲ諒セラレンコトヲ望ム  
 最後に天野中將の發聲にて 兩陛下の萬歳を唱和し、一同感激裡に鴻大なる聖徳を讃へ、けふの賜物をお土産に、午後零時十五分隨意退散したり。





(付受の宮神安平)々人る集へ場饗賜

救護に備へたり。  
式後代表者天野中將より宮内大臣官房庶務課へ呈出したる御禮言上書は左の如し。

猶當日會場東南部松林中に聖護院郵便局臨時出張所を設け、記念繪葉書郵便切手を發賣し記念スタンプ押捺等の設備をなし、同應天門東側松林中に日本赤十字社京都支部派遣の救護班を設け、萬一の



(挨拶の長部務内田石)場饗賜の宮神安平

(御禮言上書)

料紙ハ大廣奉書横ニツ折

折目	京都府ニ於テ饗饌ヲ賜ハリタル者六千八百九十二名ニ代リ謹ミテ御禮及言上候也
折目	昭和三年十一月十六日 陸軍中將正四位勳二等功五級 天野 邦太郎

資格人員及參入人員調(平安神宮)	資格人員	參入人員
高等官同待遇者	一、四九四	一、四二四
有爵者	四	三
從六位以上ノ有位者	二七四	二四九
勳六等功六級以上ノ帶動者	二三五	二二二
褒章受領者	一六〇	一五〇
神佛各宗派管長	一六	一四
門跡寺院住職	一三	八
京都府會議長、議員	三八	三六
京都市會議員	四二	四〇

第二章 地方饗饌

京都市ノ區長	二	二
町長	二四七	二四七
朝鮮道評議員	一	一
在職判任官二以上同待遇	三、二四六	二、九四〇
判任官三等以下ノ警察署長、稅務署長	二	二
官公私立小學校ノ長	三七七	三七五
第十 九 項 資 格 者	七二二	六八一
計	六、八七三	六、三九四

二 第十六師團

京都衛戍司令官(第十六師團長)の主宰する府下在住陸軍軍人、軍屬關係者の地方賜饌は、十一月十六日午前十一時五十分より、第十六師團司令部内京都偕行社及歩兵第九聯隊の二ヶ所に於て行はれたり。饗饌場の入口には大國旗を交叉し、場の周圍には黑白の幕、松竹注連繩を張り、窓等は小國旗を以て飾り、卓上には白布を敷き、菊花、萬歳旗等を諸所に配せり。

イ 京都偕行社

饗饌場主任第十六師團副官徳久中佐開宴の辭を述べ、次で賜饌拜戴者中の上席者阪本陸軍軍醫監は賜饌拜戴の詞及御禮執奏の詞(前と同様)を述べ、阪本軍醫監の發聲にて 兩陛下の萬歳を三唱し、饗饌を拜戴したる午後一時退散せり。

ロ 歩兵第九聯隊

饗饌場主任第九聯隊副官齋藤中佐開宴の辭を述べ、次で參會中の上席者酒葉中佐は賜饌拜戴の詞及御禮執奏の詞(前と同様)を述べ、齋藤



中佐の發聲にて 兩陛下の萬歳を三唱し、一同賜饌拜戴の午後一時退散したり。

右兩賜饌場に於ける參入者の内容左の如し。

地方饗饌資格人員及參入人員調

主宰者 京都衛戍司令官

資格	本來取扱フヘキ		京都府知事ヨリ委託アリタルモノ		計	
	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員
高等官同待遇	二八六	二七一	五三〇	五一八	八一六	七八九
從六位以上ノ有位者						
勳六等功六級以上ノ帶勳者			一四	一四	一四	一四
在職判任官二等以上同待遇	二八二	二六三			二八二	二六三
計	五六八	五三四	五四四	五三二	一一、一一二	一、〇六六

三 歩兵第二十聯隊

福知山衛戍司令官(歩兵第二十聯隊長)の主宰する同地方の陸軍關係者の地方賜饌は、同日午前十一時五十分より福知山歩兵第二十聯隊第一覆練兵場に於て舉行したり、式場正面には大國旗を吊し、國旗上には菊花御紋章雛形を掲げ、中央正面には壇を設け、其左右に大花立二個を設け、周圍には幔幕を張り入口には大國旗二本を交叉し、内部の机の配列は放線狀となし六人用机四十個を宛て、所々に菊花二十個を配置したり。

地方饗饌資格人員及參入人員調

主宰者 歩兵第二十聯隊長 高田友助

資格	本來取扱フヘキ		京都府知事ヨリ委託アリタルモノ		兵庫縣知事ヨリ委託アリタルモノ		計	
	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員
高等官同待遇	六四	六三	九七	九五			二一六	二一〇
從六位以上ノ有位者								
勳六等功六級以上ノ帶勳者			一一	一一			一一	一一
在職判任官二等以上同待遇	六六	六六	一〇八	一〇六			二二四	二二〇
計	一三〇	一二九	二〇五	二〇一	二	二	二二四	二二〇

四 舞鶴偕行社

舞鶴衛戍司令官の主宰する同地方陸軍關係者の賜饌は、同日午前十一時五十分より舞鶴要塞司令部内舞鶴偕行社にて舉行、式場には六尺机一個に付て六人(前後)の割合にて參會者着席、先づ主宰者舞鶴要塞司令官鈴木少將の祝詞挨拶あり、終て同司令官の發聲にて兩陛下の萬歳を三唱したる後一同乾杯零時十分散會したり。

地方饗饌資格人員及參入人員調

主宰者 舞鶴要塞司令官 鈴木松之助

資格	本來取扱フヘキ		京都府知事ヨリ委託アリタルモノ		計	
	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員
高等官同待遇者	二二	二二	五五	五二	七六	七三

開宴と祝辭

午前九時三十分頃より在郷軍人其他各資格者等續々參着し、服裝調査員は服裝の正否を調査し、受付係員は着席番號札を交付し、各參會者は第二覆練兵場にて休憩し、定刻ともなれば一同式場に參入す、斯くて第二鈴により開宴聯隊長高田大佐は起て左の開宴の辭並に祝詞を述べ。

命ニ依リ福知山陸軍饗饌場ヲ主宰スルコトノ光榮ヲ荷ヒマシタ關係上、甚ダ潜越ナガラ開宴ニ方リ謹ンデ一言御祝詞ヲ述べタイト思ヒマス。

御大禮ノ諸儀ノ中最モ重要ナル賢所大前ノ御儀、紫宸殿ノ御儀、並大嘗祭御儀等滞リナク御終了アラセラレ、本日大饗第一日ノ御儀ヲ執リ行ハセラル、ニ至リマシタコトハ、誠ニ恐懼慶賀ニ堪ヘナイ次第デアリマス。

大饗ノ御儀ハ畏クモ 君臣歡ビテ分チ樂ミテ共ニスルノ御趣旨デアルト拜察致シマス、此ノ大饗第一日ノ儀ヲ行ハセラル、ニ付テ閣下並各位ト共ニ御召ノ選ニ加ハルコトヲ得マシタコトハ、眞ニ終生ノ光榮トシテ只感激ニ堪ヘマセヌ。又職國軍幹部ノ任ニ在ル者、粉骨碎身益々誠忠ヲ盡シ、以テ聖恩ノ萬分ニ酬ヒ奉ラナケレバナラヌト思ヒマス、此ニ謹ンデ皇運ノ無窮ヲ祈リ聖壽ノ萬歳ヲ祝シ奉リマス。

右終りて賜饌を拜戴し、參會者中の上席者豫備役陸軍少將從四位勳三等山口鹿太郎氏の發聲にて 兩陛下の萬歳を三唱し、一同之に和し引續き祝宴を開き、零時四十分隨意退散せり。

五 舞鶴要港部

舞鶴要港部所屬の海軍々人、並に軍屬の地方賜饌は、同日定刻より舞鶴水交社(第一饗饌場)と、舞鶴防備隊(第二饗饌場)並に驅逐艦「竹」の三ヶ所に於て行はれたり。

資格	從六位以上ノ有位者		勳六等功六級以上ノ帶勳者		在職判任官二等以上同待遇者		計	
	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員	資格人員	參入人員
從六位以上ノ有位者								
勳六等功六級以上ノ帶勳者								
在職判任官二等以上同待遇者	三四	三三	七	七	三三	三三	一一六	一一二
計	五四	五四	六二	五八	一一六	一一二		

イ 舞鶴水交社

大食堂を以て之に充て、室内外の裝飾はすべて清楚優雅を旨とし、食卓は白布にて蔽ひ、日蔭蔓及菊花を以て裝飾し、各所に菊花(盛花)を掛け、上席壁間に大型軍艦旗を掲げ、其の左右には萬歳旗二旗を樹て窓邊、柱等は日蔭蔓を以て縁取り、卓上に饗饌を配置せり。

正午開宴となるや、司會者村田海軍少將開宴の辭並に御禮の祝詞を述べ、兩陛下の萬歳を三唱し賜饌を拜戴後引續き水交社員の祝賀宴を催す。

ロ 舞鶴防備隊

同隊の獎武館(百六十坪)内に、下士官兵食卓三十個を三列に並べ、卓を白布にて覆ひ、日蔭蔓及菊花を以て裝飾し、又中央には段を設け生花を飾り、萬歳旗二旗を樹立したり、斯くて正午司會者小澤海軍中



佐護みて饗饌拜受の詞を述べ、總員一齊に兩陛下の萬歳を三唱し、午後零時二十分退散、引續き後庭に於て記念撮影を行ひたり。

八 驅逐艦「竹」

艦内に食卓を増設し、卓上に植木鉢二個を飾り、花瓶二個に榮樹を生け、紙製萬國旗を室内に張り清楚なる裝飾を施したり。

斯て福澤海軍少佐司會者となり、開宴の辭並に御禮の辭を述べ、前同様の順序にて閉式したり。

右三會場に於ける參入人員調左の如し。

地方饗饌資格人員及參入人員調(水交社饗饌場)

主宰者 海軍少將 村田豊太郎

Table with columns for 資格 (Qualification) and 格 (Rank), listing personnel and their counts for the water exchange society banquet.

(備考) 本表ノ外京都府以外ヨリ委託アリタルモノ高等官同待遇四名アリ

地方饗饌資格人員及參入人員調(防備隊饗饌場)

主宰者 海軍中佐 小澤松三

Table with columns for 資格 (Qualification) and 格 (Rank), listing personnel and their counts for the defense force banquet.

村安井彌平外十九名を賜饌者と確定し、其の旨を地方饗饌係に通報し、同月十日御召状を發送したり。是等御召しの光榮に浴する事を得たる奉仕者は何れも此豫期せざる恩命に感泣せるは勿論、一家一門無上の名譽とし、益々至誠奉公の念を強ふせり。

大嘗宮造營材料供納者中ヨリ選定シタル地方賜饌者調

Table listing names, addresses, and occupations of local recipients of the banquet, organized by prefecture (郡).

在職判任官二等以上同待遇者

Table with columns for 資格 (Qualification) and 格 (Rank), listing personnel and their counts for the banquet.

(備考) 本表ノ外京都府以外ヨリ委託アリタルモノ在職判任官二等以上同待遇十一名アリ

地方饗饌資格人員及參入人員調(驅逐艦竹饗饌場)

主宰者 海軍少佐 福澤常藏

Table with columns for 資格 (Qualification) and 格 (Rank), listing personnel and their counts for the destroyer bamboo banquet.

六 御用材供納者の賜饌

大嘗宮御造營材料供納事務奉仕者中二十名を限り地方饗饌に召さるべき内議決定したるを以て、中村御用品調達係長は之が人選を決定する爲、材料供納品の多き町村より順次二十ヶ村を選定し各一名宛を選出せしむるの方針を定め、十一月四日午前十時より赤十字社京都支部内に於て當該二十ヶ町村長の打合せを開催し、各町村に於ける人選は、各町村長に於て審重熟慮證衡の上、之を内報せしむることとせり。

右内報は同月八日に至り全部出揃ひたるを以て、左記愛宕郡雲ヶ畑

Table listing names, addresses, and occupations of recipients of the banquet from the Awa-no-Seto district.

第十節 饗饌用器と料理

一 器具調製方下命

地方饗饌用器具調製、料理調進はそれ〴〵市内知名の商店、料亭に指名請負せしむることに決し、八月二十八日付内務部長名を以て、各調製人宛左の如く照會、調製方下命する所ありたり。

御大禮ノ地方饗饌用品ノ件

御大禮ノ地方饗饌用、用品別記ノ通下命相成候條知事宛請書ヲ速ニ御差出相成度候也

(別記)

- List of items and their specifications for the banquet, including tableware and food items.



「昭和三年 於京都 十一月十六日」ト刻ス

一、盃 徑三寸五分素焼 内部ニ鳳凰二羽ヲ以テ「賜饌」裏底ニ

「昭和三年 於京都 十一月十六日」ト刻ス

一、納期 昭和三年十月末日限

一、代價 一組金五拾五錢トス

一、納入方法 納期迄ニ調製シ直ニ検査ヲ受ケ指

定ノ場所ニ納入ス

一、注意 一、赤土色ニシテ整形ノモノトス

二、確定ノ數量ハ十月十五日迄ニ

通知スルヲ以テ其ノ數量ヲ納付ス

ルモノトス

錦小路柳馬場西入

調製者 高田庄太郎

一、折敷 日本杉 内徑九寸 椽付

(高サ五分)角切り 底板厚サ二

分内部ノ中央ニ鳳凰二羽ヲ以テ

「賜饌」裏面ノ中央ニ

「昭和三年 於京都 十一月十六日」

ノ焼印ヲ押ス

約五千枚

一、納期 昭和三年十月末日限

一、納入方法 納期迄ニ調製シ直ニ検査ヲ受ケ保管シ指定ノ場所ニ納入ス

一、代價 一枚金貳拾六錢トス

一、注意 一、焼印ハ明瞭ニシテ椽ハ木釘付トシ破損ノ箇所ナク永年ノ

保存ニ堪ヘ得ルモノニシテ見本ノ通

二、確定數量ハ十月十五日迄ニ通知スルヲ以テ其ノ數量ヲ納

付スルモノトス

一、箸 白柳製 長八寸 片細 見本上等ノ通

約五千對

一、納期 昭和三年十月末日限

一、代價 一對金參錢六厘トス

一、納入方法 納期迄ニ調製シ直ニ検査ヲ受ケ指

定ノ場所ニ納入ス

一、注意 一、確定數量ハ十月十五日迄ニ通

知スルヲ以テ其ノ數量ヲ納付スル

モノトス

榎木町小川角

調製者 堀 五郎兵衛

一、白蒸臺 日本檜 内徑三寸 椽付

(高三分)厚一分五厘)角切り底板厚サ一

分五厘

内部ニ鳳凰二羽ヲ以テ「賜饌」裏

面ニ次ノ字ヲ抱ク

「昭和三年 於京都 十一月十六日」

ノ焼印ヲ押ス

約五千箇

面 中央ニ

「昭和三年 於京都 十一月十六日」

ノ焼印ヲ押ス

約五千箇

二 料理と風呂敷

地方饗儀用の料理及び、之に用ゆる風呂敷の調製は、本府に於て左記の者に調製方下令することに決したるが、其の調製の内容並に調製上の注意は左の如くに定め、九月廿七日付本府名を以て各調製人へ正式に下令すると同時に、請負人より請書を提出せしむる所ありたり。

料理調製人

猪熊通出水上ル	萬龜	小西嘉一郎
木屋町二條下ル	魚清	西田清兵衛
中筋通淨福寺西入	魚新	寺田新治郎
柳馬場御池下ル	八新	佐々木久彌
祇園	中村樓	辻重彦
三條通油小路西入	大丸家	爲井市次郎
錦小路西洞院西入	丹榮	阪本タカ
錦小路柳馬場東入	つのり	藤田幸太郎
高倉通錦小路下ル	丸三	渡邊淺次郎
榎木町通小川西入	ちもと	堀 五郎兵衛
西石垣四條下ル		松井新七
風呂敷調製人		山下彌兵衛
今出川堀川東入ル		

イ 料理の内容

(一) 料理 總計約五千人分

献立(徑六寸深サ一寸七分ノ丸鉢ニ盛付ス)

一、零餘子焼 (鶏肉ノ焼上ケ長八分横六分厚サ參分)

一、小 鯛 (稚小鯛六寸鹽焼)

一、蜜 柑 (徑二寸一個ヲ二ツニ切り用フ)

一、串三切 一、尾 一、個



(店商衛兵郎五堀)製調臺蒸白具器饗儀方地

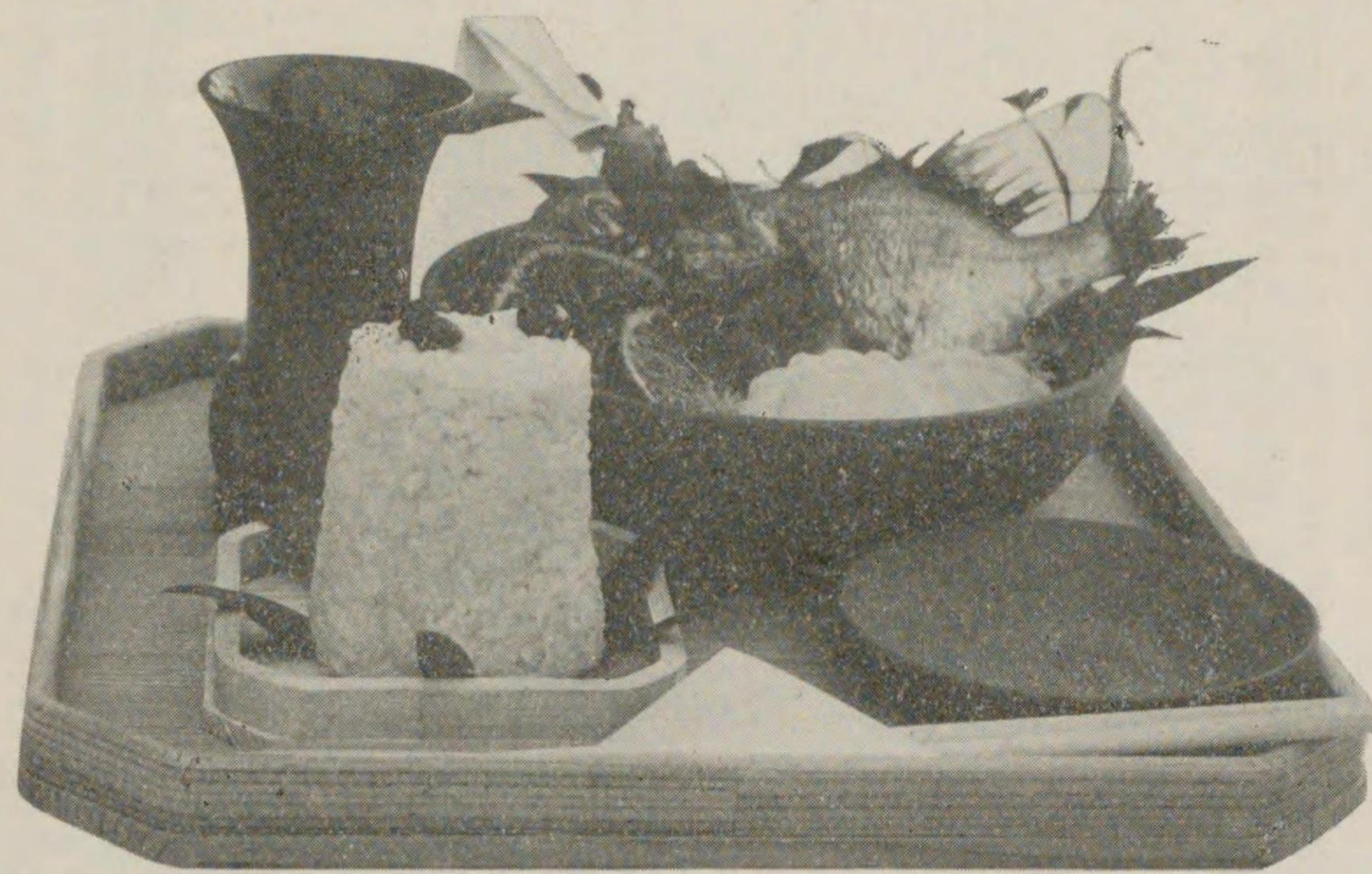
一、注意 一、確定數量ハ十月十五日迄ニ通知スルヲ以テ其ノ數量ヲ納

付スルモノトス



- 一、筆生姜 (長參寸)
- 一、餚 註 (米ノ粉製蒸菓子半圓形底ノ長二寸厚サ五分) (中高半圓形周圍ニ繩様ノ加工ヲナス)

二本 箇



地方饗儀の膳部

一、納入方法 當府ヨリ提供セラル、用器ニ盛付シ平安神宮内本府地方饗

饗場ニ納入シ夫々配膳スルコト

(三) 調製上ノ注意

イ、料理品ハ極メテ丁寧ニ調製シ新鮮ナル材料ヲ用ヒ腐敗セサル様嚴重注意ノコト

ロ、白蒸ニハ折紙付鹽ヲ添フルモノトス

ハ、盛付及白蒸ニハ洗淨セル南天ノ葉ヲ數キ用器ハ夫々拂拭シテ用フルモ

御料理献立由緒

鯛 漬 焼	壽福ヲ表ハシタルモノニシテ海ノモノヲ代表スルモノトス
零餘子 燒	往古朝廷ニ於テ御愛用アラセラレシモノニシテ鶏肉ノ付焼トス
筆 生 姜	王朝時代朝廷ニ於テ御愛用アラセラレタル御菓子トス
蜜 柑	壽福ヲ表ハシタルモノニシテ野ノモノヲ代表スルモノトス
白 蒸	壽福ヲ表ハス橘ノ代用品ニシテ山ノモノヲ代表スルモノトス
	白蒸ニハ悠紀田奉仕田米ヲ混入シ黑豆ハ壽福ヲ表ハシタルモノトス

ニ、概約確定ノ數量ハ十月十五日迄ニ通知セラレ其ノ後ノ異動ヲ更ニ通知セラレ其ノ數量ヲ納入スルモノトス

ホ、其ノ他當府ノ指揮ニ從フコト

口 風呂敷の内容

- (一) 白 蒸 (徑三寸ノ角蓋ニ盛付シ圓筒形徑二寸五分高サ)
- 一、納 期 昭和三年十一月十六日午前七時トス
- 一、代 價 一人分金七拾五錢トス

四 押捺印判引上

地方饗儀用器具に押捺したる府名の印判は、用済後全部引上けることとなり、十二月十日付、府名を以て、請負人たる高田庄太郎、堀五郎兵衛、淺尾義秀の三名に宛左の照會狀を發し、全部の引上げ保管をなす所ありたり。

地方饗儀用器具ニ押捺シタル印判引上ケノ件

「折敷(高田) 疊ニ白蒸(堀)ニ押捺相成候印判ハ最早用済ニ付取纏メ度候ニ付至急御回送相成様致度此ノ代金トシテ金 圓支拂可致候條御承引相成度候也 參考

調 製 者	引上ケ料
高田 庄太郎	六、〇〇
堀 五郎兵衛	四、〇〇
淺尾 義 秀	九、〇〇
計	一九、〇〇

第十一節 賜饗結果報告

賜饗者員數に關シ、本府知事は十一月十五日付を以て、總人員七百六十四十八人なる旨、内務次官宛報告したるが、其後調査の結果更に十二月十二日付を以て左の如く報告する所ありたり。

地方饗儀員數報告ノ件

標記ニ關シ客月十五日付及報告置候處其ノ後本府ニ對スル届出ニ依リ御召狀發送後他府縣ニ於テ饗儀ヲ賜ハリタル者アリタル爲異動ヲ生シ候ニ付更メテ別紙ノ通報告候也

三 清 酒 用 命

地方饗儀用の清酒は大倉恒吉、堀野久造、中野種一郎の三名に用命することに決し、十月二十七日付府名を以て右三名に對し左の如き注文書を發する所ありたり。

注 文 書

御大禮ノ地方饗儀用清酒別記ノ通注文致候條府知事宛請書ヲ速ニ提出相成度右注文候也

(別 記)

- 一、月 桂 冠 酒 (大倉) 一石五斗
- 一、キンシ正宗酒 (堀野) 七斗五升
- 一、明 治 正 宗 酒 (中野) 七斗五升
- 一、納 期 昭和三年十一月十五日午前十一時
- 一、代 價 一石ニ付金壹百圓ノ割トス
- 一、納 入 方 法 納期ニ平安神宮内本府地方饗儀場ニ納入シ翌十六日午前七時迄ニ一人分五勺宛ヲ各德利ニ注キ込ムコト
- 一、納 入 上 ノ 注 意

- 1 清酒ハ最優良ナルモノトス
- 2 德利ハ本府ヨリ提供スルヲ以テ之ヲ洗滌シテ注キ込ムコト

第二章 地方饗 饗



(別紙)

地方饗饋集計表

京都府

饗饋場名	召サレタル者ノ數	饗饋當日	
		出席者	缺席者
京都府饗饋場取扱ノモノ	六、八七三名 (海軍々人四十名ヲ含ム)	六、三九四名 (海軍々人四十名ヲ含ム)	四七九名
在郷陸海軍々人ニシテ陸海軍饗饋參列ヲ希望セルモノ	五四四	五三二	一二
京都衛戍司令官ノ取扱ヒタルモノ	一〇八	一〇六	二
福知山衛戍司令官ノ取扱ヒタルモノ	五八	五八	—
舞鶴衛戍司令官ノ取扱ヒタルモノ	四四	四〇	四
舞鶴要港部司令官ノ取扱ヒタルモノ	七五四	七三六	一八
合計	七、六二七	七、一三〇	四九七

所 感

地方饗饋係長 安井章一

一、大禮用務執行に當り最も苦心を要せし事項

一、饗饋場の撰定

賜饗者七千餘人を可成京都市内の一堂に集むることは事務處辨上並資格者參入上便宜と思料したるが故に收容及天候參集の狀態を考慮して場所の撰定をなしたるも適當なる場所極めて少く種々探索したる結果平安神宮廣庭を借用したり。

二、土器の調製

地方饗饋用土器は調製に相當の日子を要するのみならず時々破損を生じ運搬保管配置等に深甚なる注意を要したり。

三、御召狀の名宛記入及發送

御召狀の名宛記入は文字の正確及叮嚀を旨とせざるべからざるの結果之が記入は遅々として進まず而かも短日時の間に之を終了せざるべからざるが故に之が人選等に付苦心せり又御召狀發送に付ては町村内在住の者の分は町村長へ其の他の團體の者の分に付ては宿所へ一括送付すること、したるも之が發送には一々書留郵送又は小包の包装を整へざるべからざること及團體の内の方に於て當廳へ出頭し既に包装済の御召狀の内より自己の分の渡しを請求するものありて重ねて包装を要すること等ありて之が發送に苦心せり。

二、事務處理に當り將來の參考事項

一、賜饗資格者の届出受付は重復を發見する爲及取扱上イロハ順にしたりしが此の場合は左記事項の注意肝要と信ず。

イ、連名届書を受付するは「イロハ」各種の者が混同せる爲最も複雑にして之を取扱はざるを可とす。

ロ、受付簿と届書は受付擔任者以外の者に於て照合するは緊要にして脱漏誤載等を發見するに有益なり。

奉 祝

齋藤茂吉

あまつ日繼しろしめすとぞあきつ神わが大君をあふぎまつらむ  
高御座高しりたまふ大君はとよさかのぼる光のごとし  
あまてらすけふの生日に御たからのやまとだましひに障あらずな

第三章 御下賜金品

第一節 府市へ賜金

大禮行幸につき、陛下には特別の思召を以て、京都府及京都市へ左の如く御下賜金の御沙汰あり、還幸の前日なる十一月二十五日午後七時一木宮内大臣は知事、市長を京都皇宮に招致して直接に傳達したり

金拾五萬圓 京都市へ  
金參萬圓 京都府へ

一 記念事業資金規程

本府にては右の御下賜金を保管して、永久に有難き皇澤に浴せしむべく、別途の記念事業基金管理方法を制定し、昭和三年十二月通常府會の協賛を経て實施したり。其規程及豫算内容左の如し。

府第三十二號議案

昭和三年度昭和大禮記念事業資金歳入豫算

歳 入 部	
第一款 昭和大禮記念事業資金	三〇、五〇〇円
第一項 下賜金	三〇、〇〇〇
第二項 資金利子	五〇〇
歳入總計金	三〇、五〇〇

第三章 御下賜金品

歳 出 部

第一款 昭和大禮記念事業資金	三〇、五〇〇
第一項 資金積立	三〇、五〇〇
歳出總計金	三〇、五〇〇

昭和三年度昭和大禮記念事業資金歳入歳出豫算説明

科 目	歳 入 部		歳 出 部		比 較
	本年度 豫算高	前年度 豫算高	本年度 豫算高	前年度 豫算高	
第一款 昭和大禮記念事業資金	三〇、五〇〇	—	三〇、五〇〇	—	—
第一項 下賜金	三〇、〇〇〇	—	三〇、〇〇〇	—	—
第二項 資金利子	五〇〇	—	五〇〇	—	—
歳 入 總 計	三〇、五〇〇	—	三〇、五〇〇	—	—
第一款 昭和大禮記念事業資金	—	—	三〇、五〇〇	—	—
第一項 資金積立	—	—	三〇、〇〇〇	—	—
第二項 資金利子	—	—	五〇〇	—	—
歳 出 總 計	—	—	三〇、五〇〇	—	—



府第三十三號議案

大禮ヲ行ハセラル、ニ方リ京都皇宮ニ行幸アラセラレタル際下賜セラレタル金參萬圓ヲ以テ昭和大禮記念事業資金ヲ設置シ之ヲ特別會計トシ其ノ資金管理方法ヲ左ノ通定ムルモノトス

昭和大禮記念事業資金

管理方法

- 第一條 本資金ハ郵便貯金若クハ確實ナル銀行預金トシ又ハ公債證書、勸業債券、農工債券ヲ購入シ之ヲ管理スルモノトス
- 第二條 本資金ヨリ生スル收入ハ資金ニ積立又ハ記念事業費ニ充ツルモノトス

第二節 府關係者

へ賜品

大禮事務關係の知事以下府の高等官に對し、右の御下賜と同時にそれ〴〵御下賜品あり、大海原知事は十一月二十五日午後八時京都御所に出頭し、宮相より有難き聖旨の傳達を受けて感泣し宮相と侍從長を通じて御禮を言上し、更に望月内相を訪ひ委細を報告したる後、官邸に各部長を招集し、聖旨を傳達する

**鮮鯛と蝦を御下賜**  
大海原知事の感激

宮内大臣官房高木秘書官は十一月二十一日午後五時京都御所から河井皇后宮大夫の手紙と數個の荷物を中立賣御門前なる大海原京都府知事官舎に運んだ、知事が開封して見ると「聖上、皇后兩陛下より御下賜相成候條この段申進候也」とあつたので恐懼措くところを知らず、拜戴して見ると三尺餘の鮮鯛二尾二尺餘の鮮鯛五尾と胴體二尺乃至三尺餘の蝦二、三十尾が入られればまだ元氣に動いてゐた、知事は即刻宇治山田行在所に供奉してゐる河井皇后宮大夫宛「御禮言上方執奏を乞ふ」旨打電した。右御下賜品は石田京都府大禮事務局總務部長池田警衛本部長に有難い聖旨を傳へ事務局並に警衛本部幹部に分配する所があつた。

所ありたり、御下賜品は左の如し。

- 一、御紋章入銀製花瓶一個並ニ金一封宛 大海原知事へ
- 一、御紋章入銀杯一組並ニ金一封宛 石田内務部長へ
- 一、御紋章入銀杯一個並ニ金一封宛 池田警察部長へ

一、御紋章入銀杯一個並ニ金一封宛

- 福嶋學務部長へ 村山土木部長へ
- 宮本京都皇宮内京都府出張所々長へ
- 清水警務課長へ 上田特高課長へ
- 坂警視へ 土肥保安課長へ
- 中村高等課長へ 加藤衛生課長へ
- 中野官房主事へ
- 一、白羽二重一疋並ニ金一封宛
- 中村山林水産課長へ 留岡庶務課長へ
- 松村社寺課長へ 和田社會課長へ
- 古賀監督課長へ 藤原農務課長へ
- 堀池學務課長へ 黒川川端署長へ
- 山田五條署長へ 佐野堀川署長へ
- 高落中立賣署長へ 船越松原署長へ
- 今江福知山署長へ 濱谷統計課長へ

岡田西陣署長へ

久家刑事課長へ

一、白羽二重一反並ニ金一封宛

- 小幡技師へ 西技師へ 和田技師へ 關谷技師へ

秋山秘書課長へ

- 一、壹萬五千圓
- 一、壹百圓

其ノ他行幸關係諸員へ

紀伊郡堀内村桃山(兩御陵所在地)へ

第四章 大禮御建物下賜

第一節 下賜團體決定

大禮御用御建物の處分については、昭和四年一月十二日勅令を以て宮内省に讓與の義を裁可せられ、宮内省にては大正大禮の時と同じく民間公共團體等に下賜さるべき趣旨の下に、其の御下賜を受くべき各團體の詮衡等一切の處理方を京都府知事に一任さるゝこととなり、左の如く宮内大臣より通牒ありたり。

昭和四年四月二十四日

宮内大臣 一木喜徳郎

京都府知事 大海原重義殿

今般大禮ノ用ニ供サレタル京都府所在建造物並其附屬物ノ内別記物件下賜處分相成候ニ付テハ左記要項御承認ノ上處理方可然御取計相成度及依頼候追テ出願書、建物取解費調書並關係圖面添付致候ニ付御證議ノ上豫メ處分案提出相成度

記

- 一、下賜ハ可成全國的ニ出願者中ヨリ證議セラレタキコト
- 二、下賜ハ社會事業其他一般公益ノ途ニ供用スルコトヲ條件トセラレタキコト
- 三、下賜物件取解並運搬費等ハ拜受者ノ負擔トセラレタキコト

第四章 大禮御建物下賜

- 四、下賜物件ノ取解搬出ノ期限ハ本年九月三十日迄トセラレタキコト
- 五、建造物ニ附着セル御紋章ニ付テハ取締上ノ問題ヲ生セサル様滅却除却返納等適宜ノ處分方法ヲ講セラレタキコト

勅令

朕大禮ノ用ニ供シタル建造物及其ノ附屬物ノ讓與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和四年一月十二日

内閣總理大臣 男爵 田中義一  
大藏大臣 三土忠造

勅令第一號

大禮ノ用ニ供シタル建造物及其ノ附屬物ハ之ヲ宮内省ニ讓與スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 六、拜受者ノ心得ヘキ建造物並其ノ附屬物取解、運搬等ニ關スル手續ヲ定メラレタルトキハ一應當省ヘ示セラレタキコト

(別記物件圖面等略)



右につき本府にては土木部庶務課(後は監理課)主として之が事務に當り、豫て府下及全國各府縣より出願し來れる公共團體其の他につき慎重調査を遂げたる結果大禮の御儀に密接なる關係を有する京都府市及、府下御用材供納の各町村、學校、社寺、教化團體、社會事業團體等約二百箇所に分割下賜さ、ことに内定を遂げ、宮内當局の承認を得て決定したるを以て、昭和四年六月本府知事より下賜を受くべき諸團體に對し左の如く通知する所ありたり。

昭和四年六月 日

京都府知事

大禮建造物下賜内定方通知ノ件

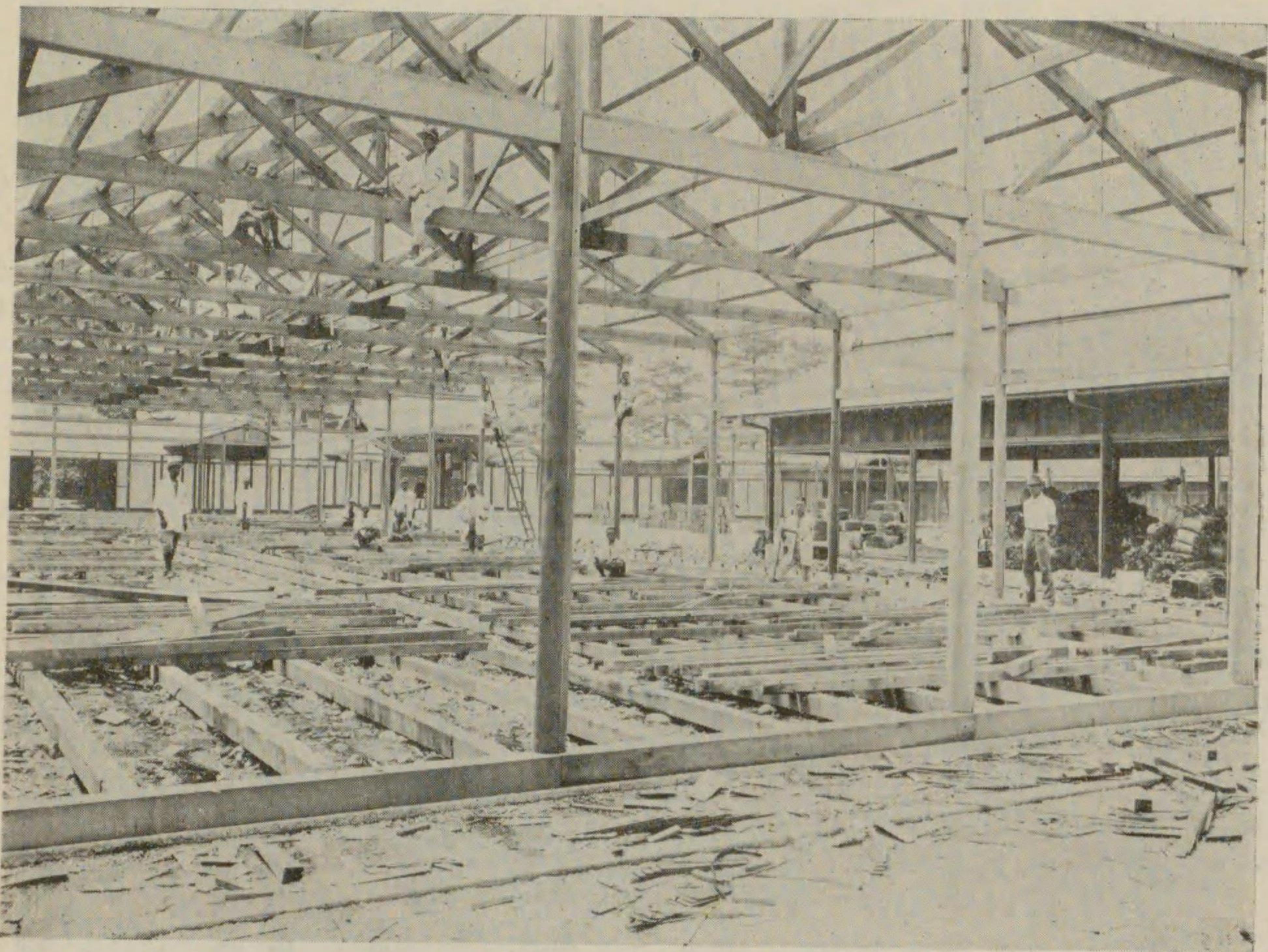
昭和 年 月 日願大禮建造物下賜ノ件左記ノ通下賜セラルルコトニ内定候條及御通知候也

追而下賜願出ノ向相當多數ニ上リ候爲自然下賜建造物ノ種類數量等ニ付御希望ニ副ハザルモノモ可有之ト被存候條御都合ニ依リ御辭退相成場合モ有之候ハ、其ノ旨七月六日迄ニ御申出相成度此段申添候也

記

建物下賜割當調

建物名稱及數量	下賜坪數	使用目的	出願者
春興殿 神樂舍 四八坪	四・〇〇〇	—	—
春興殿前神樂舍 八八坪	八・〇〇〇	歷史資料博物館建設	宇治山田市長
奏樂舍	—	—	—
春興殿御羽車舍 八・三五	八・三五	—	—
御羽車舍 一棟 八・三五	八・三五	齋田奉仕記念館建築	滋賀縣知事



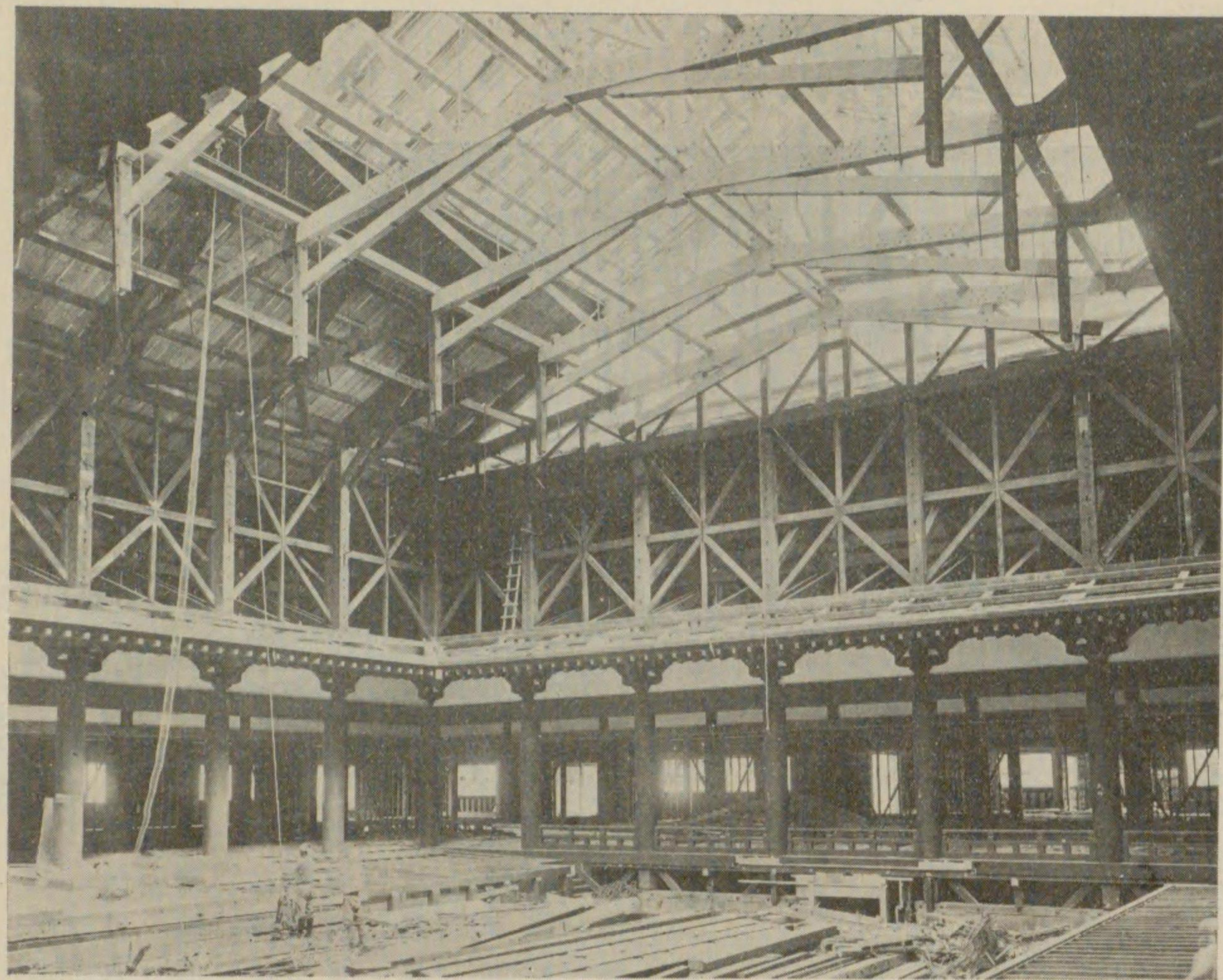
春興殿倉舎取工事

春興殿奏樂舍	八・三五	神輿車及社務所用材	京都市上御靈燈町府社御靈神社
春興殿倉舎	二棟 三九・〇〇〇	氏子集會所建築	葛野郡梅津村 官中社梅宮神社 葛野郡松尾村 官大社松尾神社
大管宮及春興殿附屬建物	二五・〇〇〇	官祭招魂社建設	和歌山縣知事
建物用材	一五・〇〇〇	社務所建築	愛宕郡修學院村 社三宅八幡宮
同	三〇・〇〇〇	同	船井郡園部町 府社天滿宮
同	二〇・〇〇〇	村役場建築	北桑田郡山國村
大管宮齋庫	三二坪 三〇・〇〇〇	社務所建築	葛野郡嵯峨町 村社野々宮神社
同	三〇・〇〇〇	公會堂建築	久世郡小倉村
春興殿兩掌典詰所	二六・二六六	修養會館建築	大阪府南河内郡東條村 楠地庵觀音寺
堂典詰所	二六・二六六	小學校々舎建築	葛野郡嵯峨町
春興殿附近湯沸所	三・〇〇〇	參集所改築	綴喜郡八幡町 等 官大社石清水八幡宮
同 正門左右廻廊	寄三・〇〇〇	同	—
遙拜場トナリ得ルモノ	三・〇〇〇	遙拜場設置	京都府立 洪陽學校
春興殿倉舎	一四・〇〇〇	繪馬殿建設	京都市烏丸下長者町 別官社護王神社
倉舎	一三・〇〇〇	院舎増築	岩手縣盛岡市加賀野 財法岩手養育院
建物用材	九・〇〇〇	村役場建築	南桑田郡樫田村 伏見市 私立伏見商業學校

第一朝集所	一八・〇〇〇	教室建築	伏見市
堂典詰所	一〇・〇〇〇	公會堂建築	愛宕郡八瀬村
春興殿正門左右廻廊倉舎	一八・〇〇〇	繪馬殿建設	京都市烏丸下長者町 別官社護王神社
同 倉舎	一四・〇〇〇	院舎増築	岩手縣盛岡市加賀野 財法岩手養育院
春興殿御羽車舍又ハ神饌調理所	四・五〇〇	村役場建築	南桑田郡樫田村 伏見市 私立伏見商業學校
春興殿堂典詰所外構板塀	四・五〇〇	教室建築	伏見市
倉舎	一五・五〇〇	堂宇建設	宇治郡宇治村 獅子林院
春興殿前大眞神臺	一五・五〇〇	社殿及社務所	京都市清閑寺靈山町 靈山外三所官祭招魂社
建物用材	二基	記念建物	京都市九條大宮西入ル 教王護國寺
紫宸殿廻廊附庇	六・七五〇	小方丈建設	綴喜郡田邊町 酬恩庵
同	二基	參拜者休憩所及茶室建設	葛野郡嵯峨町 覺勝院
同	一八・〇〇〇	設	滋賀縣蒲生郡安土村 總見寺
同	二二・七五〇	同	—
京都御所内郵便局	二六・二五〇	同	—
局 倉	全部 二六・二五〇	同	—
京都御所内變電所	二二・二五〇	同	—
幼兒ノ運動場タリ得ルモノ	三二・二五〇	同	—
京都御所内 自轉車置場	六・〇〇〇	同	—
自轉車置場共	六・〇〇〇	同	—
少年收容所タリ得ルモノ	六・〇〇〇	同	—



京都御所内 大禮使食堂 簀子敷共	八七・五〇〇	小學校講堂	南桑田郡千歲村
食堂全部又ハ兩堂典詰所	八七・五〇〇	建	
京都御所内寫真班事務所 及浴室便所	六・三五〇	紀伊郡堀内村 私立菊花高等女學校	
寫真班詰所	七八十坪	圖書館建設	私立菊花高等女學校
京都御所内職工休所	三〇・〇〇〇	私立菊花家政高等女學校	
京都御所内大膳寮員浴室	二・五〇〇	京都市室町錦小路上ル 日本少年保護協會 京都支部	
饗宴場及舞樂場	一七四・〇〇〇	大阪府南河内郡川上村 大日本楠公會長	
朝集所其他	二二・〇〇〇	建國會館建	奈良縣知事
饗宴場一部其他	五九・五〇〇	分院神殿教 務所建設	大阪府南區大寶寺町中町 神道婦人會 大阪支部
大嘗宮帷舍	一棟 三三・三五〇	柔劍道場建	京都市 同 志 社
木造建築物	二五〇坪 三三・〇〇〇	演武場及雨 天體操場建	大阪市 私立關西大學
舞樂臺 (四間四面)	一六・〇〇〇	記念保存	京都市有濟小學校
饗宴所附屬調理所	四二〇・〇〇〇	福 岡 縣 知 事	
帷 舍	九〇坪 三〇・〇〇〇	講堂建設	加佐郡高野村
饗宴所附屬調理所及附屬 附立所	二九・〇〇〇	小學校雨天 體操場建築	愛宕郡花背村



大饗宴場の取工事

帷 舍	九〇坪	八〇・二五〇	(廊下五、二 五ヲ含ム) 集合所建設	紀伊郡堀内村私立菊花高 女内 全關西桃山御陵參拜聯 合婦人會
饗宴所渡廊下其他	八・一〇〇	靜養室兼慰 安室建築	葛野郡花園村御室 京都養老院 府立桃山中學校 金城會	
靜養室兼慰安室タリ得ベ キモノ	五六〇坪	二・〇〇〇	病室及產室 設置	京都市聚樂廻松下町 財法 京都施藥院協會
饗宴所附屬暖房汽罐室及 變電所	四八・〇〇〇	病院及產室タリ得ベキモ 三〇坪乃至五〇坪	春興殿堂典詰所	京都府立 京都第一中學校學友會
第一 朝 集 所	四九・六四	第一 朝 集 所	第一 朝 集 所	第一 朝 集 所
第二 朝 集 所	四九・六四	第二 朝 集 所	第二 朝 集 所	第二 朝 集 所
食 堂	七・七八五	食 堂	食 堂	食 堂
春興殿詰所	一棟 三〇・八七五	春興殿詰所	春興殿詰所	春興殿詰所
建 物	三〇坪	建 物	建 物	建 物
建 物	六七〇坪	建 物	建 物	建 物
會館建設ニ適スルモノ	四一・〇〇〇	會館建設ニ適スルモノ	會館建設ニ適スルモノ	會館建設ニ適スルモノ
式場講演會場トナリ得ル モノ	四三・〇〇〇	式場講演會場トナリ得ル モノ	式場講演會場トナリ得ル モノ	式場講演會場トナリ得ル モノ

寫真班詰所	七八〇坪	五四・〇〇〇	青少年映畫 館建設	愛知縣知多郡 大 御 堂 寺
食 堂	一棟 七・七八五	食 堂	食 堂	食 堂
第二朝集所	一二〇坪	六五・六五	神武帝御降 誕地ニ禊殿 建設	東京市牛込區矢來町四四 清 禎 修 德 會
饗宴場又ハ第二朝集所	二六・五〇〇	建國會館建	建國會館建	奈良縣知事
大嘗宮朝集所	一一〇坪	三〇・八七五	小學校雨天 體操場	愛宕郡修學院村
建物用材	三〇・八七五	建物用材	建物用材	伏見市 私立伏見商業學校
饗宴場着替所	六五・六五	圖書館建設	圖書館建設	京都府立 桃山中學校金城會
第二朝集所	七八〇坪	六五・六五	歷史館建設	京都府立京都第三中學校 京都市立二條高等女學校 此の花同窓會
建 物	一〇〇坪	六五・六五	村役場小學 校教室建築	愛宕郡大宮村
同	六五・六五	同	靈寶館建築	愛宕郡鞍馬村鞍馬寺
同	三九・六一	同	開山堂建設	葛野郡花園村御室仁和寺
第一朝集所東西渡廊下	三九・六一	第一朝集所東西渡廊下	第一朝集所東西渡廊下	第一朝集所東西渡廊下
樂官舞姬舍人休所	三〇九・七〇〇	樂官舞姬舍人休所	樂官舞姬舍人休所	樂官舞姬舍人休所
春興殿附屬建物其他	六七・八〇	春興殿附屬建物其他	春興殿附屬建物其他	春興殿附屬建物其他
建 物	五〇坪	六五・五〇	寶物殿其他 建設	宇治郡醍醐村醍醐寺
同	五七・五〇	六三・〇〇〇	書院建築	京都市松屋町丸太町 了 信 寺
同	六三・〇〇〇	六三・〇〇〇	婦人會詰所 建築	與謝郡宮津町知源寺
大嘗宮着替所	七四・四〇〇	大嘗宮着替所	大嘗宮着替所	大嘗宮着替所
第二朝集所脇扉重門	一・〇〇〇	第二朝集所脇扉重門	第二朝集所脇扉重門	第二朝集所脇扉重門







京都府社 東丸神社	五・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
葛野郡梅ヶ畑村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
高野郡山	六・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
京都府御池大宮西入ル苑	一・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
船井郡五ヶ荘村	二・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
船井郡富本村	二・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
葛野郡花園村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
三寶	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
京都府東山区三十三間堂廻	五・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
大興 徳	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
葛野郡松尾村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
法 輪	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
京都府新町上立賣下ル	六・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
三味 智 恩 寺	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
乙訓郡乙訓村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
乙訓郡乙訓村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
久世郡寺田村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
府社 水度神社	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
相樂郡木津町	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
郷社 岡田國神社	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
葛野郡	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
川岡村孝子表彰會	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
彰徳會館建	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
設	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
愛宕郡大宮村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
村社 八阪神社	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
京都府妙法院前側町	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
府社 新日吉神社	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
乙訓郡大山崎	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
郷社 小倉神社	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
乙訓郡新足村	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
府社 長岡天満宮	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
京都府五條橋東五丁目	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇
郷社 若宮八幡宮	三・〇〇〇	京都府社 東丸神社	一・〇〇〇

大造建物	一部	二・〇〇〇	御眞影奉安
大造建物	一部	二・〇〇〇	殿建設
大造建物	一部	二・〇〇〇	尊牌奉安講
大造建物	一部	二・〇〇〇	堂建設
大造建物	一部	二・〇〇〇	滋賀縣滋賀郡坂本村
大造建物	一部	二・〇〇〇	大正建設翼賛會
大造建物	一部	二・〇〇〇	大阪府北河内郡甲可村
大造建物	一部	二・〇〇〇	別官社 四條巖神社
大造建物	一部	二・〇〇〇	愛宕郡上賀茂村
大造建物	一部	二・〇〇〇	官大社 加茂別雷神社
大造建物	一部	二・〇〇〇	葛野郡松尾村
大造建物	一部	二・〇〇〇	官大社 松尾神社
大造建物	一部	二・〇〇〇	京都市烏丸下長者町
大造建物	一部	二・〇〇〇	別官社 護王神社
大造建物	一部	二・〇〇〇	京都市東成區蒲生町
大造建物	一部	二・〇〇〇	若宮 八幡大神宮
大造建物	一部	二・〇〇〇	奈良縣葛城郡
大造建物	一部	二・〇〇〇	村社 石園坐多虫玉神社
大造建物	一部	二・〇〇〇	大正市
大造建物	一部	二・〇〇〇	村社 彌榮神社
大造建物	一部	二・〇〇〇	京都市
大造建物	一部	二・〇〇〇	郷社 安井神社
大造建物	一部	二・〇〇〇	久世郡 小倉村
大造建物	一部	二・〇〇〇	愛宕郡 雲ヶ畑村
大造建物	一部	二・〇〇〇	相樂郡 湯船村
大造建物	一部	二・〇〇〇	北桑田郡 黒田村
大造建物	一部	二・〇〇〇	相樂郡 西和束村
大造建物	一部	二・〇〇〇	船井郡 上和知村
大造建物	一部	二・〇〇〇	愛宕郡 花脊村
大造建物	一部	二・〇〇〇	船井郡 西本梅村
大造建物	一部	二・〇〇〇	乙訓郡 大原野村
大造建物	一部	二・〇〇〇	北桑田郡 知井村
大造建物	一部	二・〇〇〇	加佐郡 河東村
大造建物	一部	二・〇〇〇	船井郡 摩氣村

天田郡 雀部村	一・〇〇〇	何鹿郡 小畑村	一・〇〇〇
何鹿郡 吉美村	一・〇〇〇	久世郡 宇治町	一・〇〇〇
天田郡 川合村	一・〇〇〇	船井郡 下和知村	一・〇〇〇

加佐郡 高野村	一・〇〇〇	相樂郡 當尾村	一・〇〇〇
船井郡 五ヶ荘村	〇・五〇〇	南桑田郡 宮前村	〇・五〇〇
大警宮神饌調理所外構門	一ヶ所	日本海員救濟會京都支部	一ヶ所
大警宮竹矢來	三六・三四〇	滋賀縣犬上郡豐郷村	一ヶ所
大宮御所内	二七・〇〇〇	京都府立龜岡高等女學校	一ヶ所
皇宮警察官詰所	九五・三七五	川岡村 温 古會	一ヶ所
京都御所内車馬部詰所	三六・〇〇〇	京都市 理髮學校	一ヶ所
京都御苑内馬車舎	一一〇・〇〇〇	京都市 帝國女子藥學專門學校	一ヶ所
京都御苑内自動車洗場	二一・〇〇〇	佛眼協會 京都支部	一ヶ所
京都御苑内油庫	四二・六六六	大阪府泉南郡 誠 院	一ヶ所
京都御苑内廐舎	五・五五〇	京都市恩賜 財團濟生會京都府病院	一ヶ所
京都御苑内裝蹄場	一五・〇〇〇	京都市日本少年 保護協會 京都支部	一ヶ所
京都御苑内見張所	二〇・〇〇〇	三重縣畜産組合聯合會	一ヶ所
京都御苑内車馬部外構門	六・〇〇〇	相樂郡 笠置 村 園	一ヶ所
京都御苑内葦簾張竹矢來	四ヶ所	愛宕郡 林 丘 寺	一ヶ所
京都御苑内竹矢來	七・六六〇	京都府立龜岡高等女學校	一ヶ所
京都御苑内荷造場	七五・〇〇〇	京都府立農事試驗場	一ヶ所
京都御所内	一〇〇・〇〇〇	愛宕郡 妙 見 堂	一ヶ所
造營部出張員詰所	二〇・〇〇〇	大阪府三島郡 私立 紫野 中學	一ヶ所
京都御苑内新聞係員詰所	四三・〇〇〇	京都市 白川 學園	一ヶ所
同	六六・〇〇〇	京都市 京都基督教女子青年會	一ヶ所
同	三三・〇〇〇	京都市 眞宗大谷派婦人法話會	一ヶ所
同	四九・五〇〇		

**下附證と傳達書**  
大禮御建物に對する宮内省よりの下賜證寫しの一例並に  
知事の傳達書様式左の如し

**府社 今宮神社**

京都皇宮内大禮  
建物ノ一部下附  
相成候

昭和四年十月一日

**宮内省 印**

**何々々**

京都皇宮内大禮建  
造物附屬品ノ一部  
宮内省ヨリ下附相  
成候條及傳達候

昭和四年十月一日

京都府知事  
**佐上信一**

一、用紙鳥の子  
一、寸法 縦九寸一分  
横一尺三寸四分

一、用紙模造紙  
一、寸法 縦八寸  
横一尺一寸(半紙版)

愛宕郡 修學院村	一・〇〇〇	乙訓郡 大山崎村	一・〇〇〇
船井郡 質美村	一・〇〇〇	南桑田郡曾我部村	一・〇〇〇
北桑田郡 弓削村	一・〇〇〇	船井郡 東本梅村	一・〇〇〇



同	六〇〇〇	南桑田郡曾我部村
京都御苑内皇宮警察詰所	一七、七〇〇	京都市
春興殿庭療舎取解材	一棟分	私立京都淑女高等女學校
同	一棟分	京都府立木津農學校
京都御苑内車馬部詰所	三〇、〇〇〇	千葉縣君津郡長浦村
京都御苑内竹矢來	五、〇〇〇	乙訓郡
京都御苑内馬車舎	一七、〇〇〇	京 都 府 寺
京都御苑内自動車庫	一三〇、〇〇〇	京都市
京都御苑内廄舎	一三〇、〇〇〇	京都府畜産組合聯合會
同	同	同

### 第二節 雜建物賣却

右御下賜決定したる御建物以外に、出願希望者なき左記の雜建物に關しては、本府に於て一切引受け賣却處分に付するの案を立て、昭和四年九月十七日付を以て左の如く知事より宮内大臣に伺出づる所ありたり。

大禮建造物中別紙目錄ノ雜建物ハ御下付申出者無之ニ付至急本府ニ御下付相賣却處分致度候條何分ノ御指令相成度候也  
 追而饗宴場ノ一部二百六十三坪ハ辭退申出有之候モ建物ノ性質上可成適當ニ下付シ賣却處分ヲ爲サザル機致度ト存ジ各方面ヘ照會スルモ目下ノ處拜受者ノ見込相立テ兼テ候何分ノ處分方法御指示相成度此段如此申添候

#### 大禮建造物中賣却處分建造物目錄

建 物 名 稱	數 量
京都御苑内傭人浴室	四、五八三
京都御苑内傭人便所	三、〇八三
京都御苑内職工休所	二、〇〇〇
建春門脇穴門傾斜棧橋	一ヶ所

之に關する費用は拜受團體に於て負擔し、工事に先ち京都府に納金せしむることに定めたり、之に關する照會文、拜受手續等左の如し。

昭和四年六月 日

殿

京都府土木部長 村山喜一郎

#### 大禮下賜建造物處分ニ關スル件

首記ノ件別送本府長官ヨリ通達相成候處取解工事現場ハ御所構内若ハ御苑内ニ屬シ工事ニ從事スベキ職工人夫等ニ關シテハ身分調査並ニ身體検査等ヲ要シ且拜受者個々ニ取解工事ニ着手セララルトキハ現場ノ取締ニ困難ヲ來スノミナラズ建造物ノ一部分ヲ下賜セララルル場合ニ於テハ各拜受者個々ノ取解ハ殆ド不可能ニ有之候條便宜當方ニ於テ一括工事執行方取計度候ニ付別紙大禮下賜建造物拜受手續了知ノ上取解工事一切ヲ本職ニ御委託相成様致度此段及照會候也

追而右取解工事委託相成難キ事情有之候ハ、折返シ其旨御一報相煩度尙本件ニ關シ御問合ノ場合ハ京都府土木部庶務課照會相成度

#### 大禮下賜建造物拜受手續

- 一、七月六日迄ニ別紙工事委託書ニ記名捺印ノ上京都府土木部庶務課送付セララルコト
- 二、取解工事費ハ別紙送金通知書ニ記載スル豫算額（取解ニ要スル一切ノ費用ヲ含ム）ニ依リ豫メ納付スルモノトシ送金通知ヲ受ケタルトキハ直チニ送金通知書ニ現金（爲替又ハ小切手ニテモ可ナリ）ヲ添ヘ京都府内務部會計課長ニ送金スルコト但シ事務整理上現金保管ニ付利子ヲ付セズ
- 三、取解工事費指定期日迄ニ送金ナキトキハ拜受ヲ辭退セラレタルモノトシ受託者ニ於テ適宜處分スルモ異議ナキコト
- 四、委託ヲ受ケタル取解工事完了シタルトキハ各拜受者別ニ材料ヲ一定ノ場

#### 第四章 大禮御建物下賜

饗宴所附屬調理所	四二〇、〇〇〇
饗宴所附屬調理所及附屬附立所	一四四、〇〇〇
饗宴所着替所及浴室便所	一〇五、〇〇〇
饗宴所附屬灰捨場	一ヶ所
饗宴所附近外構葺簀堦	三九九、〇〇〇
同 上 門	一二、〇〇〇
饗宴所附近置便所	七 棟
大警宮神饌調理所外構門	一ヶ所
京都御苑内車馬部詰所	四五八、〇〇〇
京都御苑内馬車舎	八九、〇〇〇
京都御苑内自動車庫	一三〇、〇〇〇
京都御苑内廄舎	一〇五、〇〇〇
京都御苑内便所	一〇、〇〇〇
京都御苑内馬糞捨場	三、〇〇〇
京都御苑内水槽	六ヶ所
京都御苑内葺簀張竹矢來	一 一七間三四
京都御苑内灰捨場	一ヶ所
京都御苑内造營部出張員詰所	九二、〇〇〇
舞樂場	一九六、〇〇〇

右の伺出に對し、同年九月二十日付宮内次官より申出の通り賣却處分に付して差支へなき旨の回答に接したるを以て、本府にては十月初旬府廳土木部に於て公入札に付し賣却したり。

### 第三節 取解工事

而して右御下賜建造物の取解工事は、これ又一切京都府土木部にて引受け、七月上旬より着手、九月より十月の間に全部取解を了りたり、

所各拜受者別ニ通知スルモノトス）ニ格納シ置キ受領方通知スベキヲ以テ京都府土木部庶務課ニ出頭諸事打合ノ上現場ニ於テ指定期日迄ニ受領搬出セラレタキコト

指定期日迄ニ受領搬出ヲ了セサルトキハ受託者ニ於テ適宜處分スルモ異議ナキコト

五、搬出ハ拜受者ニ於テ便宜ノ請負人ヲシテ執行セシムルコト但シ請負人ノ斡旋ヲ爲スモ可ナリ

六、現場ニ於テ現品受領後ノ費用ハ各拜受者ノ負擔タルコト

#### 大禮下賜建造物取解工事委託書

大禮下賜建造物拜受手續了知ノ上拜受建造物取解工事ヲ委託候也

昭和四年 月 日

京都府土木部長 村山喜一郎殿

第 號 送 金 通 知 書

一金 但大禮下賜建造物取解費

右 月 日迄ニ京都府内務部會計課長内藤寛一へ御送金相成度及通知候也

昭和四年 月 日

京都府土木部長 村山喜一郎殿

第 號 領 收 證 書

一金 但大禮下賜建造物取解費

右 領 收 候 也

昭和四年 月 日

京都府内務部會計課長 内藤 寛 一殿



### 大嘗宮御焼却

大禮御建物の中、大嘗宮は、古例に則られて焼却さるゝこととなり、昭和四年六月十八日より賀茂川上流（植物園通路西岸中賀茂橋上手）の積において焼却を開始せられたり。よつて前日の十七日には午前十時より坊城式部官、星野掌典等奉仕の下に嚴かなる清祓式が行はれ、續いて掌典は切火を用ゐて淨火を點じ焚始式を行へり。焼却場は十八間に八十五間、廻りに青竹を立て注連繩をめぐらし、中に東西八間、南北五間、深さ二尺の大穴を四ヶ所に掘り、その穴の中に淨火を絶やすことなく、京都の三上吉兵衛氏指揮の下に工匠等一同が奉仕して、大嘗宮の御建物を始め、大嘗祭に御用ひになりし御調度品など悉皆焼却さるゝこととなり、場の四圍は皇宮警手、地方警官、消防手等にて警戒に任じたり。

愈々御焼却當日の十八日には未明より白の淨衣姿の奉仕者たちは取り毀されたる材料を「トラック」、荷馬車等に積み、警官護衛の下に仙洞御所を出發、長い列を作つて賀茂の堤を上り續々と運搬すれば、賀茂積の焼却場の大穴には材料が山と積み上げらるゝ、同じ淨衣姿の奉仕者達數十名は、前日掌典がきり出せる淨火を移したる大松火を振かざして四方より火をかければ膳屋、御柴垣などに用ゐられたる



大嘗宮御焼却の現場

萩柴、萱、眞菰などが先づバツと燃え初ある。眞竹の節がほん／＼大きな音を立て、はじけながら燃え上る。火勢が強くなるにつれ櫛や松の丸太がどん／＼燃えさかる。その火勢は前夜の霖雨にも衰へず、ますます盛んに白煙は雨にけぶる賀茂堤の松並木の間を縫ふてゆるく立昇る。その光景ながら遠き昔の時代繪巻を眼のあたりに見るがやう、神祕的にも亦奥床しく拜されたり。中に御神座の御壘や八重薦など、特に重要な品々は、掌典の手によつて焼却され、神門に用ひられたる直径一尺、長さ十數尺の櫛の大木などは丸太のまゝにて焼くものなれば、いよ／＼焼盡くすまでには一晝夜の長きを要したりき。

かくてその後約三週間に亘りて毎日續けられたる御焼却も、七月一日深更に至りて漸やく御終了、焼穴に残りし菊花御紋章付きの金具や釘等一切の金屬類は悉く拾ひ上げ（總重量約六十貫）一纏めとして二日仙洞御所内の淨地深く埋納されたり。なほ大嘗宮跡は丁寧に地均しを行ひこの敷地にて大禮最終の御儀ともいふべき鎮祭を七月十六日式部官、掌典奉仕の下に嚴かに行はせられたり。

## 第五章 恩赦

### 第一節 勅語を賜ふ

十一月十日、御即位式の當日、恩赦の御沙汰あり、左の勅語を賜へり、皇恩海の如く、罪囚又德澤に霑ふて、感激の涙に咽べり。

#### 勅語

朕大統ヲ承ケ、大禮ヲ行フニ方リ、有衆ト共ニ其ノ慶ヲ同フセムコトヲ欲シ、遍ク仁澤ヲ及ホシ特ニ有司ニ命シテ恩赦ヲ行ハシム百僚有衆其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ  
同時に勅令を以て減刑令、復權令、懲戒免除令等公布せられたるが、其の中減刑令、復權令の全文左の如し。

### 第二節 減刑、復權令と訓示

#### 勅令

朕減刑令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
御名 御璽

昭和三年十一月十日

各大臣副署

勅令第二百七十號

#### 減刑令

第五章 恩赦

### 赦

- 第一條 昭和三年十一月十日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ刑ノ執行前執行猶豫中、執行中、執行停止中又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス
- 但シ其ノ執行ヲ通ルル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 死刑ハ之ヲ無期懲役トス
- 第三條 無期懲役ハ之ヲ二十年ノ有期懲役トシ無期禁錮ハ之ヲ二十年ノ有期禁錮トス但シ昭和三年十一月十日ニ於テ七十歳以上ノ者及犯時十六歳未満ノ者ニ付テハ之ヲ十五年ノ懲役又ハ禁錮トス
- 第四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ左ノ例ニ依リ刑期ヲ變更ス
- 一 刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減ス
  - 二 刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ス但シ刑ノ執行カ刑期ノ二分ノ一ニ至ラサル者ニ付テハ前號ノ例ニ依ル
  - 三 昭和三年十一月十日ニ於テ七十歳以上ノ者及犯時十六歳未満ノ者ニ付テハ前二號ノ例ニ依ラス刑期ノ三分ノ一ヲ減ス短期ト長期トヲ定メテ言渡シタル刑ニ付テハ短期及長期ニ付前項ノ例ニ依ル但シ犯時十六歳以上ノ者ニシテ短期ヲ經過シタルモノニ付テハ長期ニ付前項第二號ノ例ニ依ル
- 前二項ノ計算ヲ爲スニ當リ年、月又ハ日ノ端數ヲ生スルトキハ一年ハ之ヲ十二月、一月ハ之ヲ三十日トシ日ノ端數ハ之ヲ除棄ス
- 第五條 舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ之ヲ減輕ス舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス
- 第六條 左ニ掲クル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セズ
- 一 刑法第七十三條及七十五條ノ罪
  - 二 刑法第八條ノ罪及其ノ未遂罪
  - 三 刑法第四百十八條ノ罪及其ノ未遂罪



- 四 刑法第八十一條ノ罪
- 五 刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪
- 六 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル刑法第二百四條ノ罪
- 七 刑法第二百五條第二項ノ罪
- 八 刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 九 刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 十 刑法第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪(但シ前ニ強盜又ハ竊盜ノ行爲ニ因リ刑ニ處セラレタル者ニ限ル)
- 十一 刑法第二百四十條ノ罪及第二百四十一條ノ罪並ニ其ノ未遂罪
- 十二 前各號ニ掲ケル罪ト性質ヲ同シクスル舊法ノ罪
- 十三 軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪
- 十四 朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ掲ケル罪ト性質ヲ同シクスルモノ
- 第七條 併合罪ニ付併合シテ一個ノ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ併合罪中前條ニ掲ケル罪アルトキハ減刑ヲ爲サス
- 前條ニ掲ケサル罪名ニ觸ルル行爲ニシテ同時ニ前條ニ掲ケル罪名ニ觸ルルトキ又ハ前條ニ掲ケル罪ノ手段若ハ結果タルトキ亦前項ニ同シ
- 第八條 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和三年十一月十日以前十五年以内ニ恩赦ヲ得其ノ後七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セシム
- 第九條 前數條ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲ササル者ト雖特別ノ事情アルトキハ減刑ヲ行フコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕復權令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

各大臣副署

昭和三年十一月十日  
勅令第二百七十一號

復 權 令

第一條 罰金以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ昭和三年十一月十日ノ前日迄二十年以上ヲ經過シタルモノハ復權ス但シ大正七年十一月十日以後ニ再ヒ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 十八歳未満ノ時罪ヲ犯シ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和三年十一月十日ノ前日迄ニ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タルモノハ其ノ刑ニ處セラレタル爲喪失シ又ハ停止セラレタル資格ニ付復權ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法省訓令第八號

檢事局  
少年審判所  
矯正院  
刑務所  
少年刑務所

茲ニ 即位ノ大禮ヲ行ハセラルルニ當リ 詔書ヲ發シテ 恩赦ノ宗旨ヲ降シ給フ 仁澤宏溥覆載セザル所ナシ 嘉道奉行ノ任ニ膺リ感激措ク能ハズ 鞠躬盡瘁以テ 聖慮ニ奉對セムコトヲ期ス 司直ノ職ニ在ル者克ク此ノ意ヲ體シ 減刑令、復權令ニ該當スル者ハ皆其ノ 德澤ニ霑洽セシメ一人モ遺漏スルモノアラシムベカラズ又特定ノ者ニ對シテ行フベキ特赦、減刑ニ付テハ別ニ定ムル所ノ準則ニ照シテ慎重

一、減刑の恩典に浴し昭和四年五月二十日迄に釋放せし人員並に保護團體に於ける右に對する保護概況

京都事務所	上京區支所	宮津支所	減刑ニ浴シタルモノノ釋放數		管内及其他ノ保護團體ニ於ケル保護ノ概況	
			男	女	直接保護	間接保護
二二二	四	二	一九九	六	二二六	二二六
計	同	同	一九九	六	二四〇	二四〇

一、復權令による復權人員

種 別	男	女	計
特別特赦ニ浴シタルモノ	七三	四	七三
恩赦令ニ依リ復權ニ浴シタルモノ	一、六三八	四四	一、六八二
復權令ニ依リ復權ニ浴シタルモノ	一、六三八	四四	一、六八二
計	一、六三八	四四	一、六八二

稽查シ其ノ 恩典ニ浴セシムベシト認メタル者ハ速ニ狀ヲ具シテ裁ヲ請フベシ而シテ赦宥ノ 慈旨ヲ蒙リタル者ニ對シテハ懇ニ戒飭ヲ加ヘ又必要ナル保護ノ途ヲ講ジ之ヲシテ再ビ法禁ニ觸ルルガ如キコトナク永ク醇正忠良ノ民トナリ廣大無邊ナル 皇恩ノ萬一ニ報ユル所アラシムベシ

昭和三年十一月十日

司法大臣 原 嘉 道

第三節 恩赦に浴せし人員

右の勅令に基き、本府管内に於て恩赦に浴したる人員左の如し。

減刑令に依る減刑人員

計	京都事務所		上京區支所		宮津支所		計
	男	女	男	女	男	女	
三五五	三五五		五		二	六九	三六二
三五五		三五五	五		七	六一	三六二
計	三五五	三五五	五	五	七	六一	三六二

第六章 贈位、叙位、叙勳

第一節 贈 位

一 調査上申

第六章 贈位、叙位、叙勳

大典に付國家に勳勞ありて未だ贈位の榮を被らざるものに付其の勳勞を調査し事蹟を具して内申すべき旨を達せられ尙文部大臣農林大臣よりも同趣意の訓達ありたり即ち左の如し。

内務省發書第九號



昭和三年三月二十三日

内務次官

北海道廳長官殿  
府縣知事殿

贈位ノ件通牒

今般内閣總理大臣ヨリ今秋行ハセラルベキ即位ノ禮及大嘗祭ハ至尊  
一世ノ盛儀ニシテ我國民齊シク忠愛ノ至情ヲ捧ゲ寶祚ノ無窮ヲ禱ル  
ト共ニ深く思フ建國ノ由來ニ致シ國體ノ尊嚴ナルヲ仰ギ祖先忠誠ノ  
赤心ヲ繼承シ益々我國史ノ成跡ヲシテ永遠ニ光輝アラシメントテ  
冀フノ秋ニ有之此ノ機會ニ當リ古來邦家ニ功績アル者ニ對シ贈位ノ  
恩命ヲ降シ給フコト、相成候ハバ、世道人心ニ裨益スル所誠ニ尠カラ  
ザルベキ趣ヲ以テ當省大臣宛通牒ノ次第有之候ニ付テハ左記ニ相當  
シ功績永ク後代ニ垂レ大ニ國家ノ進運ヲ扶翼シタル者ヲ慎重精選シ  
來ル五月二十日マデニ其ノ事蹟ヲ具シ申請相成様致度  
追テ二省以上關係ノモノハ關係大臣連名宛申請書提出有之度

記

一、皇室國家ニ對シ精忠ヲ抽デタルモノ

内務省發書第九號

昭和三年三月廿三日

内務大臣官房文書課長

北海道廳長官殿  
府縣知事殿

依命通牒

今秋行ハセラルベキ即位ノ禮及大嘗祭ニ際シ贈位ノ儀別途通牒相成  
候處右申請ニ付テハ内閣ヨリ申出ノ次第有之左記事項御了知ノ上申  
請方可然御取計相成度

記

一、贈位申請書提出期限ハ本年五月二十日ナルモ可成其ノ以前ニ提  
出スルコト

二、贈位申請書ニハ左ノ事項ヲ詳記スルコト

(一) 氏名(俗稱、雅號、變名、諱等ヲモ併記スルコト)

(二) 既有位階勳等及其ノ敍年月日

(三) 生年月日

(四) 事蹟(惡行處罰等ヲモ併記スルコト)

(五) 死亡ノ年月日並其ノ原因(病死、變死、自殺、刑死等ノ別)

(六) 遺族ノ狀態

(七) 前各項ニ關スル調査ノ出處

三、提出書類ハ毛筆ヲ以テ楷書スルコト但シ鮮明ナルタイプライタ  
ーニ依リタルモノハ差支ナキコト

四、提出書類ノ用紙ハ美濃版ノ和紙ニ限ル但シ裏面ノ文字ノ透映ス  
ル如キ薄漉紙ヲ用キザルコト

五、提出書類ハ正副二通宛ヲ要スルコト

是に於て本府は之を知事官房事務に屬せしめ右通牒の趣意に基き左  
の如く市町村長及警察署長等に於て該當者を精査し内申すべき旨移牒  
せり。

祕々第一三〇號

昭和三年四月十一日

知事官房主事

市町村長宛  
警察署長宛

今秋行ハセラルベキ即位ノ大禮及大嘗祭ハ

至尊一世ノ御盛儀ニシテ我國民齊シク忠愛ノ至情ヲ捧ゲ寶祚ノ無窮  
ヲ禱ルト共ニ深く思ヒ建國ノ由來ニ致シ國體ノ尊嚴ナルヲ仰ギ祖  
先忠誠ノ赤心ヲ繼承シ益々我國史ノ成跡ヲシテ永遠ニ光輝アラシメ  
ンコトヲ冀フノ秋ニ有之此ノ機會ニ當リ古來邦家ニ功績アル者ニ對  
シ贈位ノ恩命ヲ降シ給フコト、相成候ハバ、世道人心ニ裨益スル所誠  
ニ尠カラザルベキ趣ヲ以テ左記ニ相當シ功績永ク後代ニ垂レ大ニ國  
家ノ進運ヲ扶翼シタル者ヲ慎重精選シ來ル本月廿五日迄ニ其ノ事蹟  
ヲ具シ内申相成度依命此段及通知候也

記

一、皇室國家ニ對シ精忠ヲ抽デタルモノ

二、文化風教ノ爲貢獻シタルモノ

三、殖産興業ノ爲盡瘁シタルモノ

四、贈位申請書ニハ左ノ事項ヲ詳記スルコト

イ、氏名(俗稱、雅號、變名、諱等)

ロ、既有位階勳等及其ノ敍年月日

ハ、生年月日

ニ、事蹟(惡行、處罰等ヲモ併記スルコト)

ホ、死去ノ年月日並其ノ原因(病死、自殺、刑死等ノ別)

第六章 贈位、叙位、叙勳

へ、遺族ノ狀態

ト、前各號ニ關スル調査ノ出處

此の如く通牒を發し市町村に於て該當者を調査せしめ其の調書に基  
き書類を作成し左の顧問囑託に功績調査方を依頼せり。

京都府大禮事務顧問 三浦 周行  
同 囑 託 西田直次郎  
同 和 田 不 二 男

一 贈位者發表

昭和三年十一月十日大禮當日本府關係者にして贈位又は敍位叙勳の  
榮典に浴したるもの左の如し。

贈正四位	故從四位下	高橋 宗直
贈正五位	故	錦織 俊政
贈正五位	故	森 寬 齋
贈正五位	故	若江 薰子
贈正五位	故	富士谷 專右衛門
贈從五位	故	野村 敷良
贈從五位	故	山本 縫殿
贈從五位	故	飯田 節翁
贈從五位	故	柴田 鳩翁
贈從五位	故	古川 吉左衛門
贈從五位	故	豊田 武兵衛
贈從五位	故	人見 龍之進



右贈位に關しては宗秩寮總裁より同日付を以て左の通本府に通牒ありたり。

特旨ヲ以テ位階追陞セラル  
故從四位下 高橋 宗直  
故正七位 森 寬齋

故 錦織 俊政  
故 若江 薰子  
故 富士谷專右衛門  
故 野村 敷良  
故 山本 縫殿  
故 飯田 節  
故 柴田 鳩翁  
故 古川 吉左衛門  
故 豊田 武兵衛

特旨ヲ以テ位記ヲ贈ラル  
故從四位下 高橋 宗直  
贈從四位 錦織 俊政  
贈正五位 森 寬齋  
同 若江 薰子  
同 富士谷專右衛門  
同 野村 敷良  
同 山本 縫殿  
同 飯田 節

同 柴田 鳩翁  
同 古川 吉左衛門  
故 豊田 武兵衛

右ノ通本日 宣下相成候條各其向へ傳達方御取計有之度贈位記并辭令ハ追テ可及回送候也

昭和三十二年十一月十日 宗秩寮總裁子爵 仙石 政 敬

京都府知事大海原重義殿

三位記傳達

十二月廿八日昭和四年一月十五日付を以て左の如く贈位者に對する位記及辭令を送付し來りたり。

昭和三十二年一月十五日

宗秩寮總裁子爵 仙石 政 敬

京都府知事大海原重義殿

贈從五位 人見龍之進

右昭和三年十一月十日附 宣下相成候ニ付贈位記並辭令及回送候條傳達方御取計有之度交付濟ノ上ハ受領者ノ氏名住所及其ノ者ト贈位セラレタル者トノ關係ヲ略記シ御通報有之度

此段申進候也

昭和三年十二月二十八日

宗秩寮總裁子爵 仙石 政 敬

京都府知事大海原重義殿

左記ノ者ニ對スル贈位記並辭令及送付候條各其向へ交付方御取計有之度交付濟ノ上ハ受領者ノ氏名住所及其ノ者ト贈位セラレタル者トノ關係ヲ略記シ御通報有之度此段申進候也

記

贈正四位 高橋 宗直  
贈從四位 錦織 俊政  
贈正五位 若江 薰子  
同 森 寬齋  
同 富士谷專右衛門  
贈從五位 野村 敷良  
同 山本 縫殿  
同 飯田 節  
同 柴田 鳩翁  
同 古川 吉左衛門  
同 豊田 武兵衛

候條本月十二日午前十一時當廳へ御參集相成度  
右通知候也  
昭和四年四月八日

京都府知事官房

贈正五位 森 寬齋 孫 森 愛一殿  
贈從五位 野村 敷良 嗣子 野村 敷明殿  
贈從五位 山本 縫殿 嗣子 山本 良行殿  
贈從五位 飯田 節 曾孫 飯田 高節殿  
贈從五位 柴田 鳩翁 養孫 柴田寅三郎殿  
贈從五位 古川 吉左衛門 後裔 古川 爲芳殿  
贈從五位 豊田 武兵衛 後裔 豊田 淺吉殿  
贈從五位 人見龍之進 孫 人見マサノ殿

右の外他府縣へ廻送の上傳達方依頼の分に對しては左記の通り夫々交渉廻送したり。

今般贈位ノ恩榮ニ浴シタル故「誰」ニ對スル贈位記並辭令及送付候條

左記ノ者へ御交付ノ上別紙受領證ニ記名捺印セシメ御回送相成度候也

昭和四年四月八日

京都府知事

島根縣知事殿

記

「錦織俊政」

島根縣簸川郡莊原村大字屋神庭四四六

錦織 一郎

而して贈位者と位記辭令を受領すべき後裔者との關係續柄を贈位者上申の市町村長をして調査せしめ、之が事實を得たるが、只高橋宗直は拜受すべき家系の人なきを以て、本府に於て贈位記を保管することゝなれり、昭和四年四月十二日を以て左の如く京都市内及府下在住の野村敷明外七名の後裔者を府廳に出頭せしめ知事より位記辭令を交付し、又後裔者の他府縣に在住するものに對しては、該府縣に回附し處分を了したり。

今般贈位ノ恩榮ニ浴シタル故(誰)ニ對スル贈位記並辭令傳達可相成



岐阜縣知事殿

記

「若江薫子」

岐阜縣古城郡國分村大字津江一七二三 若江文雄

東京府知事殿

記

「富士谷專右衛門」

東京市本郷區西片町一〇

富士谷修一

以上の如く贈位の件を了したるを以て同年五月三日を以て左の通宗

秩寮に報告せり。

昭和四年五月三日

京都府知事 大海原重義

宗秩寮總裁子爵仙石政敬殿

客年十一月贈位相成候錦織俊政外十一名ニ對スル位記及辭令別紙各後裔へ傳達シ高橋宗直ノ子孫ハ不明ニ付該位記及辭令ハ本府ニ保管可致候條御了知相成度右報告候也

四 贈位者略歴

左は本府より上申の贈位者にして、位記、辭令共下記の後裔者に傳達したるものなり。

位階	氏名	續柄	住	所	氏名
贈正五位	森 寬 齋	孫 二十二代	京都市岡崎入江町二一	森 愛 一	
贈從四位	錦 織 俊 政	孫 二十二代	島根縣鏡川郡莊原村大字屋神庭四四六	錦 織 一 郎	
贈正五位	若 江 薫 子	孫	本籍 京都市牛ノ宮町五 岐阜縣古城郡國分村大字津江一七二三	若 江 文 雄	
贈正五位	富士谷專右衛門	六代ノ孫	東京市本郷區西片町一〇	富士谷 修 一	
贈從五位	野 村 敷 良	嗣 子	京都市寺町通廣小路東櫻町六	野 村 敷 明	
贈從五位	山 本 縫 殿	嗣 子	京都市聖護院町字蓮華藏	山 本 良 行	
贈從五位	飯 田 節	曾 孫	京都市天田郡福知山町字篠尾一二七六	飯 田 高 節	
贈從五位	柴 田 鳩 翁	養 孫	京都市新町通二條上ル二條新町	柴 田 寅 三 郎	
贈從五位	古 川 吉 右 衛 門	四十代 孫	京都市乙訓郡羽束師村大字志水字野入	古 川 爲 芳	
贈從五位	豊 田 武 兵 衛	玄 孫	京都府綴喜郡草内村大字飯岡小字中峯	豊 田 淺 吉	
贈從五位	人 見 龍 之 進	孫	京都府南桑田郡馬路村大字馬路小路大橋十一番地	人 見 マ サ ノ	
贈正四位	高 橋 宗 直	子 孫	不明(位記、辭令、本府ニ保管)		

更に其の事蹟を略記すれば左の如し。

朝廷御厨子所預

故從四位下 高橋 宗直

元祿四年を以て從四位下に敘し若狭守たり制度に精通し 大嘗會の舊典に明らかなり著作亦之に關するものあり久しく其の儀を行はせられずして古制明かならず 櫻町天皇因て之を考査せしめらるるに當り關白藤原兼香の命を受け之に關する式典の事を記して 朝廷に上り是に於て東山天皇貞享四年十一月以來五十一年間中絶したる大嘗會は天文三年十一月を以て行はれ爾來即位の禮と共に大嘗祭亦行はるるに至りたり天明五年正月歿す。享年八十有三

笠置行宮侍將

故 錦 織 俊 政

山城の人なり元弘元年八月 後醍醐天皇笠置山の臨幸に際し徵せられて行宮の守護に任ず九月二十七日北條氏の軍火を 行宮に放つや二の丸に進んで防戦し賊兵の來て捕へむとするに及び賊中に突入して奮闘忠死せり。

幕末勤王畫家

故正七位 森 寬 齋

長州の人なり其の畫く所氣品高きを以て稱せらる勤王の志を懷き山縣有朋品川彌二郎に從遊し元治元年禁門の變後藩主の爲に盡力する所あり明治の代に入りて後帝室技藝員に擧げらる。二十七年歿す享年八十

昭憲皇太后入宮前侍讀

故 若 江 薫 子

明治天皇の女御選定に際し推薦の内議に與かる 尊王の念深く近衛家老女村岡等と共に志士の間に奔走して幕吏に捕へらるること再三なりしも屈せず明治十四年十月九龜に歿す。享年四十有七

京都國學者

故 富士谷專右衛門

京都の人なり其齡九歳の時來聘の韓人と筆談し機警韓人を驚愕せしめたり經史、皇學、國史、和歌を定め 皇學の諸研究に寄與する所大なり業を受くる者四方に遍ねし。歿するの時享年四十有三

舊丹波福知山藩老臣

故 飯 田 節

福知山藩勤王首唱の重臣たり、慶應の初藩の要職に在て、尊王の大義を唱へ慶應二年藩費の總裁藩務總裁となるや名聲志士の間に揚がる是の歳京都圓山の一茶亭に志士の會同ありし歸途幕邏の襲ふ所となり凶刃に斃る。享年三十有一

山城國綴喜郡飯岡村水路開鑿者

故 豊 田 武 兵 衛

飯岡村の人なり家産を投じ負債を積みて延長八百間の岩盤を掘鑿して暗渠となせり人之を萬年樋と稱す灌漑面積は二百五十町歩なるも山間に於ては鉅大なる富源の開拓者たり寛政六年七月歿す。享年七十有七



瀧口官人

故野村敷良

瀧口の官人を以て近宮に仕ふ嘉永七年偶々當番詰たりし時猛火皇居を犯すや賢所の御羽車を下鴨に奉遷し尋で孝明天皇の行宮聖護院に奉遷したり神道の冠婚葬祭を許され神前結婚式神葬式の源を開けり明治二十六年七月歿す。享年七十

富小路卿家士格

故山本縫殿

延臣富小路政直の家士格を以て勤王討幕の密議に參し安政五年疑獄起るや同志八十有餘名と共に獄に投ぜられ二月病篤きを以て家に歸り討幕を叫びつゝ病歿せり。享年六十有七

山城國乙訓郡羽束師川排水路開鑿者

故古川吉左衛門

羽束師村の祠官なり私財を投じて十有七年の歲月を閲し新鑿すること一里二十八町餘改修すること二十三町餘合計二里十六町餘の大土工を完成して郷村に鉅大なる惠澤を貽せり嘉永二年一月歿す。享年五十有七

京都心學家

故柴田鳩翁

京都の人なり心學道話の泰斗として其の著鳩翁道話と共に其の名世に知らる徳望高くして仁和寺宮を始め二三の藩主は親しく其の講話を傾聽するに至る天保の初め京都明倫舎に講話し更に修正舎を再

昭和三年十一月十日

宮内大臣從二位勳一等 一木喜徳郎奉

而して其の墓地は洛東南禪寺山内にあり、大海原知事を策命使として墓前に報告さるることとなりしを以て、昭和四年一月八日同墓地



策命使參向(南禪寺天授庵にる)

興す七八年の大飢饉には米錢を施與して窮民を賑恤せり十年歿す。享年五十有七

山陰道鎮撫總督麾下

故人見龍之進

丹波の國馬路郷は西園寺鎮撫總督山陰道に入るの第一歩に當る龍之進乃ち人見姓郷士總代を以て中川姓總代中川武平太と共に全郷士を率ゐる總督を迎へて其の麾下に直屬し丹波弓箭隊長を以て錦旗を奉じ山陰道諸藩を歸順せしむるに與かる鳥羽伏見の戰未だ訖らざるの時皇軍若し利あらずむば鳳輦龜山城に遷幸せらるゝの計畫なりしを以て總督の任務極めて重且大なるものあり龍之進等の率先其の麾下に參したるは鎮撫の使命に至大の關係ありしものとす明治三十一年一月歿す。享年六十有九

### 五 策命使參向

故從四位下横井平四郎(號小楠又は沼山)に對し、位階追陞の恩命あり、十一月十日付を以て宮内省より左の如く發表通達ありたり。

故從四位下 横井平四郎

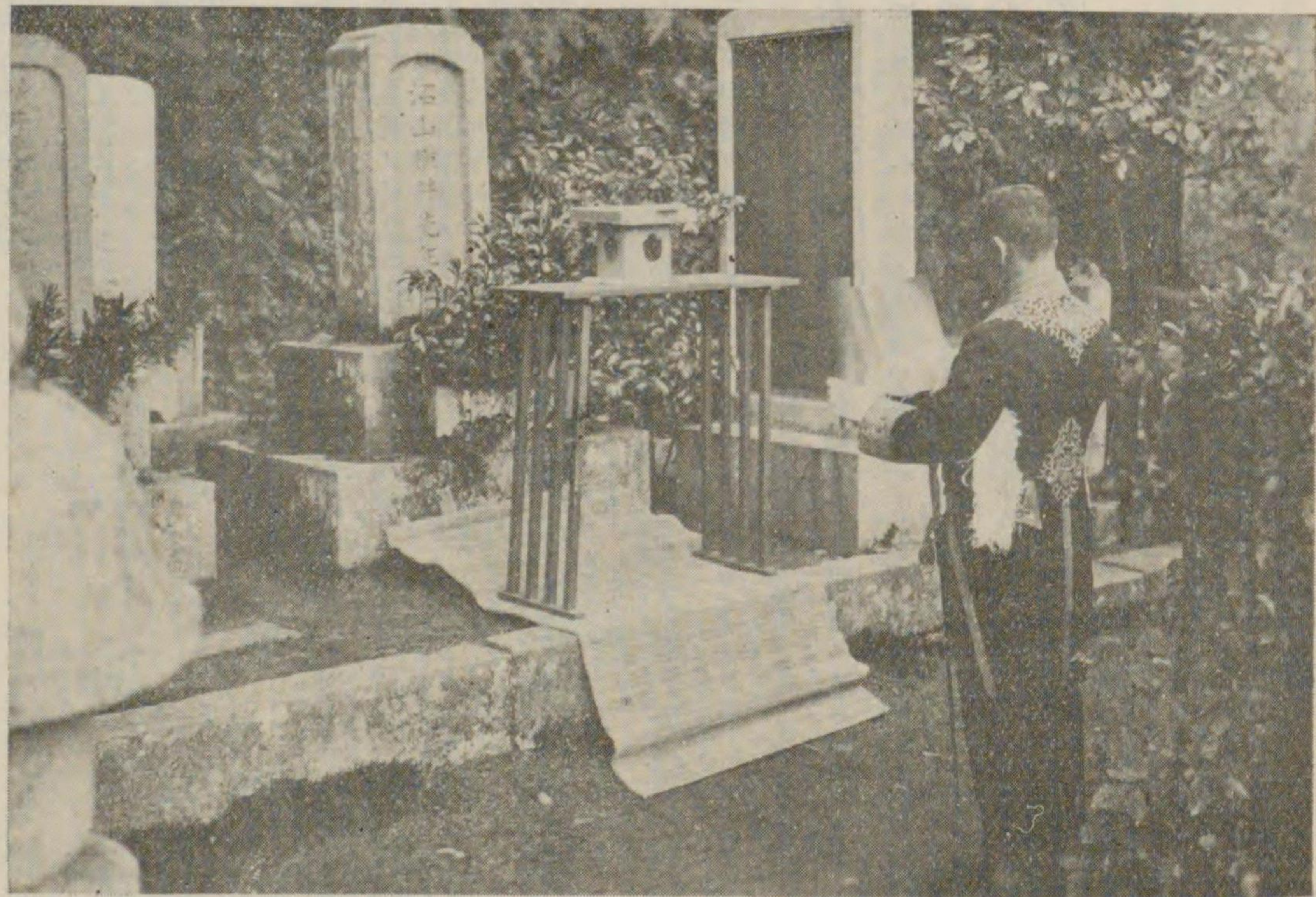
特旨ヲ以テ位階追陞セララル

昭和三年十一月十日

宮内省

故從四位下 横井平四郎

贈正三位



大海原策命使墓前に策命文を朗讀し報告

に於て策命使參向の儀を行ひたり。同日午前十時二十分大海原策命使は大禮服に威儀を正し藤田、竹中兩屬を從へ、黒川川端署長、白杉警部等に前後驅を護られて參進、故人の後裔横井直興氏(當時千葉縣警察部長)南禪寺住職等參列の下に左の順序により嚴かなる策命の儀を



行ひ、策命使は墓前に左の策命文を朗讀したり。

策命次第

- 當日早且墓前を裝飾す
其の儀墓前に簀薦を鋪き高案一脚を設く
時刻策命使休所に至る
時刻策命使墓前に進む
是より先き手水の儀あり
次に隨員位記を策命使に上つる使之を案上に奠す
次に隨員策命を策命使に上つる使之を宣す訖て案上に奠す
次に策命使退出

策命文

天皇乃大命爾坐世從四位下橫井平四郎乃墓前宣給汝命汝命夙久與外國乃交爾心手盡志殖産乃業爾力手効志明治乃初開行久世乃大謀與利事手宇牟賀志久思食志其乃功績手褒給而止今回特爾正三位手贈給比位記手授賜布是手以京都市知事從四位勳二等大海原重義手差遣如斯乃狀手宣給汝久宣留
昭和四年一月八日
斯くて式は十時三十分終了、策命使退下後、内務、學務兩部長、松村社寺課長等參拜したり。

第二節 叙位叙勳

一 功勞者調査上申

一 國家ニ勳功アルモノ
一、賜 杯

一 褒章條例第六條ニ該當スルモノ

是に於て本府は之を知事官房事務に屬せしめ、右通牒の趣旨に基き左の如く市町村長及各種團體長等に於て該當者を精査し、内申すべき旨移牒せり。

秘々第二〇五號

昭和三年六月七日

京都市知事官房主事

各種團體長殿

參考ニ資シ度候條現存者ニシテ殖産興業ノ爲ニ盡瘁シ功績最モ顯著ナルモノ有之候ハ、御精選ノ上功績ニ從ヒ順位番號ヲ附シ本月十五日迄ニ着ノ豫定ヲ以テ左記書式ニ依リ御提出相成度依命此段得貴意候也
追テ本件ノ調査ハ最モ機密ヲ旨トシ其ノ人員モ濫リニ多數ニ涉ラサル機御精選相成度期日迄ニ御提出ナキ時ハ該當者ナキモノト認メ取扱可致爲念申添候

書式(本書ハ一人毎ニ調製ノコト)

本籍

現住所

士族(平民)

何 之 誰
年 月 日生

一、性行及徳望

二、實業上ノ功績

創業ノ動機經歷及成績等(殊ニ事業ノ結果公共ノ利益ヲ擧ケ又ハ社會公共ノ利益ヲ圖リタルコトハ詳細)ニ亘リ記述ヲ要スルモ可成簡潔ニシ冗長ナラサル様注意ノコト

三、賞 罰

賞ハ重ナルモノノミヲ記載ノコト

第六章 贈位、叙位、叙勳

今回大典に付現存者にして國家に功績あり、其の功績授爵、叙位、叙勳、賜杯に値する者に付、其の勳勞を調査し事蹟を具して内申すべき旨を達せられ尙文部大臣、農林大臣、商工大臣よりも同趣意の訓達ありたり即ち左の如し。

内務省書秘第七〇號
昭和三年六月二日

内務次官

北海道廳長官殿
府縣知事殿

大禮ノ際行ハルル行賞ニ關スル件

大禮ノ際行ハルル行賞ニ關シ當省大臣ノ參考ニ資シ度候條御管下ニ於ケル現存者ニシテ其ノ功績授爵、叙位、叙勳、賜杯ニ値スル者有之候ハ、左記標準ニ依リ夫々御精選ノ上來ル七月二十日マテニ其ノ事蹟ヲ具シ内申書正副二通宛提出方御取計相成度

追テ本件調査ハ最モ機密ヲ要シ候ニ付此點特ニ御留意相成度尙内申ニ付テハ左ノ各號御參照相成度

(イ) 主トシテ營利事業ノ結果公共ノ利益ヲ擧ケタル者ハ叙位トシ専ラ社會公共ノ利益ヲ圖リタル者ハ叙勳トスルコト

(ロ) 行賞セラルヘキ者ノ範圍ハ民間功勞者ヲ主トシ在官者ハ特殊ノモノニ限り詮議スルコト但シ大禮使關係者ハ内申ニ及ハサルコト

(ハ) 内申スヘキ者ノ功績ハ嚴密ニ之ヲ調査シ濫賞ニ流レサル様努ムルコト

(ニ) 功績各省關係ノモノハ關係大臣連名宛トシ内申スルコト

(ホ) 行賞ノ種別ヲ明ニシテ内申スルコト
但シ詮議ノ結果之ヲ變更スルコトアルヘキコト

一、授爵及階爵
一 偉功ヲ建テ國家ノ進運ヲ扶翼シタルモノ
一、叙位、叙勳

注意 調査ハ美濃算紙ヲ用キ正確ニ記載シ統計等ニ付テハ特ニ注意ノコト
秘々第二〇五號
昭和三年六月七日

京都市知事官房主事

市町村長殿

參考ニ資シ度候條現存者ニシテ國家ニ勳功ヲ樹テ或ハ自治、文化、風教ノ爲メ貢獻シ或ハ殖産興業ノ爲メ盡瘁シ功績最モ顯著ナルモノ有之候ハ、御精選ノ上功績ニ從ヒ順位番號ヲ附シ本月十五日迄ニ着ノ豫定ヲ以テ左記書式ニ依リ御提出相成度依命此段得貴意候也

記 (各種團體へ移牒ノ全文ヲ掲グ)

二 叙位叙勳者發表

- 昭和三年十一月十日大禮當日府下に於て叙位叙勳の榮典に浴したるもの左の如し。
叙從六位 遠藤三郎兵衛
叙勳三等授瑞寶章 濱岡光哲
叙勳五等授瑞寶章 横田永之助
叙勳五等授瑞寶章 海老名彈正
叙勳六等授瑞寶章 島津源藏
尙叙位、叙勳者の功績を略記すれば左の如し。
勳八等 藤井音次郎

京都市上京區下長者町通室町西入
西鷹司町第十四番戸
從五位勳四等 濱岡光哲
嘉永六年五月廿九日生



我國最初の衆議院議員に選ばる後京都商業會議所の設置せらるるや推されて會頭となり一度辭任明治四十四年再び會頭に選ばれ昭和三年四月に至る實に職に留ること十七年其の間京都の産業興隆商工業の發達に身を盡し又吾國産業の興隆交通運輸教育等に力を致し業績顯著なり。

京都市上京區岡崎北御所町

横田 永之助

明治五年四月廿八日生

幼にして笈を東都に負ひ業を杉浦重剛の門に修め明治二十二年米國に留學し泰西の文物を研鑽し歸朝後産業の振興と文化の開發に志し特に外國映畫の輸入助長により國民思想に惡感化を與ふるに至るべきを憂ひ日本映畫の作製に苦心し明治卅八年に至り漸く成功し始めて我國史を題材とせる映畫を作り思を國民精神の作興と國產品の利用に致し國體に順應せる思想善導に適切なる映畫を製作し民衆娛樂の中に思想上に及ぼす影響を防遏し以て社會思想善導に努めた。

京都市上京區室町通上立賣下ル

海老名 正

安政三年八月二十日生

各地に於て基督教會の教化事業に奮闘、後大正九年同志社總長として學生の薫育に努力する傍ら各地方に於て講演を以て文化教育宗教思想の進展に貢献す。

り同年一月三十一日、内務省より左の通勳章の記送付し來りたるを以て同年二月九日夫々傳達し處分を了したり。  
昭和四年一月廿八日

授爵叙位叙勳(十一月十日)

御即位式當日、國家の功勞者に授爵叙位叙勳の御沙汰あり、其の重なる者左の如し。

陸 爵

子 爵 清浦 圭 吾  
同 後 藤 新 平

依勳功特陞授伯爵(各通)

授 爵

海軍大將 山下源太郎  
北海道帝國大學總長 佐藤 昌 介  
陸軍航空兵大佐 徳川 好 敏  
團 琢 麿

依勳功特授男爵(各通)

叙 勳

大勳位公爵 西園寺公望

授菊花章頸飾

伯 爵 山本 權兵衛  
元帥伯爵 奥 保 鞏

叙大勳位授菊花大綬章(各通)

其の他多數の叙位叙勳あり、故人には贈位の御沙汰を賜はり、孝子節婦なども表彰せられたり。

京都市上京區東洞院通押小路下ル  
船屋町四百二十番地

島 津 源 藏

明治二年六月十七日生

明治二十七年恰も教育普及の期にして各種理化學諸機械の需要を促したるを以て熱心研究之に應ず同二十年製作所の一部事業として蓄電池製造場を設け之が製造販賣を創む於茲單に理化學器械博物標本のみならず電気機械就中光線装置等の製造販賣をも開始し工業界に多大の裨益をなす。

京都市下京區六角通堀川西入  
岩上町七百二十四番地

勳八等 藤 井 音 次 郎

明治七年二月八日生

少壯にして家産を繼承するや勤儉力行能く産を治め富を致す平素義氣温情に富み其の人を信するや資金を貸與し業を営ましめ援助に吝ならず又警察、教育、慈善事業等に私財を寄附し社會公共の事業に精勵し不斷の熱誠と努力を捧けて功績尠からず。

三位記、勳章傳達

大禮當日敍勳になりたる横田永之助、藤井音次郎に對し、勳章を下賜されたるを以て、翌十一月十一日口頭を以て本人呼出の上、夫々傳達を了せり。其の他の者に對しては、關係各省より直接傳達せられたり。次で昭和四年一月十五日、遠藤三郎兵衛に對する位記送付越に付同日呼出の上傳達を了したり。越えて昭和四年一月廿八日、商工省よ

商工大臣秘書官

京都府知事殿

左記ノ者ニ對スル勳記今般下賜相成候ニ付別途及送付候條本人へ傳達ノ上領票ヲ徴シ回付相成度候也

記

濱 岡 光 哲  
島 津 源 藏  
石 原 廣 一 郎

右の内石原廣一郎は、本府より内申の者に非ざるも、製鐵原料鐵鑛石の供給等に關し、我邦製鐵業に貢献したる功勞並に海外企業に關する功績に依り、勳六等に敍せられたる者にして、原籍が本府紀伊郡吉祥院村に在るを以て送付し來りたるものなり。

昭和四年一月三十一日

内務省文書課長

京都府知事殿

左記ノ者ニ對スル勳記及送付候間傳達方御取計相成度

記

藤井音次郎 外一名

第三節 褒章、賜杯、表彰

一 褒章、賜杯

大禮に際し現存功勞者として本府より上申せし内、左の者に對し頭



書の褒章並に金銀杯夫々下賜せられたり。

- 緑 綬 褒 章 昭和三十二年十一月廿三日 池田有藏
  - 同 清水六兵衛
  - 藍 綬 褒 章 同 稻垣恒吉
  - 同 福井繁太郎
  - 緑 綬 褒 章 昭和三十二年十一月廿五日 菅野松次郎
  - 銀 杯 一 組 昭和三十二年十二月五日 後川文藏
  - 金 杯 一 箇 昭和三十二年十二月廿二日
- 次で昭和三十二年十二月十九日商工大臣秘書官より褒章拜受者に對する褒章を送付し越たるに付、同年同月二十六日午前十時本人を呼出の上夫々傳達せり。越えて昭和四年二月十八日、商工大臣秘書官同二十一日内務大臣官房文書課長より杯拜受者に對する金杯銀杯送付越に付同二十六日日本人呼出の上夫々傳達を了したり。

京都市上京區小川通今出川上ル中川町

池田有藏

夙に織物業の振興に意を致し刻苦精勵製織器具を考案し或は動力使用の範を示して西陣織の改善を促し更に苦心研究實織外數種を考案し其他西陣織物同業組合副組長及組長に推されて鋭意職務に盡瘁する等斯業の發展に寄與せる功績尠からず洵に實業に精勵し衆民の模範たるものとす。

京都市下京區五條橋東五丁目

清水六兵衛

夙に陶磁器業に従事し率先圖案の改良科學力の應用に意を注ぎ或は

マジヨリカ製法を完成する等一新機軸を出し以て斯業の向上發展に竭力せる功績尠からず洵に實業に精勵し衆民の模範たるものとす。

京都市上京區竹屋町通猪熊東入仲之町

稻垣恒吉

資性温厚夙に稻垣合名會社を組織し推されて社長となり鋭意事業の發達に努め又苦心研究屑繭利用の縮緬製織法を案出して斯業に貢獻し其他各種の會社を經營し或は公職に盡す等洵に公衆の利益を興し成績著明なりとす。

京都市下京區醒ヶ井通松原上ル住吉町

福井繁太郎

夙に友仙染業の改善を圖り率先外國染料を攻究し或は圖案研究の必要を唱へ友仙染の進歩改良を促し其他レース模様染付の方法を案出し斯業の振興に寄與する等洵に實業に精勵し衆民の模範たるものとす。

京都市下京區中堂寺橋筋町

菅野松次郎

夙に染業の改善に意を致し幾多の發明を完成し斯業の發達に貢獻する所多し爾來更に苦心研鑽金巾友仙及着尺物の捺染加工を創始し克く市場に聲價を博し斯業の爲めに竭力せる功績尠からず。

京都市上京區烏丸通上長者町下ル龍前町

後川文藏

夙に新聞事業が公共機關として社會文化の進展國家の隆昌に資すべ

きものなることに着目し同時に新聞の發達が其の唯一の財源たる廣告業の隆否如何に甚大なる關係を有することを看破し全國に率先し廣告仲介業に着手し京華社を創立し一面京都通信社を創設す、其後京都日出新聞社に關與し、其の經營の衝に當り、爾來拮据經營、日進の時勢に順應して適切な施設を誤らず、京都の文化促進社會公共の事に盡瘁し斯業の爲に竭せる勞功尠からず。

一 教育功勞者表彰

十一月十日の御即位禮當日、多年教育事業に従事し、勵精其職に盡し功勞顯著なる者として文部大臣より表彰せられたる京都府下の教育者は五十八名にして其職氏名は左の如く決し、即位禮當日付を以て文部次官より本府知事に通知ありたり。

(イ) 一般教育

- 師範學校長 川面松衛
- 女子師範學校長 高柳竹四郎
- 桃山高等女學校長 中山再次郎
- 京都第二中學校長 荻原忠作
- 京都第二高等女學校長 谷岡安三郎
- 京都第一中學校教諭 小澤信吉
- 京都第二高等女學校教諭 今大路復三
- 京都第一高等女學校教諭 吉田恒三
- 師範學校教諭 平山政道
- 京都第一高等女學校教諭

- 立命館中學教諭 平川松喜
- 同志社中學教諭 弘中又一
- 華頂高等女學校教諭 今井成宣
- 花園中學校教諭 吉岡吟藏
- 京都淑女高等女學校長 田島教惠
- 菊花高等女學校教諭 渡邊わか
- 京都日彰尋常小學校訓導兼校長 大田原邦太郎
- 京都市京極尋常小學校訓導兼校長 田村作太郎
- 京都市城巽尋常高等小學校訓導兼校長 岩内誠一
- 京都市朱雀第一尋常高等小學校訓導兼校長 山岡爲
- 京都市第二待風尋常小學校訓導兼校長 河村秀雄
- 京都市彌榮尋常小學校訓導兼校長 宮谷文三郎
- 京都市立誠尋常小學校訓導兼校長 加地鯉之助
- 京都市小川幼稚園保母 秋田數馬
- 葛野郡嵯峨尋常高等小學校訓導兼校長 松原耕造
- 葛野郡梅津尋常高等小學校訓導兼校長 中島友三郎
- 葛野郡八幡尋常高等小學校訓導兼校長 小幡小長
- 葛野郡青谷尋常高等小學校訓導兼校長 小中公正
- 綴喜郡八幡尋常高等小學校訓導兼校長 川本鹿三郎
- 綴喜郡青谷尋常高等小學校訓導兼校長 服部市之助
- 綴喜郡八幡尋常高等小學校訓導兼校長 林捨次郎
- 綴喜郡青谷尋常高等小學校訓導兼校長 本多万次郎



- 新井 万太郎
- 浦 辻 弘幸
- 笠井 彌太郎
- 大 槻 直一
- 園 田 佐太郎
- 中 井 吉藏
- 梅 垣 喜藏
- 中 村 林太郎
- 吉 田 秀藏
- 水 上 信太郎
- 永 雄 貫一
- 高 谷 長治郎
- 仲 谷 倉松
- 稻 垣 藤二
- 德 田 辰男
- 小 津 野 芳太郎
- 大 河 内 一 郎
- 衣 川 虎 三 郎
- 藤 井 雅 二
- 戸 川 治 三 郎
- 井 手 力 之 助

(口) 社會教育

- 少年團京都地方聯盟理事長
- 白川學園長
- 私立酬恩學校長
- 私立吉岡塾長
- 府立京都圖書館長
- 伏見圖書館監事
- 同
- 尚右功勞者に對して表彰狀と賞品(視箱一個宛)を授與されたるにつき十二月二十二日午前十一時被表彰者を府廳に召集し、正廳に於て嚴かなる傳達式を舉げ、知事よりそれら傳達する所ありたり。
- 參照
- 右功勞者は文部省の通達に基き、大體左記の資格を標準として調査したるもの、中より詮衡決定したるものなり。
- 第一 官公私立ノ學校及幼稚園ノ學校長、園長、教員、保姆ニシテ三十年以上勤続セル者
- 第二 男女青少年團體、圖書館其ノ他社會教育ニ關スル事業ニ從事スルコト多年(大體十五年以上)其ノ功績顯著ナル者
- 奉 祝
- 菊盛りかしこき御儀嚴かに  
おろがむや行幸のみ旗高光る  
賤しきも衣紋つくるひ菊かざし  
瑞籬の菊に燈しのいちじろく  
萬燈の菊にかゞやく都かな
- 五十崎杏冲
- 中野 忠八
- 脇 田 良吉
- 長岡 常次郎
- 吉 岡 時藏
- 北 畠 貞顯
- 野 村 彦次郎
- 平 木 政次郎

三 社會事業家表彰

御大禮に際し内務省にては社會事業功勞者を表彰すること、なり、之が候補者取調方に關し昭和三年十月内務次官、地方局長、社會局社會部長等より數次の照會あり、本府にて慎重調査を重ねたる上、數名の候補者を豫選して上申したるところ、同年十一月十日即位禮當日を以て社會局社會部長より左の如く田中、藤岡の兩氏表彰の選に入りたる旨の通牒に接したり。

社會事業功勞者表彰ニ關スル  
件依命通牒

今般御大典ニ際シ社會事業功勞者トシテ貴管下左記ノ者ニ對シ内務大臣ヨリ表彰相成候條傳達方可然御取計相成度  
追而表彰狀及銀牌ハ不日可及送付候ニ付御了知相成度

田 中 泰 輔  
藤 岡 圓 治 郎

右兩氏に對する表彰狀と銀牌は翌四年一月十二日社會局より送付し來りたるにつき、二月十一日紀元節當日を以て府廳正廳に於て嚴肅なる傳達式を舉行し、知事より各本人に傳

大禮行賞敘勳賜杯(府市關係者)

御大禮に參與又は奉仕して直接間接に功勞ありたる官公吏等に對し、敘勳其の他恩賞の御沙汰あり、大禮終了の翌月たる、昭和三年十二月二十八日を以て發表せられたるが、其の中京都府、市に關係ある人々を擧ぐれば左の如し。

- 敘勳ノ部
- 從四位勳三等 大海原重義
- 從五位勳六等 石田 馨
- 同 池田 清
- 敘勳五等授雙光旭日章(各通)
- 從 六 位 上 田 誠一
- 同 清水 重夫
- 敘勳六等授單光旭日章(各通)
- 同 土肥 米之
- 敘勳六等授瑞寶章
- 正七位勳六等 高落 利市
- 敘勳五等授瑞寶章

達する所ありたり。

社會事業功勞者として表彰の名譽を擔ひし兩氏の略歴左の如し。

- 京都市上京區岡崎最勝寺町 醫師 田 中 泰 輔
- 慶應元年五月廿七日生
- 一、學歷 明治廿二年十一月大阪高等醫學校ヲ卒業シ同年十二月京都ニテ開業
- 二、業績 明治廿三年二月同志數名ト平安德義會ヲ主唱創立シ、同廿六年六月平安德義會孤兒院ヲ設立シ其ノ院長ニ推薦セラレ爾來重任ス。爾來京都市常設衛生委員、京都市會議員、下京區第四學區々會議員、財團法人平安德義會理事、京都市日彰尋常小學校々醫、京都市臨時傳染病豫防委員、京都市常設衛生委員、東宮御慶事奉祝會評議員、京都府衛生會評議員、京都感化保護院評議員、京都府衛生會評議員、京都奉公義會幹事、京都府教育會評議員、下京區第四學區學務委員、平安養育院幹事、大日本武德會地方委員、京都尚武義會理事、同仁會京都支部委員、中央慈善協會京都支部幹事、京都府慈善協會理事、京都府社會事業協會理事、京都市日彰分會名譽會員等各團體ノ要職ニ當選又ハ囑託セラレ、中ニハ既ニ辭シタルモノアルモ、現存ノモノモアリ、大正八年平安德義會第一保育園ヲ設置シ、其ノ園長



ニ推薦、同十一年六月平安徳義會第二保育園設置セラル、ニ及ビ又其ノ園長ニ推薦、同十四年一月京都府醫師會醫事調査委員ヲ囑託、同十五年四月京都府親和會協議員ヲ囑託セラレ共ニ現任ス。

右ノ如ク各種ノ公職ニ就キ其ノ活動見ルベキモノアルモ、特ニ平安徳義會ノ設立ニハ多大ノ努力ヲナシ孤兒院ノ經營ニ止マラズ窮民救助、二保育園ノ建設ヲナシ沈滞セル社會事業界ニ非常ナル好影響ヲ與ヘタリ。

三、賞賜 大正十三年社會事業功勞者トシテ表頒セラレ御紋章附銀盃並ニ金貳百圓ヲ受領ス、同十四年四月東京新宿御苑觀禮會ニ召サレ夫婦共ニ御陪宴ノ光榮ヲ得。同年五月京都府正廳ニ於テ攝政宮殿下ニ拜謁ヲ賜ヒ御菓子ヲ受領ス。其ノ他木村、賞狀ヲ受クルコト數回。

四、其他 資性謹直慈惠心ニ富ム。大阪醫學校卒業前ヨリ慈善事業ノ志アリテ業成リ歸洛スルヤ、醫業ヲ開クト共ニ同志ト相謀リ平安徳義會ヲ興シ施米、施藥、表彰、講演等ヲナス。後孤兒、保育事業ノ甚ダ緊要ナルコトヲ認ムルヤ専ラ之ニ力ヲ致シ現今ニ至ル。御大典記念事業トシテ父祖以來貯藏セル書畫骨董品ヲ賣却シ之ヲ以テ來蘇館ヲ建設シ之ヲ徳義會ニ寄附スルト共ニ會ノ承認ヲ得テ自ラ之ニ入り同會ノ管掌ニ當レリ。

三、賞賜 氏ノ改善事業功勞ニ對シ學區ヨリ三ツ組銀盃ヲ贈ル。昭和三年二月十一日中央融和事業協會長男爵平沼駈一郎氏ヨリ融和事業ノ功勞ニ對シ感謝狀並ニ記念品ノ贈與アリ、同年五月一日社會事業資金ヲ寄附シタル廉ニヨリ京都府知事ヨリ感謝狀ヲ受ク。

四、其他 資性聰明敏活ニシテ公共心ニ富ム、京都市東七條ナル地方改善地域ノ出身ナルガ、氏ハ常ニ融和事業ハ先ヅ區民ノ改善ヲ圖ルコトヲ以テ其ノ根本ナリトシ、同地方ノ改善ニ關シ寢食ヲ忘レ衆愚ノ嘲罵ヲ意トセズ劃策經營スル所尠カラズ、自ラ私費ヲ以テ各關係ノ主務省ニ出頭シ之ガ促進運動ヲナスコト數次ニ及ビ、其ノ功ニヨリ

京都市下京區東七條下之町二番地ノ三

郵便局長 藤 岡 圓 治 郎

明治十三年十二月三十日生

一、學歷 明治廿四年柳原尋常小學校卒業、同卅二年北海道鷺泊高等小學校中等科卒業

二、業績 明治三十三年九月柳原町役場書記會計係ヲ命ゼラル。同三十六年三月依願退職ス。大正三年九月柳原町役場書記會計稅務調度收入役代理助役トナル。大正七年三月京都市ニ編入ニ付自然退職、自來左記ノ名譽職ニ從事ス。

公同組合長、衛生組合長、京都市設業仁託兒所相談役、下京區第三十八學區々會議員京都市設浴場相談役、京都府方面委員、京都府親和會協議員、失業調査委員、學區會副議長、京都府方面常務委員、京都親和會理事、京都市設隣保館相談役

殊ニ地下道新設ニ關シテハ鐵道省ニ、下水道改修工事ニ關シテハ内務省社會局へ自費ヲ以テ東上、夫々當局ニ了解ヲ求メ其ノ速成ヲ見ルニ至レリ、之等地區改善ノタメ新設改修ニ各關係當局ノ支出セル金額ハ實ニ二百萬ニ達セルヲ見ルモ如何ニ氏ガ多大ノ活動ヲナセシカヲ察スルニ餘リアリ。尙又墓地整理賣却金ヲ學校建築費ニ充當シ尙ホ八條通ノ新道開通ニ就テハ氏ノ力ニ待ツ所多ク地方改善事業ニ竭スコト前後十五ヶ年ニ及ベリ。

敍勳八等授瑞寶章(各通)

久家 一夫  
根垣 誠之  
清水良太郎

授雙光旭日章

加藤 雄吉

敍勳六等授瑞寶章(各通)

廣瀨 林也  
坂 川 新 作  
同 佐野 一 男  
同 黒川 信 彌  
同 坂 信 彌  
正七位勳七等

敍勳二等授瑞寶章

土岐 嘉平

賜 杯 ノ 部

中村 尙武

銀杯一組ヲ賜フ

藤原 孝夫

中野 善敦  
中村國太郎

地方警視從六位  
勳六等功七級

岡田 佐藏

地方警視  
從七位勳六等

村 上 巖

地方警視  
從七位

今江米太郎

地方警視  
正八位

山田 富次郎

銀杯一箇ヲ賜フ(各通)

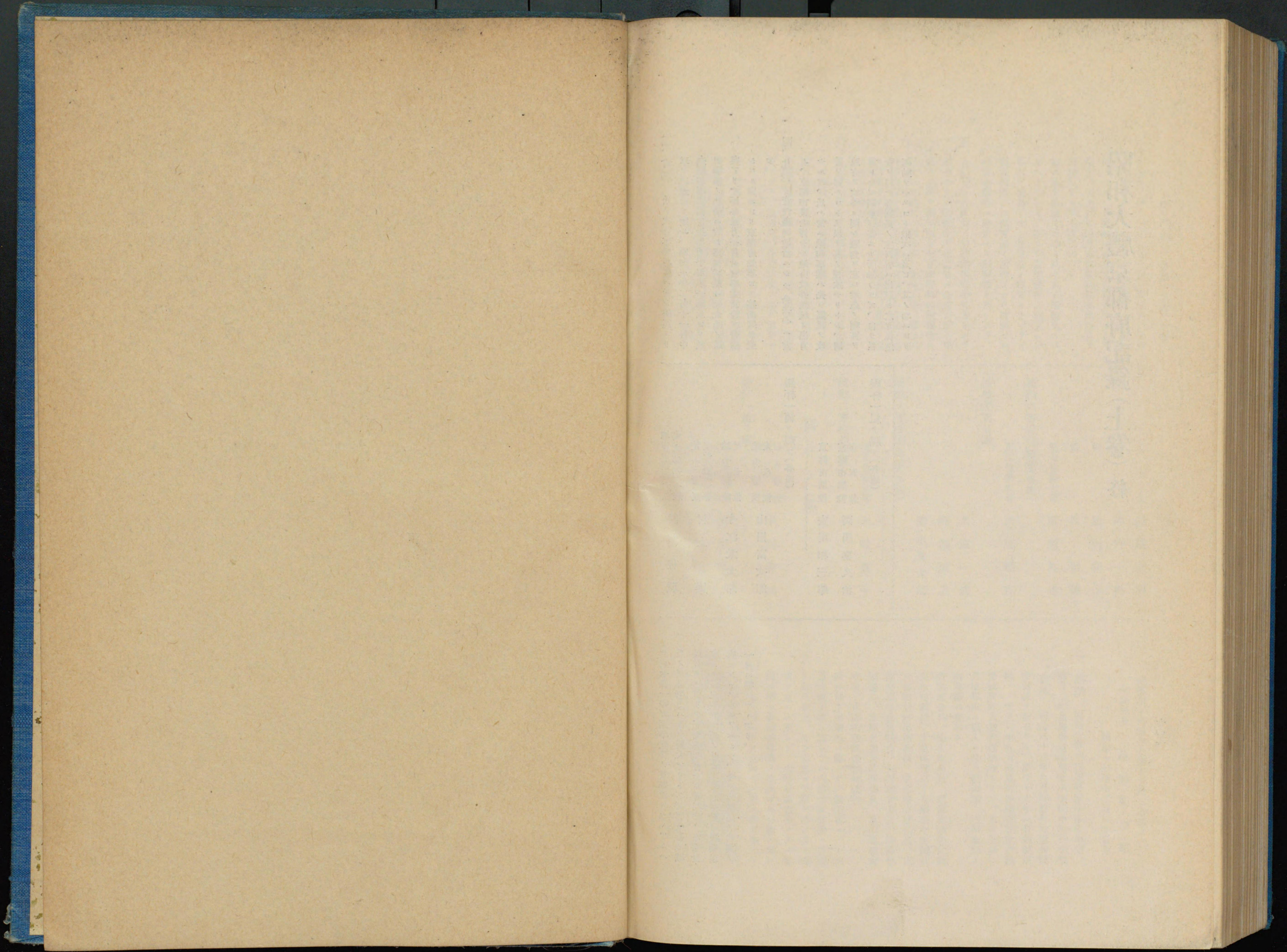
安川 和三郎

岡田 喜久治

銀杯一組ヲ賜フ(各通)

テ東七條一帶ガ逐年改善ノ實舉ガリツ、アルハ氏ノ奮闘努力ニ俟ツ所大ナリトス。要改善地域民有志相謀リテ同氏後援會ナル藤岡會ヲ組織發會シタルガ是即チ氏ノ社會事業的活動ノ後援助成セントスルモノニシテ、今ヤ地域民ノ衆望ヲ一身ニ擔ヒツ、アリ。







140

281



